

真庭の

人びと

vol.2



目次

蒜山

P105 ~

新庄村

P125 ~

湯原

P94 ~

美甘

P79 ~

久世

P52 ~

勝山

P38 ~

落合

P17 ~

北房

P5 ~

真庭
人びとな

P144 ~



ごあいさつ



岡本 康治

観光地域づくりマネージャー

真庭の観光資源である『人』をご紹介する『真庭の人びと』第二弾をお届けできることを、嬉しくありがたく思います。今回は真庭以外にお住いの、真庭に深く関わっていたり魅力あふれる方々にもご登場いただき、さらに真庭の魅力をお届けできる冊子となっています。この冊子を手には、『光』る『人』を『観』に、広く豊かな真庭を巡っていただき、真庭の人の繋がりを楽しんでいただければ幸いです。



三村 伸行

観光地域づくりマネージャー

真庭のどこが好きですか？。私は「真庭の人びと」が大好きです！。本誌には、少々クセが強めで、割とおせっかいで、とても楽しくて魅力的な真庭の人びとが掲載されています。スタンブラリーのように一人ひとりに会いに行く、きっと楽しい出会いと発見がありますよ。真庭らしさが詰まった旅の手帳として、何か困った時には力を貸してくれる相談手帳として、つながりが深まるHAPPYな手帳をバッグに常備しておいてくださいな！。



谷本 吉照

観光地域づくりマネージャー

「真庭の人びと」2022が完成し、多くの方に手に取っていただきました。冊子を手にとられた方からは、「掲載されている人にかいに行って来ました」「これからこの地域に観光に行くので、この人が居るお店に寄ってみますね」とお声をいただきます。初めて手に取る方へは、観光地の案内と一緒に、その地域の人や活動を紹介するアイテムにもなります。この冊子ができた事により、「人」の点が、「繋がり」という線になり、「真庭」という面になりました。『真庭は人が観光資源』この言葉の意味は、真庭に遊びに来られたらきっと分かります。



磯田 光一

観光地域づくりマネージャー

観光といえば名所旧跡を訪ねたり温泉に浸かったりと、様々な楽しみ方がありますが、そこにもう一つ、地域の人との出会いを加えられたらより深い思い出の旅となるのではないのでしょうか。真庭の魅力は人の魅力。そんな想いで真庭の素敵な人びとを紹介させていただきますました。真庭を訪れる際にはこの本を携えて、行く先々で出会えるかもしれない人びととの触れ合いも楽しんでいただけましたら最高です。

発行に寄せて



石賀 幹浩

一般社団法人 真庭観光局 理事長

「たった100万年のおくりもの」というブランドコンセプトのもと、真庭観光局は「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」に邁進しております。この言葉には、100万年前の大地の営みから授かった豊かな恩恵を次世代へ繋ぎ、持続可能な地域を発展させていくという決意が込められています。

私たちは、数ある観光資源の中でも「人」を最も重要なものと位置づけています。真庭の豊かな自然や文化を育み、地域の魅力を形作っているのは、そこで暮らし、活動する一人ひとりの「人」に他ならないからです。

おかげさまで、真庭の多様な魅力を紹介する冊子「真庭の人びと」は、このたび第2弾をお届けする運びとなりました。今回は、前回よりもさらに多くの魅力的な方々にご登場いただいております。掲載しきれないほど多彩な方々が活動するこの真庭において、「人」と「人」との繋がりこそが、新たな活力を生む最大の観光資源であると確信しています。

本誌を通じて、地域内外に交流の輪が広がり、真庭の地が100万年の水の流れのように永く発展し続けることを心より願っております。



三原 鉄平

公立大学法人 岡山県立大学 デザイン学部 教授

岡山県立大学は、公立大学として地域連携教育をミッションの一つに掲げています。本学が地域連携活動を強化するタイミングで、当時立ち上がったばかりの久世のまちづくり団体「まにワッショイ」さんとのご縁をいただき、2014年に「まにワッショイ基本台帳（久世版）」という小さなメンバー紹介冊子を、当時のゼミ生とともに作りました。このとき久世版と銘打っていたのは、いずれ真庭エリア全域に波及することを願ったことです。

2022年には、いよいよ全域版となった「真庭の人びと」冊子の制作に関わらせていただきましたが、その企画の発端となっていたのは、かつての「まにワッショイ基本台帳（久世版）」でした。

このたびの第2弾の制作においても、再びゼミ生と共に関わらせていただき、第1弾より多くの方々をご紹介させていただくことができました。さらには真庭地域在住にかかわらず、真庭にご縁の深い方々も合わせてご紹介をさせていただきます。

世の中はわずか5%程度の変化によって、大きく変わったと実感できるような気がします。いつか真庭市全人口の5%の方々を紹介できれば、世界が変わって見えることでしょう。

真庭基本情報

真庭市は、岡山県北部で中国山地のほぼ中央に位置しており、北は鳥取県に接し、東西に約30km、南北に約50kmの広がりを見せています。

平成十七年三月三十一日に、当時の真庭郡勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村及び上房郡北房町の九町村が合併して誕生しました。現在は市役所のある「久世」と、「北房」「落合」「勝山」「美甘」「湯原」「蒜山」の六つの振興局に編成されています。

真庭郡である新庄村は、明治五年の村政施行以来一度の合併もなく、大字のないのが特徴です。

新庄村

岡山県の西北端に位置し、古くは出雲街道の宿場街「新庄宿」として栄え、旧出雲街道は今も当時の面影を残す風情ある通りとなっています。

総面積…67.11km²
人口…753人(令和8年1月31日現在)

真庭市

岡山県の約11.6%を占める県下で最も大きな自治体です。気候は年間を通じて比較的穏やかで、台風や地震などによる災害も総じて少ない地域です。

総面積…約828km²
人口…39,792人(令和8年2月1日現在)

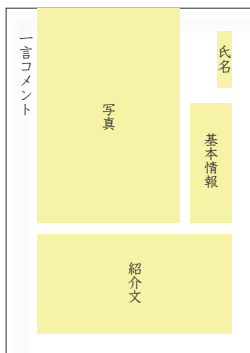
冊子概要

「真庭の人びと」は、真庭の魅力的な人びとを紹介する冊子です。観光地域づくりマネージャーの推薦を元に、ご同意を得られた方々を掲載しています。

令和七年の八月から令和八年の二月にかけて、岡山県立大学デザイン学部の学生と真庭観光局のスタッフが、取材、撮影、編集、デザインを行い、真庭在住の作家、甲田智之が紹介文を執筆しました。

この冊子は「真庭の人びとを知る教科書」をコンセプトとして編集をしています。各ページの手書きの文章は、掲載者の方からのコメントですが、掲載者ご本人の筆跡ではありません。「教科書の落書き」をイメージして大学生が描いたものなので、読みにくいかもしれません。意図したものととして、ご了承ください。

この冊子を手にとっていたただいた皆様に、新たな出会いや地域の再発見のきっかけとなれば幸いです。



北房





たにもと 谷本 よしのぶ 吉照

きよとうカフェ

〒716-1433
真庭市下岩部 1700
Tel : 080-5758-5151
Instagram : @kiyoto_cafe



きよとう果樹園に併設された果樹園カフェ。生産者さんが丹精込めて育てた、桃・ぶどう・梨・イチゴなど季節の果物を、美味しいスイーツとして楽しめます。人気のテラス席では、ぶどう園を眺めながらゆるりとした時間をお過ごしいただけます。

甘い果実のように、世の女性たちを引き寄せる。通称「モッツ」は、水も滴るいいオトコ。その正体は、おいしい旬のフルーツで女性だけでなく男性も虜にする、「きよとう果樹園」に併設された果樹園カフェ「きよとうカフェ」のオーナー。

カフェのオーナーなのに、朝が弱くて、コーヒーが飲めないという可愛い一面を持つ。はにかんだ笑顔もたまらない。そうかと思えば、いつもシックな黒コーデで身を包み、怪しげな大人のオトコの雰囲気もまとう。そして夜な夜な久世の商店街に出没しているらしい。紳士的な気づかいで、となりに座った女性（男性も）の心拍数を上げる。もはや「モッツ」という名の魅惑のフルーツ。

しかもドラムを叩くバンドマンというダメ押し。ドラムを叩くときのランニングシャツ姿は反則レベル。観客席からカメラのシャッター音が鳴り響く。ただしつは、本人は裏方でありたいと願っている。事実、真庭の名だたるイベントで企画や運営などの裏方を担当。イベントを支える仕事もしている。「きよとうカフェ」に行けば、そんなモッツさんに会える。会いに行けるモッツ。

果樹園ならではの、おいしい果物とスイーツをお楽しめください。



おちのぼる 落昇

株式会社落酒造場

〒716-1433
真庭市下菅部 664-4
Tel : 0866-52-2311
Fax : 0866-52-4495
HP : <http://taishonotsuru.com>



清酒「大正の鶴」蔵元 落酒造場。
1893年（明治26年）真庭市下部
（旧上房郡北房町下部）に良質な水
を求めて初代落真太郎が酒造業を創
業。蔵周辺は岡山県指定天然記念物
の鍾乳洞が複数あり、日本一のホタル
の乱舞が見える備中川の地下から
くみ上げたカルシューム等ミネラル
を多く含む「中硬水の天然水を生か
す酒造り」が蔵のこだわりです。

むかしから人前で話すのがどうにも苦手。極度に緊張してしまふ。もう
穴があったら入ってしまいたい。代わりに酒蔵に入ってかれこれ十五年以
上。明治二十六年創業、清酒「大正の鶴」蔵元の落酒造場五代目。杜氏も
務めている。

方向音痴で迷っちゃう、歌もちちょっと外しちゃう音痴さん。じつはお酒
にも弱く、あまり量が飲めない。そんな放っておけない、とにかく愛すべ
きキャラクター。ただ、香りと音にはとても敏感。微生物が発酵するちよっ
とした香りと音を聞き分け、嗅ぎ分ける。発酵して香りが変わった瞬間が
とにかくうれしい。理想のお酒に近づいていく道は決して外さない。もち
ろんわずかな音も聞き逃さない。

北房といえは、硬水。ミネラル豊富な硬水を生かした酒造りに励んでい
る。子どもの頃から酒造りに興味があつて、熱意も人一倍。東京農業大学
農学部醸造学科出身。趣味も、野菜炒めをちよつとつくるぐらいで、と
にかく酒造りにまい進している。初代の落真太郎が良質の水を求めて、北
房の下菅部（しもあざえ）に創業して以来、変わらない蔵のこだわりを守
り続けている。



ひらいずみしげる 平泉 繁

きよとうファーム
株式会社

〒716-1433
真庭市下喜部 1700
Tel : 0866-52-4233
Fax : 0866-52-5152
HP : <https://kiyotofarm.wixsite.com/home>



清藤果粉園にある直売所です。新鮮な農産物（フルーツ）に贈り手&作り手の想いを載せてお客様にお届けします。ここに頼めば間違いない。皆様の（とっておきの店）を目指しています。

真庭に移住して、気づけば二十五年以上。北房のきよとう果樹園で絶品のブドウや桃、梨などを育てているタフガイ。大阪でデスクワークのシテムエンジニアをしていたのが信じられないぐらい、体力があり余っている。あり余り過ぎて「趣味は仕事！」と断言するほど。野球やバスケット、ラグビーと若い頃にスポーツマンだった血がいまだに騒いでいる。負けず嫌いで、「誰かがやっているのだから、自分でもできるはず」と農業を続けてきた。

スポーツで脳も鍛えられたのか、はたまたいつも首に巻いているタオルに何か秘密が隠されているのか、ユニークなネーミングのアイデアが止まらない。きよとうさんから送られてくる「シャインマスカット」の品名は「社員マスカット」。大粒のブドウには岡山弁の「ぼっけえ」をもじった「ボッケーネ」。アイデアとエネルギーを生かして、2021年に新しい会社「きよとうファーム株式会社」を立ち上げ、社長に。きよとう果樹園の果物を中心に、販売を担っている。ちなみに本人はまだ気づいていないかもしれないが、気を緩めるとアゴが出るらしい。おちゃめさん。



か
ど
よし
かず
加戸義和

里山里海交流館しんびお
北房ほたる庵

〒716-1433
真庭市下啓部 664
Tel : 0866-52-2600
Fax : 0866-52-2600
HP : <https://hotaru-an.com>



築200年の古民家を再生したレストランです。



築二百年の古民家を再生したレストラン兼地域のコミュニティスペース「北房ほたる庵」を運営する、「里山アグリ株式会社」の代表。提供する料理はどれも絶品で、地産地消のコンセプトに基づいたものばかり。なかでも「真庭里海米」の釜めしが食べられる「名物ほたる御膳」はたまらなく美味。

人生経験豊富なシュツとした背中が印象的。なにか困りごとがあったら相談したくなる、その佇まいは昭和ロマン漂う「啓部（あぎえ）商店街」がよく似合う。ただ、相談しようとしてもなかなか一般の人にその背中には捕まらない。いつも北房のために忙しく走りまわっている上、フルマラソンを3時間19分で走る健脚ぶり。見つけたとしても簡単には追いつかない。趣味はマラソンと山登り。休みを見つけては、北房の丸山城跡や佐井田城跡に登ったりしている。健脚ぶりにますます磨きがかかっている。

北房の伝統を守りながら、同時に新しい風も北房に吹き入れている、北房の地域づくりに欠かせない存在。本人いわく弱点は「年齢」とのことだが、年齢なんて感じさせない。今日も北房のどこかで「渚の交番プロジェクト」を通じて森、里、川、海を守るため奔走している。

坂本 信広

さかもと のぶひろ

プランニング
オフィス堂

〒716-1433
真庭市下岩部 877-4
Tel : 0866-52-4565
HP : <https://www.pohotaru.com>



PR用（ネットなど）のオリジナル曲・サウンド制作いたします！あなたの事歌・言葉を完パケの曲に仕上げます！

レコーディング・CD制作・スタジオオリース・音楽指導いたします！オリジナルのサウンドと映像（オリジナル映像など）をお作りします！プロのアドバイスであなたのオリジナルを結載しましょう！

オリジナル曲からサウンド制作、音楽指導まで。真庭屈指の音楽プロデューサー。依頼は鼻歌でもOK。鼻歌から完全パッケージまで仕上げる技はまさに圧巻。

代表曲は、北房の魅力をふんだんに取り入れた「花びら戦隊コスモスレンジャー」「北房こぶんの歌」「北房キムチの歌」などなど。どれも北房観光協会の企画広報マネージャー、坂本プロデューサーならではの。元氣いっぱい精神的に、ほかにも「ホテルっ子ミュージカル」の主宰も務めている。プロデューサー過ぎたあまり、普通の音楽では飽きたら、最近「ちくわ管」専属の伴奏もしている。

日本一と言われる北房のホテルのことや、地域の歴史が学べる「北房神祕スボット巡り体験」の仕掛け人。北房の「どこがオススメなんだろう？」は坂本プロデューサーに聞けば、一発解決。ただ地元愛が強すぎて、しゃべり出したら止まらない。さすが悠久の歴史がある北房。坂本プロデューサーのお話も悠久の歴史を感じさせるほどの長さに。

孫の「じいじ、じいじ」という誘惑をなんとかすり抜けて、今日も夜な夜なシンセサイザーに向かって没頭している。

音楽、映像制作のノウハウを真庭の観光や子どもたちの学びに活かしています。北房においでの際は、お声掛け下さい。



林 佳吾

はやしけいご

林ファミリーぶどう園

〒716-1433
真庭市下啓部 1700
HP: <https://884family.raku-uru.jp>



味にこだわった栽培で、おいしさを追求しております。

京都のマンション6階のベランダでミニトマトを育てていた少年が、いま「林ファミリーぶどう園」園主。農業を志していたなか、奥さんとブドウを食べた瞬間、顔を見合わせて「これだ!」と、ブドウとの運命の出会いを果たす。そこからの行動力が、園主の持ち味。縁もゆかりもない真庭へ家族ごと移住。それどころか、岐阜に住んでいた奥さんの両親も手伝いに来てくれるまでに。まさに「ファミリー」ぶどう園。

直売メインで、農業を営んでいる。大阪でも東京でも直接お客さんに届けるスタイル。「北房のブドウなら全国で勝負ができる」と話す姿はもはや敏腕ビジネスマン。新規就農希望者が聞いたなら「北房でブドウを始めたい!」と言うに違いない。そう思っていたら、実際に園主を頼って、ブドウ農家になるため北房に来られる新規就農者も。

そんな園主の作業スタイルは「オーディオブック」を聴きながら。もしかしたら市内でもトップクラスに本を読んでいるかもしれない。そしてとさき子どもたちがぶどう園を走りまわる。さらに農閑期は、移住・就農支援で奔走している。合間を見つけては家族でお出かけも。「ファミリー」も大切に「林ファミリーぶどう園」。



一度、岡山の産地直送ぶどうも食べてみてください。

しみず まさかず 清水 雅和

Restaurant AQUA

〒716-1411
真庭市上水田 3940-1
Tel : 0866-56-0233
Fax : 0866-56-0233
Instagram : @restaurant_aqua2017



お肉料理中心のレストランです。ステーキやハンバーグはもちろん生ハムの原木も常時置いてます。

開店まもなく毎日100人以上が訪れた肉料理メインの「Restaurant AQUA」オーナーシェフ。ミシュラン調査員が訪れた(かもしれない)ときも、なんと満席でお断り。もはや「ミシュランより数居が高いレストラン」として語り継がれる、真庭のレジェンド級グルメスポット。

五十代にして多趣味街道まっしぐら。数年前まで「ゴルフひと筋」と言っていたのに、店前のバイクパスを颯爽と駆け抜けるライダーに触発され、四十六歳で大型バイクの免許を取得。バイクに乗っている時間は至福のひととき。さらに息子に達成感を伝えたくて、一緒に中蒜山に登るも、息子よりも自分が登山にハマってしまう。大山にも登り、ジムで身体を絞ってから富士登山にも挑戦。しかし息子を誘うも、息子の返答はまさかの「登山拒否」。泣きながらひとり、富士山に登った。つぎの目標は四国の石鎚山。お客さんの「美味しかった。ごちそうさま」のひと言で嬉しくなっていて、ついついお見送りであれこれ伝えたくなり、言葉数が3倍増しになってしまふ。毎月変わるメニューでお客さんをわくわくさせて、季節限定で真庭産地産地消の料理も提供。看板メニューはあえて設けず「お客さんが美味しいと言ってくれるものが看板」と名言を残している。そんなオーナーシェフの将来の夢は、多店舗展開。



真庭市の代表的なレストランになるよう頑張ります。

かねだ
金田
ひさかつ
久克

松川食品株式会社

〒716-1411
真庭市上水田 6320-9
Tel : 0866-52-3122
Instagram : @yakitorimatsukawa



昭和40年創業。主力商品は岡山県新見市産『森林どり』の首の皮だけをを使用した皮の焼き鳥。職人が1本ずつ松川食品独自の手法【ねじり巻き刺し】で刺し上げた串を、創業以来守り続けている秘伝の醤油ダレに一晩漬け込み、炭火焼の焼き上がりに匹敵する赤外線ガスグリルで30分間かけてじっくり焼くことにより、旨味を残したまま余分な脂をギリギリまで落とした他にはない皮の焼き鳥に仕上げている。



ぜひ一度松川のやきとりを食べてみてください。鯖寿司も始めましたので鯖寿司もいっしょに。

「やき鳥」と書かれた赤と金のシールを見れば、真庭市民が思わず垂涎する。真庭のソウルフード「松川の焼き鳥」を手がけている松川食品社長。毎月第3日曜日に開催される工場直売「食肉まつり」は、工場から溢れるほどの行列ができる。お抱えの職人が一本ずつ松川独自の手法「ねじり巻き刺し」で串に刺し、創業以来六十年以上守り続けてきた秘伝の醤油ダレに一晩漬け込んでじっくりと焼いていく。松川食品を引き継いだのは「とにかくうまいから」という強すぎる理由。

真庭の暮らしを支えるスーパー「三金や」も経営しているため、松川の焼き鳥と相性抜群。食に興味があり過ぎて、イタリアンレストラン「ポルサリーノ」を立ち上げたことも。いまでは地元の人たちが集う場になっている。最近では鯖寿司事業も引き継ぎ、毎朝3時からシャリを炊いている。

幅広く手がける事業家だが、意外にも趣味は「お笑いの動画」を観ること。クールに見えるがちな裏側で、シュールなお笑いを堪能している。松川の焼き鳥のように社長みずからもコクと深みがある。漫画もジャンルを問わず読み、忙しい合間を縫ってスワイプする電子書籍派。思い立ったらすぐ行動、行動しながらなんとかこなしていく、違いのわかるオトコ。

やまもと
山本
みちお
美智夫



一生に一度の人生だから悔いのない人生にしたい

イルミって、いいね！
倶楽部

〒716-1411
真庭市上水田 3130-1
Tel: 080-2904-4760
Fax: 0866-52-3170
FB: <https://www.facebook.com/groups/1188661871165105/>



北房、冬の風物詩「真庭イルミネーションinハート広場」を手がける「イルミって、いいね！倶楽部」リーダー。まわりがそろそろ冬支度を始める十月下旬、冬物よりも先に15万個の電球を手取る。あとはもう「イルミって、いいね！倶楽部」のメンバーと一緒に休日を利用して電球を設営していく。

きっかけは、まさかの自宅で始めたイルミネーション。「やるからには、どこまでも」と突き詰めていたら、「ああ、あのイルミの家ね」といつのまにか自宅が地域の目印に。そこから瞬く間に、毎年多くの鑑賞客が訪れる県内最大級の「光の祭典」にまで発展。

「新しい何かをつくるのは、よそ者、若者、バカ者と言う。自分はバカ者です(笑)」そう言うが、じつは創業七十年を超える「ワイテック工業株式会社」の代表取締役会長。「すべてに対して本気」という経営哲学は、趣味にも生かされ、ゴルフもロードバイクも熱帯魚も、すべて本気。最近では野菜の水耕栽培と菌床しいたけ、キクラゲ栽培まで始めて、もう手に負えないレベルになっている。ちなみに「どうしてこのイルミはハート型が多いんですか」と尋ねられたとき、彼はこう答えたという。「だって、ハートがキレイな人なんてないでしょ」これ以上ない回答である。

「こばけん」の愛称で親しまれている、森林のスペシャリスト「山守（やまもり）」。

大手空調メーカーのエンジニアから突如、真庭の森へ。森林組合で勤めた後、さらなる高みを目指して、二年前岐阜の「森林文化アカデミー」で知識と技術を磨き、熱い思いとともに再び真庭の森へ帰ってきた。

始めたばかりの頃はひよろりとして、お腹もくだしがち。山のなかで何度困ったことか。しかし筋トレを経て、今では伐採も搬出もお任せ。見事なチェーンソーさばきで、地域の方からも子どもからも頼られる逞しいお兄さん。管理しようとしている北房「井尾川流域」の森林はなんと東京ドーム約五〇個分。もうピンと来ない。遅いにもほどがある。その森林を舞台に「遊んで学んで、森を守ろう」と、森林キャンプやテントサウナなど、森を遊び尽くす体験プログラムをどんどん生み出している。

木こり、森林施業プランナー、森林インストラクターなど、こばけんのできることを挙げたらキリがない。「いつか絶対、林業が花形になる日が来る」と、ブログ「こばけんの田舎開拓史」で森林のこと、林業のことを赤裸々に綴っている。そのブログをあなたが読んでるとき、こばけんはやっぱり森にいる。

こばやし 小林 けんた 建太

コバウッズ

HP: <https://kobaken-countrylife.com>



真庭市の北房地区をフィールドとして、自分が住む井尾集落の裏山をどうにか活性化したい。野望は、井尾川流域の全域の森林管理を任せてもらえる山守になること。人と里山(自然)の共生のモデル地区となるような森林管理を目指したい。



ぜん、木こりと森遊びや森歩きを楽しみに来て下さい

つむら ひろおみ
 津村 宏臣
 おおはら まなみ
 大原 真菜美

株式会社 SOCRAH・水風の庭

〒716-1402
 岡山県真庭市山田 2049
 Tel: 0866-56-0056
 Fax: 0866-56-0056
 Instagram: @socrah_mizunagi_official
 HP: <https://socrah.jp/tag/> 水風の庭 /



「水風の庭」は、京都に本社を置く株式会社 SOCRAH と、同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター連携し、地域創生と連携事業の拠点として開設しました。

人生で三度死にかけた考古学者。一度目はトルコでクーデターに巻き込まれ、二度目は誤って紛争中のアフガニスタンに入国（背後で銃声が聞こえた）、三度目はマイナス二十四度のモンゴルの餃子屋で強盗に襲われ、まっ裸に。だれかのお墓（古墳）を発掘している場合ではない。自分がお墓に入るところだった。ただ、「ホラ話が得意」と豪語しているため、何が真実なのか、真相は藪のなか。「いまの話、ぜんぶ嘘かもしれません」とにやりと笑う。

果たしてその正体は同志社大学教授であり、株式会社 SOCRAH 代表取締役。「荒木山古墳」発掘の繋がりに、北房に古民家を購入。子どもたちも集まれる「水風の庭」という拠点をつくった。しかしじつは子どもが大の苦手。子どもから逃げまわるため、夏休みには居場所を失い、ひとり隠れて煙草を吸うしかない（子どもが苦手なのは真実らしい）。

そんなとき、子どもの相手をするのは右腕である大原さん。その考古学者の右腕ぶりは、まさにゴッドハンド。津村ゼミの元ゼミ生で「単位が楽勝の面白い先生」と軽い気持ちで関わっていたら、いつのまにか SOCRAH に就職して北房へ。マカロニえんぴつとクリップハイプをこよなく愛している。考古学者とその右腕、ふたりの世界観が「水風の庭」にはある。



地域の未来は地域が決める。でも決めるために「人がいなくなると...」そんなことが日本の多くの場所で見られる未来として語られています。株式会社 SOCRAH では、地域の歴史や地域の首長から学び、そのエネルギーを拡散して、増大して、未来に遺産として引き継ぐお手伝いをさせていただきます。

落合



みむら 三村 のぶゆき 伸行



真庭あぐりガーデン

〒719-3115
真庭市中 396-1
Tel : 0867-45-7333
Fax : 0867-45-7334
HP : <https://maniwa-agurigarden.com>



レストラン、カフェ、マーケット、WEBショップ等の集合施設。お節介なメンバーと共に多世代が共生する持続可能な循環型社会づくりに取り組んでいます。



大事にしてる言葉「着眼大局、着手小局」困ったときは、あそこ三村なら何とかしてくれる……そんな頼られる人でありたいです。

子どもからお年寄りまで楽しめるグルメスポット&ショップ「真庭あぐりガーデン」の頼れるお兄さん。ボタンが弾け飛びそうな胸板に、つい頭を預けたくなる。さすがベンチプレス130kgをあげた大胸筋。まるで「魔女の宅急便」に出てくるパン屋の旦那さんみたいになっている。じつは「真庭あぐりガーデン」のゼネラルマネージャー。

生ごみからできたバイオ液肥を農家さんに利用してもらおうよう推進したり、収穫されたお米や野菜をレストランとカフェで活用したり、ショップやWEBで販売したり。あぐりガーデンでは多世代共生コミュニティ「持続可能な循環型社会」をつくっている。ゼネラルマネージャーは新しい方向へ進むための大切な舵取り役。「このスタッフは、思いを持ったお節介な熱い人たちがかり。全国の中山間地域のモデルとなる取り組みをみんなと一緒に進めていきたい！」と厚い胸板に加え、熱いハートも兼ね備えている。

令和五年まで実施していた「真庭おむすびプロジェクト」の名残り、おむすびの被り物がマネージャーの代名詞。ただ体格が良すぎて、覆面レスラーのように見えなくもない。

趣味では済まないほど、釣りが大好き。仲間たちと一緒に大海原へく
出しては、釣りを楽しんでいる。また自然のなかで過ごせるゴルフも好きな、
本格アウトドア派。その本業は、昭和三十九年創業「有限会社 落合タクシー」
の三代目。丁寧かつ滑らかな運転で、バスやタクシーを走らせ、地域の足
を支えている。「人生は楽しんだもん勝ち」を信条に、考え込み過ぎず、明
るく前向きに取り組む姿勢が魅力的。

「落合をもっともっと楽しくしたい」という思いから、地域応援団体「お
チアーズ」を立ち上げ、共同代表を務めている。どれだけ忙しくても、タ
クシー会社ならではの軽やかなハンドリングで飲み歩きイベントや地元
の催しをサポート。落合に生まれ育ち、落合を愛しているため、地元の子ど
もからご年配に至るまで「とくちゃん」の愛称で親しまれ、幅広い人望が
ある。最近では真庭青年会議所の理事長、真庭観光局の「観光地域づくり
マネージャー」も務め、さらに活動範囲を広げている。

また、真庭高校のすぐ近くに「cafe dining bar 313」も
オープン。オシャレなテラス席もあり、気軽なランチや大切な人と過ごす
ディナーにも対応。大人数の貸切パーティーもできるなど、落合に新たな
交流の場をつくっている。



こばやし とくじ
小林 督治

有限会社落合タクシー

〒719-3144
真庭市落合垂水 114-19
Tel : 0867-52-0325
Fax : 0867-52-3300
HP : <https://www.ochiai-taxi.com>



(有) 落合タクシーは、真庭市を中
心に、地域に密着したタクシー、バ
ス会社です。皆様に安心してご利用
頂ける心がけております。

OCHIAI TAXI



出来上りを楽しみにしています

和田義海

花の山寺として親しまれている「普門寺」の住職。

いつも穏やか。みんなの前で話すのはちよつと恥ずかしい、はにかみ住職。じつはツンデレという家族からの密告も。ただ毎年二月に行われる「節分会 柴灯護摩供」の火渡り行では、勇ましく残り火のなかを行く。その勇ましさはまるで体育会系。と思つたら事実、生粋のスノーボーダー。マイボードを携え、長野県まで滑りに行く本格派。思い立ったら即行動。フットワークの軽さは、日本全国を行脚した弘法大師（空海）のごとし。ちなみに普門寺も弘法大師が816年に開いたと言われている。

ひとつひとつの珠が連なって、やがてひとつの数珠ができるように「たくさんの人と繋がれたら」と願い、今日も四季折々の花が楽しめる普門寺でお勤めをしている。そしてときどきバイクいじりもしている。メカ、乗り物いじり大好き。

もちろん普門寺の魅力のひとつ「ハート型の紫陽花」も愛でている。春には「春まつり」、六月ごろには「あじさい祭り」、秋には「桜と紅葉まつり」を開催するなど、お寺の存在をもっと身近に感じてもらえるよう、日々精進している。

高野山真言宗
笠場山 普門寺

〒719-3132
Tel : 0867-52-0739
Fax : 0867-52-4733
FB : <https://ja-jp.facebook.com/hananyamadera.fumonji/>



1200 前に弘法大師が開かれたお寺。花の山寺としても親しまれています。



数珠の様にたくさんの人（数珠玉）が繋がればいい

和だ 田ひろみ



さとてらす

〒719-3132
真庭市田原山上 2127(普門寺内)
Tel : 0867-52-0739
Fax : 0867-52-4733

地域の風土や魅力を伝える村民体験
プログラムを企画・運営販売を行
います。



「まにわの人」に比べてまだ10年ですが、真庭のことが大好きで、少しでも誰かに真庭の素晴らしさを伝えることを生きがいにしていきます。(笑)

菩薩かと思った、と訪れた人は言う。

落合の山の上にある「普門寺」住職の奥さん。結婚を機に真庭へ移住して、いまでは真庭の素晴らしさを伝えるのが生きがいに。しかも伝え方は司会業をしているから、プロフェッショナル。真庭の観光地域づくりマネージャー。うえだむらの暮らしを体験できる村民プログラムを企画、運営する「さとてらす」の代表も務めている。まとめよりも楽しく巻きこむスタイル。

人と話すのが大好きで、いつもとびきりの笑顔で参拝者を迎えてくれる。ただじつは、ツンデレに弱いという弱点が。ツンデレされちゃうと参ってしまふ。旦那さん(住職)がツンデレらしい。照れながら、バシバシ人を叩いちやう。

和田さんと話すとご利益があると言われ、歩くパワースポットになっている。「まにわ婚」を手がける「真庭ブライダルプロジェクト」でも、そのチカラを遺憾なく発揮。結婚する男女に幸を授けている。

紫陽花や四季桜など、普門寺は花が有名な山寺。でももしかしたら「花の山寺」の「花」って和田さんのことなのかも、とみんなが思っている。それを証明するように、色とりどりの作務衣を持っている。

道満 洋和

どうまん ひろかず

株式会社 道満石油店

〒719-3105
真庭市西原 70-4
Tel : 0867-52-0133
Fax : 0867-52-0802
HP : <https://doman-life.co.jp/>



エネルギー事業として、永年、地域の皆様の生活を支えてきました。これからも変わることなく、地域の皆様にとってなくてはならない企業としてあり続けます。



多くの皆様にご来店いただき、誠にありがとうございます。これからも変わることなく、地域の皆様にとってなくてはならない企業としてあり続けます。

となりにいるそっくりさんの銅像は、なんと祖父。ひいおじいちゃんから数えて四代目。養蚕の事業からはじめておよそ100年の歴史がある「株式会社 道満石油店」の若社長。ガソリンスタンドをはじめ、ガスや水まわり、暮らしに関すること全般を通して地域を支えている。コイン洗車場「ウォッシュユマン」も運営している。

急に振られるとできないけど、断りきれずに結局やっちゃう。とってもいい人。いつもにこにしながら、いくつもの団体で代表を勤め上げ、最近では落合の若い有志団体「おチアーズ」を立ち上げ、共同代表を務めている。だれもが心のガソリンが満タンになる包容力と優しさで、落合の地域づくりを盛り上げている。

オンとオフの切りかえが得意で、オンは仕事に一所懸命。オフにはバチンと切りかえて、日本酒をグイグイいただく。それでも笑顔と爽やかさは変わらない。グイグイ飲んでも、ずっと爽やかさをキープしている。趣味は身体を動かすことなら、何でも。野球やゴルフ、バイクでツーリング、山登り。思い立ったら、家族を連れて旅行へ。そのアクティブさから「落合に道満あり」と言われている。

素敵なキャスケット帽がトレードマーク。違いのわかるオトコ、「富岡珈琲 真庭本店」の店主。イベント出店をきっかけに、真庭の人たちの人柄に惚れて「真庭あぐりガーデン」内に本店をオープン。いまでは「真庭あぐりガーデン」の玄関口として欠かせないお店になっている。自家焙煎のこだわりコーヒーにはファン多数。

いつ訪れても、お客さんの話を傾けてくれるため、ちょっとしたパワースポットになっている。とにかくコーヒーの仕事が好き。人に喜んでもらえると、自分の心も豊かになっていく。喜んでもらえたら、キュートな笑顔が一層キュートに。今でも、さらなるおいしさを求めて、探究を続けている。ただ、あれこれと考えを巡らせ過ぎて動けなくなってしまうことも。そんな自分にもっと決断力があれば、と思っているのも魅力のひとつ。ひとり時間には映画を観て、楽しんでる。洋画、邦画に限らず、何でも観る。ただ、恋愛系とホラー系はどうしても苦手。いつかは自分の足で現地を訪れ、直接コーヒー豆を仕入れたい。その豆でこだわりのコーヒーがつけられたら、と願っている。

とみおか 富岡 美千男

富岡珈琲 真庭本店

〒709-3115

真庭市中 396-1

真庭あぐりガーデン内

HP : <https://www.tomioka-coffee.com>

[tomioka-coffee.com](https://www.tomioka-coffee.com)



自家焙煎珈琲豆で、忙しい日常の中で心豊かになる一杯を提供させていただいております。コーヒーが苦手な方にも楽しんでいただきたいと思いい焙煎方法にも注意を払いながら味作りを心がけています。



真庭観光事業に少しづつ力を入れたらうれしいです

鈴木 宏志

すずき ひろし

木山神社

〒719-3142
真庭市木山 1265-1
Tel : 0867-52-0701
HP : <https://kiyamajinja.or.jp>



1200年以上続く市内有数の古社。国内最古級の神狐や神仏習合時代の古い信仰を残す神社。近年な、リアル招き猫が人気。

千二百年以上の歴史を持つ「木山神社」の宮司さん、からは想像もつかない。シンガーソングライターとして東京、大阪、岡山をワールドに活動している。もともと東京圏で「ミュージックステーション」「カウントダウンTV」など数々の音楽番組に出演してきた経歴を持つ。三十年ぐらいい前には某スポーツドリンクのCMソングのギターを担当している。ポーカーでならしているため、とんでもなく良い声で祝詞が読まれていく。

やるからには、寝る時間を削ってでもやる。本気の趣味人。音楽活動だけではなく、軽四耐久レースにも参戦している。うなりをあげ、タイヤを焼きながら五時間、軽自動車（巫女さんのペイントで装飾）をぶっ飛ばす。メンバーのほとんどが氏子さん。すきま時間をこじ開けて釣りにも出かける。

アグレッシブに動きまわる中、真庭での婚礼をプロデュース「まにわブライダルプロジェクト」の代表も務めている。頼まれたら断れない、お世話好きな宮司。動物のお世話も大好きで、定期的に保護犬や保護猫の譲渡会も開催している。木山神社の猫ちゃん（クックさん・テンちゃん）は全国からファンが訪れるほど大人気。リアルな招き猫として鎮座している。ただ、勤務態度はそのときの気分次第。



たかみねしゅうこう 高峰秀光

木山寺

〒719-3142
真庭市木山 1212
Tel : 0867-52-0377
Fax : 0867-52-0862
HP : <https://kiyamaji.jp>



1200年の歴史のある、高野山真言宗の古刹で、一帯は自然保護地区にも指定されていて、この自然豊かなフィールドを交流の場にすべく、さまざまな取り組みを行っています。



まずは、木山の魅力を知っていただくキッカケになり、その後定まるといって自然の中で楽しんでいただき、木山のファンになってほしいと考えます。

豊かな動植物を育む「木山寺」の五十二代目住職。お寺の歴史は千二百年年に及ぶと言う。古刹の風情を楽しみながら、境内を歩くと驚くことがたくさん。マウンテンバイクのコースがあり、シェアハウス（お試し住宅）もある。「テーマパークをつくりたい」と願う第五十二代の住職。

学生時代、ドレッドヘアでDJをしていたらしい。さらにキレキレのダンスまで。いまの穏やかな風貌からはまったく想像もつかない元BIBO Y。ただ「寺フェス」として、夜の境内でファイヤーショーを開いたときには、だれもがそのBIBO Yの片鱗に震えたという。「木山寺」という名前から最近では、歌手の木山裕策さんが訪れている。

また、周囲一帯が自然保護地区に指定されており、豊かな動植物も魅力のひとつ。高峰さんもリクガメ五匹、ヘビ五匹を飼育するなど、動物たちを愛でている。運が良ければ、参拝者もリクガメさんへびさんに会えるらしい。お寺にちよつとでも立ち寄ってもらえるきっかけになれば、と思っている。ただそのアイデアがどれもちよつと奇抜なだけ。子どもたちが遊べるプレイパークもある。いまはコースをつくって、バギーバイクを走らせようという計画。とても優しく穏やかな笑顔で、木山を訪れる人を迎えてくれる。

かわもと 川元 一将 かずまき

EINS

〒719-3153
真庭市栗原 815-1
Tel : 0867-54-0044
Fax : 0867-54-0044
Instagram : @eins0904



アパレルブランド品、個人様の1点物、イベントや店舗グッズ等の製作をしております。刺繍とプリント加工を主としていますが、お客様のご要望に合わせて、デザインからの企画や縫製加工などもさせていただきます。また、EINSという名前で、その場でオリジナル刺繍グッズの製作をするショップを各種イベントに出店しています。



簡単なお名前入れから、なんとよくこんなもの作りたい、ほとんど注文に合わせて加工法やデザイン等をご案内いたします。

「刺繍工房ハーモニー」の三代目は、祖父から受け継いだ家業をステキにバッチワーク。ミントグリーンの可愛いワグエンバスでいろんなイベントに出店。その場でオリジナル刺繍グッズを製作する「EINS」としても知られている。ドイツ語で「イチ」を意味するその店名に込めた思いはまさかの「理由はないけどドイツ語が好き」。

トレードマークは、その髪型とお髭。そのスタイルは何となく縫製と刺繍を連想させてくれる。友人の結婚式の際、お髭を剃ろうとしたら、奥さまから「剃らないで」と猛反対を受けてしまう。髪型も奥さまがカット&セット。刺繍で文字を入れるときには書き順にもこだわる店主だが、奥さまのカット&セットもそれに引けを取らないこだわり。

自動車のカスタムショップを夢見て、自動車整備学校卒業後、岐阜で起業。それでもやはり「家業を引き継ごう」とUターンした。現在では全国的にも珍しくなったチェーン刺繍機、サガラ刺繍機を駆使して、立体的で独特な仕上がりの刺繍を量産から1点ものまで手がけている。

「仕事が屋内だから、休日は外に出たい」と全力アウトドアを楽しむも、アウトドアに行き過ぎて子どもたちから「おうちで遊びたい」と言われてしまう、お茶目な一面も。

さだ 佐田 とき 時信 のぶ

株式会社佐田建美

〒719-3155
真庭市下方 863-1
Tel : 0867-52-7817
Fax : 0867-52-7819
HP : <https://sadakenbi.com>



木製スーパーカー「真庭」、ぐるぐるまわる「おひつの家」、木製のからくり阿波踊り「まてるドリーム」など、建具と家具の「佐田建美」が手がける一風変わった製品を列举するだけでも、その心意気が伝わってくる。意外性のある組み合わせがヒットの秘訣である（PHP『？（ハテナ）で考えれば人生は100倍おもしろい』佐田時信著より）。事実、木製スーパーカー「真庭」は公道で走れる驚きから、イギリスBBCはじめ世界のメディアで紹介されているほど。

何より、佐田建美といえば伝統的な技術を駆使した「真庭組子」。2024年の植樹祭において天皇皇后両陛下がお座りになられた御座所の背面でも使用され、東京のホテルオークラでも飾られている。多岐にわたる取り組みを社長みずから伝えたくて、「不在でもここに電話してほしい」と会社の玄関ドアに「社長の携帯電話番号」を貼っている。

会社に入ると、二階にはなぜかかなり広いステージが。じつは繋がりの深い歌手、岸田敏志（真庭大使）の作詞作曲で、歌手デビューもしている。曲名は「美作三湯女旅」。「捨てます、捨てます、こんな恋。スマホのデータは、消しましよ」の歌詞が印象的。カラオケDAMにも入っているので、みんなで歌うことができる。やがては歌手活動も考えているが、まだまだ本業が忙しい。真庭のPRをもっともっていきたいと願う、真庭のリードオフマン。



アート グループ

〒719-3105
真庭市西原 322-3
HP: <https://artgr-mo.localinfo.jp/>



ギャラリー葵を拠点に県北のアーティストが集まり活動しています。毎月3種類のアート教室が開講されていたり、年に1~2回、グループのメンバーによる展覧会などをこなっています。陶芸、油彩画、日本画、イラストレーションなど、さまざまなジャンルの作家が所属しています。

美作落合駅近く「ギャラリー葵」を拠点に活動している、少しユニークな名前の芸術家グループ「Art group mo(も)」。

2017年に結成し、油彩画や日本画、イラストに陶芸とさまざまなアーティストが所属している。「あなたmo(も)わたしmo(も)アートで日常がmo(も)っと楽しく」をモットーに活動を始めた。その背景には、展覧会や制作などに追われる日々の中で、「自分たちが楽しんでいなければ、その思いは作品を見る人には伝わらない」と実感した経験がある。

春に行われる「ハルモ。」や秋に行われる「アキモ。」をはじめ、moの展覧会には多様なアーティストの作品がズラリ。また、ギャラリー葵にて、所属アーティストによる「落合絵画教室」「落合日本画・スケッチ教室」「OKアートクラブ・OKイラストクラブ」の3種類のアート教室が毎月開かれている。地域の方も一緒にアートを楽しめる機会が増えているようだ。

非常勤美術講師や会社員などダブルワークしているアーティストも多いため、展覧会や一緒に制作をする場面では、「推し談義」に花を咲かせたり、それぞれの制作のこだわりについて語り合うことも。アーティスト同士の交流も大切な時間。ものづくりを続けていけるのは仲間の存在があってこそ。アートでまちを彩ってくれる、これから「mo」。



アートに興味があるという方はぜひ、教室や展覧会にお越し下さい。

おおはし 大橋 かずき 和生

MADLANE

〒719-3151
岡山県真庭市一色71-3
Tel: 0867-54-0859
Fax: 0867-54-0859
HP: www.
madlaneitd.com



車とアートを結びつける Madlane (マッドレーン)。細部ディテールにまで徹底的にこだわり抜いたカスタムカーやレースカー製作等オンリーワンの車両製作やプロデュースを行っています。国産車、輸入車、クラシックから現行モデルまで、それぞれの車が持つポテンシャルを見極め、パーツ選定、ペイント、内装、足回り、エンジン製作までトータルでプロデュース。"哲学ある造形" Madlaneの美学が交差することで、生まれるのは世界に一台のマシンです。



「真庭から世界の扉は意外と近いかもしれません」

店舗に足を踏み入れると、たちまち異空間が広がる。ポルシェ・フェラーリ・ランボルギーニなど、高級車がショールームにズラリ。ドッグにも高級車が並ぶ。往年の名車、スーパーカーを中心にカスタムを手がける「MADLANE (マッドレーン)」代表。

カスタムへの思いは、リミッターを外したエンジンのよう。ポーランドで開催される世界最高峰のカスタムカーショー「Racism (現Ultraace)」にて、カスタムした「フェラーリテスタロッサ」で臨み、初登場にも関わらず二位を受賞。そのとき、まだ二十四歳。さらにポルシェ911を手に入れ、ほとんど独学ですべてをつくり替え、レーシング仕様の「ポルシェ935M」にカスタム。純白に輝くボディが異彩を放ち、2025年の同ショーにおいてヨーロッパ一位を獲得。同時に「殿堂入り」という偉業を達成した。「東京オートサロン」でも注目を集め、いまや落合の集落に全世界から「MADLANEの大橋さんに会いたい」とさまざまな国の人たちが訪ねてくる。国境を超えたInstagramのフォロワーは十二万人以上。

クルマ好きの人たちとの出会いをきっかけに、真庭の一般公道をレーシングカーが走り抜けるイベント「真庭速祭」を発足した立役者のひとり。「くるまやさん」の概念を覆していき、「車から人へ、そして世界へ」を掲げている。

池本 顕子

いけもと あきこ

がちゃポンやき

〒716-1403
真庭市宮地 1489-1
Tel: 0866-52-5525
Fax: 0866-52-5525
Instagram: @gachaponyaki



たこ焼きのようで、中身は、たこ／
だけじゃない！何が出るのか、お楽
しみの、がちゃポンやきです！



今年、新たに、北房宮地に店舗を構えました、皆様のお越しを
心より、お待ちしております。

何が出るかは、お楽しみ。食に新しいワクワク
をもたらした「がちゃポンやき」店主。見ためは
子ども、頭脳は大人のコナンくんもびっくり。見
ためはたこ焼き、中身は開けてのお楽しみ。もち
チーズやうずら卵、シューマイが入っていること
も、これ、まさにワクワクする「がちゃポン」。

しかし一番の「がちゃポン」は、店主の人生に
あり。大阪で銀行員、お花屋さんを経て、真庭へ
移住してから未経験ながら移動販売のがちゃポン
やきをスタート。イベント出店のため、にこちゃ
んマークが目印の青くて可愛いキッチンカーで真
庭中を走っていると思っていたら、今度は急転直
下2025年5月5日子供の日に新店をオープン。
「地元の人が集まる場所がほしい」という要望にふ
たつ返事で快諾。つぎはぎのマット、油にまみれ
た物件を、近所の方と大改装したという。本当に
人生は何が飛び出すかわからない。そとカリッ、
なかふわっ、旨味のぎゅぎゅっと詰まった「がちゃ
ポン」な店主。

会えば、たちまち優しさで包んでくれて、初対
面でも仲良しに。誰でも打ち解けられるが、勢
いづいてしまい、ついついおしゃべりを過ぎて
しまうことも。しかしそのおしゃべりがパーソナ
リティの目に留まり、そのままラジオ出演。知名
度が爆上がりして、ファンが急増した過去を持つ。

「つながる・ひろがる・循環する」をテーマに、子どもからご年配まですべての世代に循環型社会、地域との繋がりを創出するNPO法人。例えば「お節介野菜プロジェクト」がそのひとつ。平均年齢七十六歳、最高齢は九十三歳。真庭のおばあちゃん、おじいちゃん100人超が「まだ食べられるのに捨てるなんてもったいない」と、廃棄される規格外の野菜をカット野菜として販売。まさに循環。おばあちゃんとおじいちゃんもいきいきして良い波及効果を生み、医学的な研究でも証明された。2025年にはその取り組みで環境大臣賞を受賞。

また子どもたちにも「ていねいにものをてづくりする」をコンセプトにさまざまな機会を提供。「真庭あぐりガーデン」を象徴するツリーも捨てられるだけだった廃材を使い、地域の子どもから大人まで力を合わせて制作。また遊び場の提供や農業体験など、子どもがしぜんと循環型社会を感じられるプログラムも提供している。あまりに多くの子どもたちと接しているため、「地域の子どもはみんな、うちの子どもたち」とまるで大家族を支える親のような存在になっている。さらに「地元のご年配はみんな、うちのおじいちゃんとおばあちゃん」とも思うようになり、あまりの親近感から「真庭一家」と呼ぶべき大家族をつくっている。

えぬびーおーほうじんまにわ NPO法人真庭 あぐりガーデン プロジェクト

〒719-3115
真庭市中 396-1
Tel : 0867-45-7776
Fax : 0867-45-7334
HP <https://npo.maniwa-agurigarden.com/>



「つながる・ひろがる・循環する」をテーマに、地域の人と人、人とモノ、人と事業をつなぎ、地域を元気にするために活動しています。



真庭の豊かな自然、人の温かさが大好きです。地域にある人やモノ、取り組みを用いて、いっしょに楽しんでくださる方を探しています。

やまぐちひろし 山口浩

真庭市
くらしの循環センター
〒719-3101
真庭市赤野 1205-2
Tel : 0867-44-1710
HP : <https://maniwa-meguri.com/recyclingcenter/>



真庭市全域の生ごみ・し尿・浄化槽汚泥から、バイオガス（エネルギー）とバイオ液肥を作っています。

「まわれ、まわれ。メリーゴーランド」と歌わずとも、すでにまわっているのが真庭の資源化システム。家庭の生ごみ、し尿、浄化槽汚泥を液体肥料である「バイオ液肥」に替え、また美味しい農作物を育てていく。そんな循環する「真庭モデル」を支えているのが「真庭市くらしの循環センター」。愛称の「まにくるくん」の「くるくん」には、「静かに循環する」という意味が。

生ごみなどを積んだトラックが毎日「くらしの循環センター」を訪れ、トラックのドライブスルー状態。運転手の注文はもちろん「バイオ液肥でつくった真庭の野菜」。美味しくてトラックも箸も止まらない。

またマリンスルックなネイビーと白を基調としたお洒落な外観は、到底「生ごみ処理施設」とは思えない。そして海はないけれど、じつはバイオガスの再エネ発電で沸かした「足湯」がある。ただ、その事実を知る者はまだ市内にはほとんどいないという「真庭最後の秘境」。さらに「バイオ液肥濃縮設備」など全国初の取り組みがふんだんに取り入れられている。全国から視察がどんどん訪れている「くらしの循環センター」。真庭市民なら無料で施設見学ができる。写真の山口浩さんに会えるかも。



市内の方であれば「無料で施設見学が可能なので是非一度自宅から出かけた有極資源がどのように循環しているのか見学にいらしてください。

伊藤 忠司

伊藤写真館 写瑠夢

〒719-3144
真庭市落合垂水 430-6
Tel : 0867-52-2418
Fax : 0867-52-7273
HP : <https://www.syarumu-photo.com/>



心を込めた写真づくりを通じてご家族の幸せづくりに貢献します。



自分が住んでいる街に対する想いは全住民が持っているもので、それは、この街にも素敵な街があって欲しいという想いです。

「瑠璃色の夢を写そう」。この言葉で屋号を「写瑠夢（シャルム）」にした二代目写真館の店主。通称、ちゅうちゃん。創業六十年を超える老舗だが、じつはもともと継ぐ気がなかった。それどころか、写真の面白さにもピンと来ていなかった。

「やりたいこともないから、継いでみるか」ぐらいの気持ちで始めたところ、血は争えず写真の魅力にとっぷり。人物撮影の奥深さに目覚め、世界が瑠璃色にも、薔薇色にも輝き始めた。根っからの愛嬌で笑顔を引き出すが、気づくと被写体以上に自分のほうが笑っていることもしばしば。近くのスーパー「プラムタウン」に届きそうなほど、元気な声でシャッターを切っていく。その実力は折り紙つきで、県大会や中国大会で入賞する腕を持つ。

しかもただの写真館ではなく、ミニコンサートやカメラマンの体験教室など、「地元貢献」にもしっかりポイントが合っている。カメラの露出は適正かつ確実に、されど店主ちゅうちゃんの露出はやや高め。落合のいろんな取り組みでその姿を見かけられる。健康サロンの運営のほか、地域の祭りや地元が大切にしている「しめ山」を拠点とした地域活動にも関わっている。その活躍ぶりはフラッシュのように輝きを放っている。豆情報になるが、水泳が趣味。

やまもと 山本 英伸 ひでのぶ

ジェラート醍醐桜

〒719-3145
真庭市西河内 568-2
Tel : 0867-52-0181
Fax : 0867-52-0181
HP : <https://daigozakura.jp>



3代続く酪農家の手作りジェラート店。搾りたてのジャージー牛のミルクを贅沢に使用し、濃厚なのに、後味すっきりした仕上がりです。出来る限り、真庭の農産物を使い、鮮度の良い状態での加工を心がけ、日々、丹精込めたジェラートをご用意してお待ちしております。



直庭の農産物や加工品とコラボした商品開発に取り組んでいます。まだ私たちの知らない直庭の魅力的な食材があればぜひお声掛け下さい。

よく働く酪農家の三代目。キャッチフレーズも「朝から晩まで、酪農」。牧場で可愛がっているジャージー牛たちの搾りたてミルクを、そのまま贅沢なジェラートに。落合で「ジェラート醍醐桜」も運営している。ジャージー牛の愛らしい瞳に恋をして、ジェラートの名前も「恋するジャージー」。また、真庭の食材を使ったジェラートを、本場イタリア人たちが絶賛。「ジェラート世界大会」にてアジア・オーストラリア賞を受賞している。

ただ、お腹が弱めなのがちよっぴり弱点。本場イタリアへ研修に行ったときも、いろいろ食べないといけないのに、お腹が弱くてたくさんジェラートを食べられなかった悲しい過去を持つ。それでも牧場にいる50頭の牛たちへの愛が変わりはない。もともと動物が好きで、大阪でトリマーをしていた。「ジェラート醍醐桜」にもウサギさんたちがいて、観光スポットになっている。動物たちと心を通わせる姿は、真庭のムツゴロウさん。

ちなみに、実のお姉さんが「奥さんですよね？」と山本さんの奥さんに間違われがち、という「ジェラート醍醐桜」もある。

ふくおか よしき
福岡 義樹
みま はやと
美馬 隼

SunEnvision

Instagram: @sunenvision



空から陸まで撮影できる美馬と、いつもニコニコで癒しキャラのフォトグラファー福岡が素敵な作品をお届けします！

こんなに対照的な二人がいるだろうか。マリオとルイージのような、凸凹最強フォトグラファーデュオ「SunEnvision」。代表は除雪機も乗りまわす、「空手の有段者」。一方のパートナー（通称ふっくん）はいるだけでまわりを笑顔にする「子ども園」の先生。まるで正反対な二人がタッグを組み、真庭のブライダルなど貴重な一瞬を切り取っている。

代表は、正拳突きで鍛えたシャッターさばきが得意。空中でドローンを操り、空からも陸からも、飛び蹴りのようにその一瞬を逃さない。そしてときどき「隼の日常」をSNSにアップして、サウナで整う。一方のふっくんは、人の顔を覚えるのが苦手なのに、会った人からは忘れられないインパクトを与えてしまう、一方通行スタイル「フェイス」。相手を笑わせ過ぎてしまい、打ち合わせにならないこともしばしば。

最近ではふっくんの影響を受けて、代表のキャラが崩壊。なんとかクルールキャラを保っていたのに、もうクルールキャラが保てなくなるほど。しかしそれでも「SunEnvision」のタッグは相性抜群。「笑い過ぎてお腹が痛いです。最高に笑いました」とよほど撮影とは思えない感想をもたらすことも。じつはSunEnvisionは4名チーム。まだまだ変わり者がいるのかと思うと、楽しみでたまらない。



僕たちを見つけてくれてありがとうございます！僕たちの撮映は写真や動画だけでなく、思い出も残せる濃い時間になると思います！大切な記念日を残すお手伝いをさせていただきます！

にしばらぐず

こばやし ひろみ まつば まみ
小林 裕美・松葉 真美
いけもと めぐみ かわぞえ はるみ
池本 恵美・川添 晴美

Instagram : @ nisibara2022



開業100年になるJR姫新線「美作落合駅」まわりの「西原地区」が拠点。雰囲気ある駅舎をはじめ、「地元の人たちが気軽に集まれる場所をつくりたい」と思いをひとつにした四人が活動する地域づくり団体「にしばらぐず」。利用者が減っていくなか、駅舎に集まっているのは、サザエさんやマスコさん、カツオ、タラちゃんのカカシたち（みんなかなりリアル）。

地元に住んでいながら「知り合い、意外といないな」という気づきをきっかけに、地元有志の四名が中心に活動している。「何かできないかな」「私たちがやってみようかな」のやりとりから、まずは西原の財産である「美作落合駅」を使ってみようとなり、奇数月の最終日曜日に「えきまえカフェ」を開き、コーヒーを飲んだり、ちょっとしたワークショップをしたり。用事がなくても、ふらっと立ち寄れる時間をつくっている。「自分たちが楽しんで、まわりの人たちにも楽しんでもらう」がモットー。事実、「えきまえカフェ」の日には四人を中心に笑いが絶えない。慣れないInstagramに奮闘しながらも、「さくで、来週のサザエさんは？」というふうには、四人が足りないところを補いながら、定例会でつぎの企画を練っている。地元の人たちとも連携して、さらに広がりが見られている。六角形のレトロな時計台が魅力の「美作落合駅」。イベント日には「何をやっているんだろう?」と気軽にぜひ訪れてほしいスポットである。



中山間地の農産物R.M.O（地域運営組織）活動が農水省から高く評価いただきました。また土口地区の風景も昨年テレビのCMにも使用されました。ぜひ一度お越しください。田舎の雰囲気を味わってください。



すずき まさのり ふじわら もとしお
鈴木昌徳・藤原元夫
すさはら ひろあき すずき ともあき
杉原弘明・鈴木知明

NPO法人吉縁起村協議会

〒719-3136
真庭市吉 3614 番地2
HP: <http://engimura.net>



日本で一番「縁起の良い」地名が集まった村「吉縁起村」。「吉」「相愛」「真賀」「嬉石」「寿老」など、ここはまるで一富士二鷹三茄子。招き猫が両手両足を挙げ、打ち出の小槌もフルスイングするような縁起の良いところ。さらに相愛地区にはハートの形をした「ハートの木」を背景にカップルたちが訪れ、思い出にスマホでパシャリ。

ここの縁起の良さは折り紙つき。吉縁起村と名付けて以来、およそ100名の村が一気に地域おこしで盛り上がり、いろんな人たちが訪れる集落に。古民家を改修した「立寄処」には西日本初の無人ストアができ、「翠王（すいおう）」から特産品のお茶や羊羹、ジェラートになり、話題沸騰。ちなみに翠王とは葉と茎が食べられるサツマイモ。2024年には農水省の「デイスカパー農山漁村の宝」選考で特別賞も受賞。縁起の良さが止まらない。さらなる活躍を市内外からも望まれ、NPO法人吉縁起村協議会を設立。おかげで鈴木理事も大忙し。元教員の経験を生かして週に一回、無料の学習支援も始め、大好きなアニメ「ダンダダン」を観る時間が削られていく。異世界ものを観る時間も削られていく。

これは奇跡ではなく、縁起の良さが為せるわざ。ふらりと立ち寄れる。パワースポット「吉縁起村」によるこそ。

勝山





辻つじ 総そういちろう 一郎

御前酒蔵元 辻本店

〒717-0013
真庭市勝山 116
Tel: 0867-44-3155
Fax: 0867-44-5290
HP: <https://www.gozenshu.co.jp>



創業 1804年 (文化元年)。
当時の藩主に献上していたことから「御前酒」の銘を受ける。岡山県産雄町米と古代製法「菩提酛」で唯一無二の酒を醸す。

創業1804年(文化元年)の御前酒蔵元「辻本店」七代目。

だれもが振り向く端正な顔立ちと、180cmを超えるモデルのようなスタイル。「イケメン蔵元名鑑」掲載の正統派二枚目が引き継ぐのは、二百年以上続く伝統の酒蔵。持ち前の「なんとかなる精神」で、御前酒辻本店を切り盛りしている。運が良ければ、勝山町並み保存区内のカフェと直営ショップ「NISHIKURA」で本人に会えるかも。

岡山県産の雄町米(おまちまい)と古代製法「菩提酛(ぼだいもと)」,そして勝山という地域とともに醸して来た唯一無二の日本酒をつくっている。勝山の喧嘩だんじりなど、地域の行事には欠かせない。

さらに、酔わせるのはお酒と容姿だけではなく、ギターの演奏でも酔わせてくれる。ミュージシャンとして東京で活動していたこともあるほど。さかのばれば、SPレコードを集めていた先々代から続く音楽好きのDNA。最近ではドラムを叩く息子とのセッションを休みの日に楽しんでいる。サカナクシヨンの「新宝島」が鳴り響く。すでにステージ上で親子の共演も果たしている。ただ、体力のないのが弱点。ここだけの話、じつは奥さんのほうがお酒が強い。

こうだ 甲田 ともゆき 智之



X : @kohda_products



「真庭の人びと」を手にとっていた。だまされて、ありがたうございます。

この冊子「真庭の人びと」の原稿を執筆している自称作家。「真庭の文豪」と呼ばれることもあるが、実績が皆無にも関わらず「文豪」と呼ばれているおそらく日本で唯一の人物。前号「真庭の人びと2022」発行時には満を持してサイン会を開催するも、知名度のなさから参加者がゼロという記録を叩き出した。あの日涙を濡らした枕カバーはまだに乾いていないという。

大阪から真庭に移住したきっかけは、湯原で開催された婚活パーティー。地元奥さんと出会い、さらに古い師から「大阪よりも真庭のほうが良い」と背中を押してもらい、移住に至った。取材好きのわりに人見知りのためもじもじしている。文筆業が本業のはずだったが、移住相談や新規就農希望者の窓口、高校のお手伝いや勝山に関する事などに携わり、文章を書くよりも冷や汗をかくことのほうが多くなっている。誘われるまま「面白そう」と思うことが多々あり、結婚式にて神父役をしたり、そのほか馬の下半身役やマントヒヒ役、相方と新庄村で漫才もする。毎晩のビールが欠かせず、それに対して尿酸値が数字で応えてくれている。この冊子「真庭の人びと」が真庭を超えて、日本全国さらには海外まで、たくさんの方のお手元に届くことを願っている。

みうら 三浦 弘嗣 ひろし

美作ビアワークス

〒717-0023
真庭市江川 817-1
Tel : 0867-44-1535
Fax : 0867-44-1535
HP : <https://mimasakabeerworks.com>



真庭発 (初) 地ビールの製造・販売
を行っています!

真庭ではじめて地ビールを手がけたバイオニア。鮮やかな色合いの「MBW (美作ビアワークス)」と描かれた軽トラック (保冷車) が、今日もアールコールという夢をのせて走っていく。

コミュニケーションが弱点 (自称) と言うけれど、発酵を促してくれる酵母たちとのコミュニケーションはだれよりも饒舌。酵母たちとコミュニケーションをとり過ぎて、これまで五十種類以上の商品を生み出し、酵母たちを喜ばせてきた。なかには同じ勝山の御前酒の酒かすを使ったものや、山椒を使ったものなど、真庭のものとクラフトビールをかけ合わせるものは、もはやお酒の神様「バックス」のような存在。地元のものを使って新しいビールをつくりたい、とさらなる意欲に燃える。

もともとはワインと日本酒が好きという驚くべき事実。ビールは苦手だったが、大学で微生物学を学んだ結果、「クラフトビール」に出会い、その香りと爽やかさに感動。職人気質も相まって、唯一無二のブルワリーになった。ホップもつくっている。工房には試飲スペースがあり、クラフトビールが飲める。最近では工場の敷地内で「飲み放題」かつ音楽が堪能できるイベントなども実施している。じつはTシャツやエプロン、キャップといった「美作ビアワークス」グッズも取り揃えている。



掲載いただき、光栄に思います。

こやのともえ 小谷野 智恵

かびばらこーひー

〒717-0013
真庭市勝山 158
Instagram : @cappibara_coffee



ひとりひとりの心に寄り添うようなコーヒーをいれたいと思ひ日々お店に立っています。かびばらはみんなの笑い声が響くとても明るいお店。ひと息ついて、元気になってもらいたいです。

かびちゃん、かびこちゃん、と誰からも愛される「かびばらこーひー」の店長。いつも笑顔で、明るく元気。笑顔がはじけ過ぎて、笑顔が眩し過ぎて「スマイル爆弾」の異名を持つ。酔っぱらうと、笑ったまま誰でもバシバシ叩いちやう。まさにスマイル爆弾。おっちょこちょいなどころも魅力的。

先生も務めている「バリ舞踊」を踊りはじめると、後ろにバリ島の砂浜が見えてくる。ガムランも聞こえてくる。インテリアも大好きで、バリの雰囲気を取り入れた自分の部屋がお気に入り。びっくりするぐらい頻繁に模様替えをする。かびばら店長のコーディネートにも注目。衣食住すべてにこだわっている。そんなこだわりを詰め込んだZINE「BALLER」バリ島サヌールでしたい25のコトくも発行。ただお店のためイベントに向かうときの車内だけは見えないで。クルマのなかに道具をぎゅうぎゅう詰め込んで、開けるたび毎回おおごとになっている。それどころか、後ろのドアを開けっ放しで走っていたことも。

筋トレで鍛えた腹筋は本物。ひとりの時間も大切にされていて、旭川のゆったりとした流れを見ながら、コーヒーを飲むのが至福の時間。じつはYouTubeチャンネル開設の準備にも入っている。今後の情報はInstagramで。



真夏の濃いメンバーの中に入れていただけ、光栄ぞっす

まつお
松尾
としまさ
敏正

Nostalgie Cafe
ろまん亭

〒717-0013
真庭市勝山249
Tel : 0867-44-2345
Fax : 0867-44-2345
HP : [https://i-maniwa.com/
area/roman/](https://i-maniwa.com/area/roman/)



『真庭』の旬の美味しい食材をふんだんに使い、地域を『食』で楽しんで頂くことをコンセプトに洋食にアレンジしてランチプレートスタイルでご提供しております。



「まぢづくりは人がくり」という思いの中、色々な出会い大切にしています。今回の掲載に關しまして、人の輪が広がることを期待しております。

賑やかな席が大好き。嬉しくなっていく飲食み過ぎちゃう、勝山「Nostalgie Cafe ろまん亭」の店主。初対面の方との挨拶は、ほとんどいつも飲み席で「乾杯！」から始まる。大勢の人前に立つと、さらに本領発揮。淀みなく、場をまわしていくMCになる。

二日酔いなんて何のその。いつも明るく、陽気でポジティブ。ラテンの血が流れているのではないかと、と思うほど。真庭のいろんな企画に携わり、企画が立ち上がったなら、とにかくすぐに動きたい。考えるよりも、身体が先に動いちゃう。そのため、いつもまわりを振りまわしているらしい。特技は、一度会った人のことを覚えていること。人と人を繋ぐのが趣味で、その結果市内外問わず、知り合いが多い。そこはかたないボス感が漂っている。

じつは活字が好きで意外な一面も。夜な夜ないろんな議事録を読みあさっている。もしくはNetflixで映画を観ている。熱帯魚にもハマっていて、止まらない繁殖、増え続ける水槽。店内がちよっとした水族館のようになってる。まぢづくりなどを担う「一般社団法人コミュニティデザイン」の代表でもある。

辻つじ 麻衣子まいこ



御前酒蔵元 辻本店

〒717-0013
真庭市勝山 116
Tel : 0867-44-3155
Fax : 0867-44-5290
HP : <https://www.gozenshu.co.jp>



創業 1804 年（文化元年）。
当時の藩主に献上していたことから「御前酒」の銘を受ける。岡山県産雄町米と古代製法「善提甃」で唯一無二の酒を醸す。

勝山で二百年以上の伝統を継ぐ、御前酒蔵元「辻本店」の杜氏（とうじ）。酒づくりの一切を取り仕切る蔵人の長。全国的にも珍しい女性の杜氏。根っからのカンベキ主義ゆえ、お酒づくりに妥協はない。その徹底したこだわりと、地元の素材を使うことが「美味しいお酒」になっている。

最近では、大学で国際政策文化学を学んだ経験から、アメリカやヨーロッパ、アジアなど広く海外にも展開を進めている。勝山、真庭から世界の「SAKE」になっている。

そんな辻さん。じつはお願ひされると断れないおひとよし。コラボしたいという地元の素材があれば実現しちゃうかも。さらにお酒に合うおつまみをつくるのも大好き。梅干し、らっきょう、ハリッサ（辛口調味料）など。ただ、おつまみも仕込みはじめたら、ついつい杜氏としてのスイッチが入っちゃう。その結果、絶品の保存食「こ」に極まれり。日本酒の垣根を超えるような新たな可能性を模索しつつづけており、いつか「日本酒の壁を壊したい」と思っている。静かな情熱に燃えながら、今日も御前酒、ひいては日本酒業界の「これから」を仕込んでいる。

ゆきとう 行藤 宜央のりお

株式会社三協商建

〒717-0013
真庭市勝山 126
Tel : 0867-44-2227
Fax : 0867-44-2065
HP : <https://www.sankyo-1955.com>



真庭市勝山の町並み保存地区内に本店があり、市内を中心にして上下水道工事をメインにリフォーム工事・不動産取引・ガスの販売をおこなっております。

勝山町並み保存地区内に本店がある「三協商建」の代表取締役。上下水道工事をメインに、リフォームやガスの販売などを行っている。真庭だけではなく鳥取方面にも拡大しているが、道が覚えられず苦労している。顔と名前を覚えるのも苦手らしい。それでも2025年に「一般社団法人真庭青年会議所（真庭JC）」の理事長を務め、その前年にはJCの関連で、習い始めて数ヶ月のベースを鳴らし、大観衆の前で「新宝島」を披露している。根っからの明るい性格で、だれとでも分け隔てなく接することができる。生まれ育った勝山を愛し、自分たちの世代でも勝山を盛り上げられたら、と思っている。とくに勝山の化生寺に埋まっている「殺生石（生きものを殺める石）」に並々ならぬ興味を抱いており、このままでは掘り起こし兼ねない。上下水道工事の技術を持ち合わせているので、いつでも掘り起こすことができる。そのほかの勝山の観光資源にも興味津々。

最近では突如筋トレに目覚め、食事制限も課した。週二回ジムに通い、朝食はオートミール、昼食はささみとブロッコリーというアスリート並みのストイックさ。彼は言う。「飽きやすいんで、いつまで続くかわかりません」。挑戦はまだ始まったばかり。



勝山にはたくさんの観光資源もあり、良い場所です!!

せぎき ひろこ
 瀬崎 景己
 かわぞえ もとぎ
 川添 元樹

銘建工業株式会社

〒717-0013
 真庭市勝山 1209
 Tel : 0867-44-2693
 Fax : 0867-44-5105
 HP : <https://www.meikenkogyo.com>



あるものを使いきる あるものから新しい価値をつくりだす

木の新しい価値を提案する。「木をまるごと使いきる」真庭を代表する企業「銘建工業株式会社」の同期入社。里山の恵みに携わる会社の鏡「山登り」でお互い近づき、結婚。木材同士をしっかりと貼り合わせたCLTのような夫婦生活を送っている。

銘建工業に勤めるため移住してきた奥さん、もとはバイオマスツアー担当。バイオマスツアーに訪れる年間二千人以上の見学者に真庭の取り組みを発信してきた。いまは採用を担当。山が好き過ぎるゆえなのか、山のカタチをしたお灸が趣味。寝る前には、熱を帯びるバイオマス発電を彷彿とさせるほど、じんわり心と身体を温めている。旦那さんは、家に80種類ものボードゲーム(集材材という「板」を扱うのが関係しているのかもしれない)を持ち、銘建工業の若手社員たちとわいわい楽しんでいる。そしてときどき、米子方面にアユ・イカ釣りへ。料理も好きで、カレーはスパイスからつくる多趣味ぶり。

そんなふたりは地域活動にも積極的に出向き、最近では新しくできる「銘建工業の社宅」に地元のひとつも楽しめるパブリックスペースや公園が設けられる予定でふたりも地域に開かれた場としての広がりを楽しみにしている。公私ともに地域との繋がりが、「輪」を大切にしている。「輪」といえば「大阪・関西万博」の大屋根リングの2/3は銘建工業がつくっている。



真庭観光局主催のスタディツアーで施設を見学できます

野崎天我

ノザキサイクル

〒717-0013
真庭市勝山 311
Tel : 0867-44-2736
HP : [https://nozaki-cycle-s.
webnode.jp](https://nozaki-cycle-s.webnode.jp)



Instagram : @nozakicycles



今年が27歳だけど、この町では若者店主だから、若者パワーで頑張ります。

自転車のことならいつだって、全力「立ちこぎ」スタイルな「ノザキサイクル」の若き五代目。創業は、廃藩置県の前という。そんなノザキサイクルの店内には自転車屋ではそうそう見ない大きなテーブルが。各地の自転車好きが集まり、テーブルを囲んで自転車談義に花を咲かせている。サイクリング帰りのお客さんが立ち寄って、わいわいとお酒を飲み、そのまま店内に布団を敷きはじめるとも。もはや何屋さんかわからなくなるが、おそらく日本でいちばん「長居できる自転車屋」に違いない。

高校時代は、自転車競技に打ち込んでいた。毎日ペダルをこぎ続け、とうぜん太ももはパンパン。高校時代に一生分の汗を流し切ったのか、とてもスッキリ爽やかな青年に。愛車はスイス発のBMW C（怖くて値段は聞けず）。週に1回ぐらい、お客さんと一緒にサイクリングへ。真庭は信号が少なく、サイクリングに適している。試走してみても、さらに良くなるよう部品を組み替え、オリジナルの自転車を生み出している。

「商売っ気がない」のが悩みの種だが、正直なところがお客さんから信頼されている。「これは高いだけだからやめた方がよい」は名言。じつはイラストレーター的一面も持っている。真庭のオリジナルブランド「0867」とのコラボも人気。

ふじもと 藤本 耕司



やればわかる。

CAFÉ indigo blue

〒717-0013
真庭市勝山 271
Instagram: @café_indigoblu



趣味をすべて、仕事のクオリティにまで高める「CAFÉ indigo blue」の店主。不定期の週三日ながらオープン日は満員となる絶品カレーも、もともとは市販の「カレーキット（スパイスと説明書のセット）」からスタート。しかし、つくっただけでは終わらない。より一層の美味を求めて試作を重ね、至極のカレーにたどり着いた。温もりある店舗の外装、内装を独学DIYでみずから手がけ、そのクオリティにいまでは大工仕事や金属加工も頼まれる。入り口に並ぶ革製品も店主の手づくり。マルシェに出店するオリジナルキッチンカーもほとんど自身で手がけた。半生をひも解けば、サラリーマン・革職人・カフェ店主という転職サイトも追いつかない異色の経歴を持つ。店主にできないことはない、まるで「空も飛べるはず」と思っていたら、店名「CAFÉ indigo blue」の由来はスピッツの「インディゴ地平線」から。

包容力のかたまりで、いろんな人たちが相談に訪れる。スパイスを混ぜ合わせるように、相談ごとをつなぎ合わせているうちに「もっと地域を盛り上げたい」とマチをメイクする団体「マチメク」を近所の人たちと立ち上げた。にぎやかな楽団「マチメク楽団」を抱える団体となり、店主もギターを弾く。「勝山のお雛まつり」実行委員も担っている。

節の少ない美しいヒノキ材を扱う製材所「樋口木材」二代目社長。ヒノキ材は節の少ないものを扱うが、本人はしっかりと節目のある人生を歩んできた。生まれ育ちは樋口木材の近くながら、前職はまさかの薬剤師。倉敷の調剤薬局で7年勤務した後、製材所の二代目社長に転身。初代社長である叔父から「やってもらえないか」と声がかかった。薬剤師として「痛（いた）」に対応していたのが「板（いた）」に変わったという。とにかく異色の経歴過ぎる。

木材の「せり」にもみずから参加して、自分の目で見て選別。良質なヒノキをさらに天然乾燥させ出荷している。その品質は御前酒「純米大吟醸」の化粧箱に使われたり、一〇〇年先も続くオリジナルブランド「百年木器（100年もの真庭産ヒノキを使用）」を立ち上げたり、寺社仏閣からも依頼の多い。無理な力は加えず、まるで「左手は添えるだけ」のような滑らかな仕上がりと桜木花道の名言を思い出さずにはられない。事実、週に1回バスケットボールで汗を流し、ミニバスケのコーチも務めている。「いけち」の愛称で親しまれ、4人の子どもの父親。真庭に戻ってきて10年以上経つが、いまだに倉敷に住んでいた名残り「倉敷」ナンバーのクルマを走らせている。

いけだ 池田 みつまさ 光真

樋口木材

〒717-0011
真庭市見尾 174-4
Tel : 0867-44-7260
Fax : 0867-44-6460
HP : [https://www.big-advance.
site/s/164/1681](https://www.big-advance.site/s/164/1681)



Instagram : @higuchimokuzai

節の少ない美しい檜材を中心に生産しています。



様々なサイズを取り揃えていますので、ご相談下さい。

いなだ かずのり 稲田 一憲

東真産業株式会社

〒717-0013
真庭市勝山 805
Tel : 0867-44-2361
Fax : 0867-44-2551
HP : <https://www.toshin-net.com>



手がけている事業だけで「暮らし」が成り立つ「東真産業株式会社」代表取締役。地元民は親しみから「東真」よりも「トーシン」のニュアンスで呼んでいる。「真庭から東へ広がっていく」という願いを込めた社名だが、もはや北にも南にも西にも広がっている。ガソリンスタンドからLPガス、新車・中古車販売、家電販売、農業に至るまで、ジャンルも多方面に広がり、創業100周年に向かって着実に進んでいる。

自身も市外へ足を伸ばして「真庭に何回も来てもらえる仕組みづくり」を考える。レンタカー事業を始めた理由もそのひとつ。代表取締役という重々しい肩書に反して、軽やかなフットワーク。そのフットワークの軽さは昔、野球で鍛えた足腰が生きている。趣味のゴルフも野球をしていたときのスイングがしっかりと生きています。さらに舞い込む案件があまりに多く、瞬時の判断が求められるが、それさえも野球で培った「選球眼」を用い、狙い球をジャストミートさせていく。気さくな性格で、従業員に思いを馳せる代表。事実「トーシン採用特設サイト」の「人を知る」には個性豊かな従業員の方々がたくさん（なかには指名OKという方も）。従業員の方々と「地域と共に快適な未来を」つくり続けている。



東真産業株式会社

真庭市に住んで人生を充実させましょう!

磯田学

いそだまなぶ

Instagram :
@fieldofdreams_maniwa



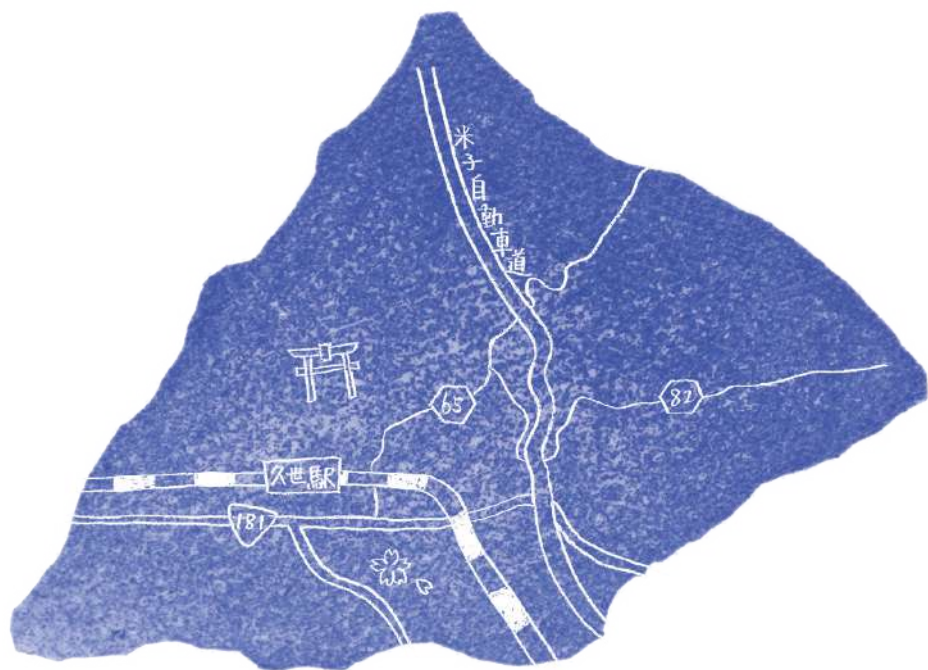
自分で無理とか限界を求めない。とりあえずやってみなせいで失敗してもいいから。(子供によく言ってる)

勝山の子どもは、だれもがみんな知っている「まなぶさん」。毎朝8時前になると勝山の鳴門橋たもとに立ち、夕方には青いサイレンをまわしながら、クルマで巡回する。その活動を10年以上つづけ、さらに中学校野球部、部活動指導員(監督)も務めている。夜には鉄板焼き「幸楽」店主。最近はまだづくりに関わる地域魅力化コーディネーター、一般社団法人の代表も担当。肩書きを挙げていくだけで、ここが埋まってしまふ。

経歴を書けば、埋まるどころかはみ出してしまふ。エースとして高校野球での実績が認められ、社会人野球へ。東京ドームの「都市対抗野球」で準優勝を飾り、3回もプロ野球のドラフト候補になっている。その後、華麗なる転身を遂げて芸能事務所へ。オペラ・俳優・CMにも出演。「女形」もしていたらしく、酔っ払うとその名残が出ることも。人生の振り幅の大きさを思っていたら、振り子打法のイチロー選手と仕事をしたこともあるという。とにかく話題の引き出しが多い。

子どもたちのことをいつも考え、「とりあえずやってみよう。失敗しても良いから」と伝えている。旭川浴いにある「勝山ストリートパーク川夢(リム)」を立ち上げたのも、子どもたちの選択肢をもっと広げたいと考えたから。そんなまなぶさん、いま勝山のまちづくりからドラフト1位指名がかかっている。

久世



真庭のつなぐりは楽しいよ！



おかもと
岡山
おかもと
優衣
康治



割烹旅館 おかもと

〒719-3201
真庭市久世 2603
Tel : 0867-42-0660
Fax : 0867-42-6123
HP : <https://okamoto-maniwa.com>



1880年(明治13年)に創業した当館は、春はお花見、夏は旭川の鮎、秋には山の幸、冬には地鴨の鍋と一年を通して、お料理とおもてなしを通じて、お客様とお客様をつなげるお手伝いができればと張り切って面白いしております。皆様のお越しをお待ちしております。

久世商店街で、百年以上の歴史を誇る老舗割烹「おかもと旅館」五代目。訪れたら味の割烹料理はもちろん、必ず何かが起こる、だれかと運命的に出会う。人と人が繋がり、またその人が別のだれかと繋がり、いつのまにかどんとん輪が広がっていく、真庭を代表するパワースポット。とろけそうな笑顔で、いつも人と人が繋がる背中を押してくれる。

また、母校の旧遷喬尋常小学校を舞台に「懐かしの学校給食」などを手がける、地域づくり応援団「まにワッショイ」の代表でもある。「頼まれごとは試されごと」をモットーに、だれかの「やりたい」を、「よし、やろうで」と応援してくれる。ちなみに、真庭のいたるところからいろんな人が集結する「まにワッショイ」の宴会は、毎回後世まで語り継がれる数々の伝説が生まれているという。真庭の観光を担う「観光地域づくりマネージャー」でもあり、じつはこの冊子「真庭の人たち」の生みの親でもある。そこには「みずからが観光資源になろう」という思いが込められている。

そしてそんな「おかもと旅館」の看板娘を務めているのが、優衣さん。訪れるお客さんへの気配りを欠かさず、さらには両親ゆずりのトークで、おかもと旅館に欠かせない存在。英語も話せるため、おかもと旅館にインターナショナルな風を吹かせている。

さくらい 櫻井 あやこ 彩子



ブライダル
プロデュースカレン/
ブライダルハウス彩

〒719-3203
真庭市富尾 52-1
Tel : 0867-42-0035
Fax : 0867-42-2359
Instagram : @bridal.house.aya
@bridal.produce.karen



真庭全体を結婚式会場としてお2人だけのまにわ婚をご提案。ブライダル、成人式など多数の衣裳をレンタルしています。



ブライダル、成人式など皆さまの大切な記念日のお手伝いをさせていただきます

「結婚したいー」と思ったら、まず最初に連絡するべき「まにわ婚」の仕掛け人。「生きる真庭版セクシイ」と言っても過言ではない。まだそこない出会い、をどんどん生み出している「ブライダルプロデュースカレン」代表。和装も洋装も、多数の衣裳を取りそろえる貸衣裳が本業だったが、現在は結婚式全体をプロデュースしている。

彼女の手にかかれば、真庭全域がどんどん式場に変わっていく。その弊害は、どこへ行ってもついつい「ここで結婚式ができるかも」と考えてしまうこと。趣味の神社仏閣めぐり、温泉めぐりをして、まぶたを閉じれば、しぜんと脳内に「CAN YOU CELEBRATE?」が流れてくる。そして聞こえる「新郎新婦の入場です！」の声。これまでも真庭を舞台に、築百年以上の旧遷喬尋常小学校でのウェディングや、雄大な蒜山での屋外ウェディング、鍾乳洞での前撮りなど、唯一無二「真庭ならではの」オリジナルウェディングを手がけてきた。「真庭が大好きだから、ええい、全部式場にしちゃえ！」と言ふ姿は、まるで無邪気な魔法少女のよう。もちろん、引出物の選択肢も真庭のものがたくさん。

じつは成人式の衣裳にも携わっていて、二十歳の記念日を手伝っている。思わず「可愛い！」と心の声がダダ漏れしている。ただ、弱点はハイシーズンに予約が殺到してしまうこと。こればかりは避けられない。脳内はウェディングと成人式でいっぱいになってしまふというなんとも幸せな弱点。

北海道苫小牧から環境省を経て、真庭市へ。そこで巡り合ったのは「ふとんのとみなが」の質の良い寝具で眠る「眠れる森の美女」千津さん。オーダーメイドの枕でぐっすり眠る千津さんを起こし、久世のまちづくり応援団「まにワッショイ」にわっしょいわっしょいわっしょいわっしょい後押ししてもらい、めでたく結婚。

とても楽しい夫婦。千津さんは昭和九年創業「富永ふとん店」のご令嬢。人生の三分の一を過ごす睡眠のスペシャリストで、睡眠環境寝具指導士のほか、ピローアドバイザー、羽毛診断士の資格も持っている。店舗の二階には、帰りたくなくなっちゃう極上の試し寝ルームがあるらしい。職場でありながら睡眠に誘われるため、はじめたブログが続かないのが悩みの種だったが、最近なんとか睡眠に打ち勝ち、ブログやインスタが続くように。睡眠に勝利したブログとインスタはぜひ見てほしい。

一方の翼さんは羽毛のごとく、フットワーク軽く公私ともに駆けまわっている。駆けまわり過ぎて、買ったはずの工具をまた買っちゃうことも。飄々としながらも、自家製石窯をイチからつくりあげてしまうバイタリテイ。子どもが好きで、自分の子どもはもちろん、子どもたちのために野菜を育てて、一緒に収穫したりしている。最近ほブドウの栽培も始めたらしい。

とみなが ちづ 富永 千津 とみなが つばさ 富永 翼

ふとんのとみなが

〒719-3202
真庭市中島408
Tel: 0867-42-0322
Fax: 0867-42-4085
HP: <https://www.nekoronta.co.jp>



寝て比べてしっかりと試していた
だくふとん屋です。2階は靴を脱い
でお客様にゆったりとお試しいた
だくための自慢の1? 試し寝ルー
ムです。寝具のお悩みはもちろん、
睡眠のお悩みも睡眠環境寝具指導
士を有するスタッフにお聞かせく
ださいね!



人図鑑に夫婦が参加させていただくこと、とても嬉しく思います!
主人は市役所勤務なので店舗とは全く関係ありませんが!

このの 河野 尚基

なおき

有限会社
河野酢味噌製造工場

〒719-3201
真庭市久世 267
Tel: 0867-42-0102
Fax: 0867-42-0162
HP: <https://kohno-honten.co.jp/2018/>



明治21年の創業当時から変わらない伝統の糀蓋製法で仕上げた手作り糀は、うま味が強く柔らかくてけややく、口当たりもすっきりとしています。この糀を作るのが、代々が大事に使ってきた糀蓋。古いもので明治21年創業当時の物から新しいものだと昭和27年のものまで。代々が使い続ける糀蓋だからこそ、麴菌が糀蓋に住み着き柔らかくて力強い糀を作ります。

明治二十一年創業の五代目。代々受け継がれてきた製法と麴を守り、すべての工程を昔ながらの手づくりで行なっている。まろやかで厚みのある味、芳醇な香りの醤油は、県内外の料理通も唸らせる逸品。伝統を守ってきたその技は本物。五感を研ぎ澄ませ、左手が温度計となり、麴と対話をしながらつくっている。ただ、いささか対話し過ぎるくらいがある。麴とも人ともしゃべり出したら止まらない。思ったことがすぐ口に出ちゃう。

「真庭の発酵文化を伝え、広めている「まにわ発酵's」のリーダーでもあり、発酵に携わっている人たちを繋いでいる。野望は、いつかフランスで味噌をつくること。若い頃は、松坂大輔に似ていると言われていたが、最近は風貌に味(おもに旨み)が出てきて、渥美清に似ていると言われている。打たれ弱い、すぐに忘れる真庭の「福の神」的存在。

料理が得意で、自社の醤油や味噌、酢を使って絶品の料理をつくっている。持ち前の探究心でたどり着いた生姜焼きとだし巻き卵は神がかっているという。食べることも大好き。つくっては食べをくり返して、現代の渥美清になったと言われている。



真庭の産見地資源として選定していただきありがとうございます。
「まにわ発酵's」は、人と人の縁をかち取る発酵の力と思っています。

お悩みの父の通算整理



河野 晃登

このの あきと

河野晃登税理士事務所

〒719-3201
真庭市久世 2491-9
Tel : 0867-45-1011
Fax : 0867-45-1012

くみとり上手、駆け込み寺

幼少期から算数好きで、根っからの「税理士」。数字を扱うことが好きで税理士になったが、あれもこれもさまざまに相談を受けているうちに、いつのまにか「税」とまったく関係のない相談も舞い込む「駆け込み寺」に。気が付けば相談ごとの道先案内人になっている。

商売道具である電卓は「叩くスピード」を求めた二十年以上の相棒。まるで音楽を奏でるように電卓を叩いていると思っていれば、三線の使い手でもある。本当に音楽を奏でていた。真庭市内各地域の飲み歩きイベント「のみるの」でも三線を奏で、海のない真庭に沖縄の南風（ばいかじ）を吹かせてくれる。頼まれたら断れず、仕事を詰め込みすぎるところがあり、ときどき自分自身こそ「仕分け」が必要なのでは、と思うことも。それでも自分のことはさて置いて、クライアントのため奔走する静かなる巨人。趣味はツーリングだが、モットーは「暗くなる前に帰宅」。理由は虫が突撃してくるのがいやだから。虫の突撃は苦手だが、長淵剛の「とんぼ」は、ある意味本人を凌駕する歌唱力。「ああ、しあわせのとんぼよ。どこへ」風を引き連れてとんぼとともに今日もひた走る。じつは河野酔味噌製造工場の尚基社長の実弟。

おおにし 大西 舞 まい

おおにしのお菓子屋さん

〒719-3201
真庭市久世 2860
Tel: 0867-42-0209
Instagram:
@ohnishinookashiyan



お菓子を食べている時は、ぼーっとのんびりしてほしい。そんな時間を提供できるようなお菓子を作りたいです。



まだまだ至らないところがありますが、深山の方に支えられて日々
頑張っております。これからもういろいろなお菓子を作っていきたいです。

ふらりと小学生だけでも買いに来ってくれる、普段づかいのお菓子屋さん「おおにしのお菓子屋さん」。

おじいちゃんの代から続く「大西菓子舗」をリニューアル。二十歳までお菓子づくりをしたことなかった大西さん。父親が小麦粉アレルギーだったために、後継者になつたらしい。修行を経て、本格派パティシエに。季節のフルーツを使ったスイーツは絶品。おじいちゃんの代が和菓子屋だったので、あんこのお菓子もオススメ。

おっとりとした性格で、漫画を読むのが好き。いろんなジャンルを読み、ハマったら止まらない。お酒の席があれば、顔を出す。顔を出すたび、なぜだか酒豪のイメージが強くなっていく。ただ本人いわく、「お酒は強くない」とのこと。どうやら日本酒を愛でる姿がそう思わせているとかいないとか。日本酒を愛でる姿が、ワンちゃんを愛でる姿とまったく同じらしい。ワンちゃん大好き、生粋の犬派の大西さん。

食べながら、ぼーっとのんびりできるような、優しいお菓子づくりをしている。のんびりの象徴「ナマケモノ」が店の目印。

ひらた しんたろう 平田 晋太郎

株式会社平田建設

〒719-3224
真庭市目木 1702-1
Tel : 0867-42-2543
Fax : 0867-42-4440
HP : <http://cleverlyhome-tsuyama.com/>



新築住宅やリノベーションから造成や道路整備まで「暮らしの」スペシャリスト集団。人の繋がりと感謝の気持ちを大切に日々向上心を持って取組み、地域に頼られ続ける会社を目指している。

土木工事から新築住宅まで、幅広く「暮らし」を支える「平田建設」の四代目。道路整備を手がけているからか、酔っぱらっては導かれるように道路沿いの溝にふらふら吸い込まれていく。吸い込まれ、落ちることもしばしば。焼酎が大好きな癒し系男子。大学卒業後、東京の高級時計店で働いていたが、地元が好きで帰ってきた。当時、土木の知識がないまま、今の仕事へ。

本業とは別に、南アフリカなどから輸入した多肉植物をかなり集めている。好き過ぎて、根っこを切ってはニマニマしている。推し多肉はオベルクリカリアパキプスだが、残念ながら一般の人には伝わらない。見たことのないカタカナが並ぶ。いつか植物園をつくりたいと思っている。魚をさばくのも趣味で、ストレス発散と言って魚をさばき始めるらしい。

幼少期はエレクトロンに勤しみ、白タイツに半ズボン、サスペンダーが似合うおぼっちゃま風だった。ただ、野球もしていたため、髪型は坊主。その風貌が衝撃的過ぎて、いまだにいじられキャラの原因になっているらしい。最近、漢方薬を飲んで、たるんできたお腹の減量に成功。少年野球の監督もしている。



くろだ かずみ 黒田 和美

猫の「ネコちゃん」を愛して止まない世界の酒「黒田酒店」店主。聞けば、本当にネコちゃんという名前だと言う。酒店だが、一般的な酒店とはまるで違う。毎週月曜日夜のみ営業する「お酒を置いていない」酒屋。祖父が創業時に謳った「世界の酒」は、いまや築100年以上が経ち、改装した店内には真庭市内外からお客さんが訪れる。毎週店主がカウンターに立つわけではなく、ハンバーガーショップや台湾料理など週替わりでいるんな人たちが出店者となっている。店主の思いから「これから出店を考える人のチャレンジショップ」になるケースも。

店内はお洒落に装飾され、あるときは音楽スペース、あるときは夜喫茶、またあるときは真面目な打ち合わせの場となる。最近ではD-I-Yを進めていた久世河川公園のスケボー場正面にあるフリースペース「黒田酒店ウラの二階」も完成。旭川を臨む空間は屋内に人工芝を敷き、あえて用途は固定しない。居心地の良さを求め、人びとが集い、企画や交流が生まれる空間になっている。

そんな店主の本業は、現場の裏方実務。音響や会場装飾・デザイン・イベント運営などみずから現場に立ち、真庭市内外問わず楽しそうにバタバタと動きまわっている。ただ、食いしん坊のネコちゃんに会うため、どれだけ遅くなくても必ず家に帰っているらしい。

黒田酒店

〒719-3201
岡山県真庭市久世2591
Tel : 050-3558-2180



河野 文雄

ここの
ふみお

エキマエノマエ

〒719-3201
真庭市久世 2426
HP : [https://www.maniwa.life/
home/ekimaenomae/](https://www.maniwa.life/home/ekimaenomae/)



コワーキングスペース・レンタルスペース。イベントなどにも対応します。



嬉しく思えます（照れ屋）

古いものを生かして、人が集まるきっかけをつくる「わっしょいボヘミアン」代表。久世駅前空き家を改修した「エキマエノマエ」を拠点に活動している。ボヘミアン（自由奔放）の名前どおり、破天荒な半生を送り、自主規制のため書くに書けない経歴を持っているらしい。ごみの資源化をおこなう「有限会社エコライフ商友」の代表でもある。

照れ屋で、バリビで、健康オタク、ということをごどう切り取ればいいのかわからないほどの多面性を持ち、それがたまらない魅力となっている。話題の引き出しが豊富で、誰でもすぐに打ち解けられる。ケトジェニックについて話し始めたら止まらない。バイタリティとアイデアに溢れ、お酒とBBQがあれば、さらにブーストがかかる。

地域づくり応援団「まにワッショイ」から生まれた「わっしょいリノベーション部」の仲間達と空家の利活用に取り組んでいる。久世駅前のCLTトイレ「木テラス」の清掃も自主的におこなっている。特技は、「似過ぎて」と絶賛の矢沢永吉のものまね。ただ、照れ屋さんのため、なかなかお目にかかれない。

すみだ 住田 明大 あきひろ

スミダ商店

〒719-3201
真庭市久世 2854
Tel : 0867-42-0230
Fax : 0867-42-0235
HP : <https://sumidayaoya.thebase.in>



真庭の野菜や果物の美味しさを、旬を大切に、生産者の想いと共に全国へ届けます。



八百屋です。全国の調味料をそろえます。二軒から夏夜の魅力を伝えたい。

久世商店街にあるアットホームな八百屋「スミダ商店」三代目。地元の野菜、果物にこだわり、取り扱うものはどれもみずみずしいものばかり。野菜ソムリエの資格も持ち、野菜について語られる豊富な知識は、聞く者を魅了して止まない。資格を生かしてあみ出した特技「人を野菜に例える」は、共感の嵐を呼んでいる。早く「真庭の野菜大使」として公式に認められなくて、うずうずしている。人と人が繋がる八百屋になっており、店先でイベントを開催しているほか、最近では店内を改装して毎週水曜日にランチが食べられる「すみだのまかない」をスタート（予約制）。八百屋さんならではの旬のお野菜が並ぶ。

そしてギターを手にしたらメロデーが降りてくる、音楽ユニット「配膳ボーイズ」のリーダー兼ギターボーカルでもある。持ち前の爽やかさと美声のトークで会場を盛り上げ、イベントには欠かせない。同じ商店街にある豆腐屋の鈴木さんとの掛け合いは、出演した大阪万博のステージでも大いに沸き、もはや楽曲がメインなのかトークがメインなのか本人たちもわからなくなるほど。思いついたら、なんでもすぐ言っちゃうのが魅力。デビュー曲「あなたによそいたくて」から月日が流れ、新曲のリリースが待たれる。じつはカヌーにのめり込み、二十代で単身渡米。アラスカのユーコン川で二ヶ月、カヌーとともに過ごした過去を持つ。

「昨日わし、なに言うた？」お酒にのまれて昨日の記憶が消えている。しかし一緒にいた者たちにとっては忘れられない強烈なインパクトを残していく。お酒の席では「みつを」ならぬ「たかお」として心が震える名言を連発。「おかもと旅館」を「中町診療所」と呼び、治療目的で夜な夜なハイボールを飲みこむ。

昼の顔は、創業100年を超える老舗製材所「中国林業」の二代目。みな「夜の顔」しか知らず、フォークリフトを運転しているときの真面目な表情に驚いてしまう。その真面目な表情はかつて名門報徳学園高校の陸上部主将だった過去を彷彿とさせる。

三代目予定の息子、将大さんはこれまた異色の経歴で、情報処理と公民の教員免許を持ち、実際に津山作陽高校で教員をしていた。親子でまったく違うタイプかと思いきや、将大さんも学生時代、しっかりとお酒にのまれて記憶を飛ばしている。特技は早食いと早飲み。頭の形がとにかく美しく、製材したのかと思うほど。親子でつぎの製材業界を担っていく。

いかだたかお 篠 孝生 いかだまさひろ 篠 将大

中国林業株式会社 /
真庭木材事業協同組合

〒719-3201
真庭市久世 2422
Tel : 0867-42-1140



やまさき じゅいちろう
山崎 樹一郎

ニューヨークにて「黒澤明の作品を彷彿とさせながら、新たな切り口を見せてくれる」と称賛された真庭の映画監督。監督作品『やまぶき』では、第七十五回カンヌ国際映画祭ACID部門に日本映画としてはじめて選出。ほかにも酪農家の苦悩を描いた『ひかりのおと』、江戸時代の山中一揆をテーマにした『新しき民』など、真庭をフィールドに映画を撮りつづけている。

独自の観察眼で「社会」を捉えるその眼差しは、まるで哲学者。ゆっくり話し始めると、あたりは瞬く間に「山崎監督の世界観」に包まれる。しかしその一方で「ひとの気持ちや理解できない」と言う。理解できないからむしろ、思ったことはまっすぐ相手に伝える。それゆえか「人生、負けがち」と言うが、同時に「負けで良いんです」とも。自分のような異質な存在をも包容する真庭で何かできれば、と映画撮影のほかに、真庭を拠点とした「ニューガーデン映画祭」を企画。大人に限らず、子どもたちにも映画に触れる機会を創出している。

じつはけん玉五段の実力者。コンコンコンとリズム良く、玉を落とすことなく大皿・小皿にのせていく。それは「人生、負けがちであっても、決して地に落ちることはない」という監督なりのメタファーなのかもしれない。メタファーじゃないのかも知れない。



たけいりよう 竹井 僚

合同会社 PORT-LAIT
お片づけのぼーとれいと

〒719-3201
真庭市久世 2426
Tel : 0867-53-0017
Fax : 086-899-6753
HP : <https://www.port-lait.com>



真庭で初の家のお片付け専門の会社。お客様の気持ちに寄り添い様々な要望に対応しております。



大変恐縮です。

真庭初、家のお片付け専門の会社「合同会社 PORT-LAIT (ポートレイト)」代表。

遺品整理・生前整理をメインに、ちょっとしたお片付けから一軒分まるごとのお片付けまで。ご要望に合わせて、さまざまなお片付けをしている。ただ、酔っ払ったまま寝てしまい、勝山の道はたで職務質問されたときは、竹井さん本人が社会からお片付けされそうになったという。

キツチリした性格が、キマッている髪型にあらわれている。ただ、キツチリした性格の反動か、気づいたら家のお風呂で全裸になって寝ていたなど、お酒の失敗がちらほら。ウイスキー大好き。グラスを傾ける姿が似合う二枚目。

お片付けするだけではなく、また使えるものは使えるように。一見、使えなさそうなものでも、修理をして甦らせる。古いものに生命を吹き込んでいる。もちろん趣味のバイクもビンテージもの。ビンテージどころか、生命を吹き込み過ぎて、まったくべつの生きものになっている。お客さまのためという想いが強い。あまりに想いが強すぎて、ときどき見積もりを安く出してしまったり。甘いマスクで「終活セミナー」もしている。

満月の日にまるいパンを食べて下さい。



いずもい 出雲井 暁子 あきこ

moi

〒719-3201
真庭市久世 444-1
Instagram : @moi.bagel



自家製酵母と国産小麦でつくるまるいパンと、季節の素材をつかったまるいおやつのお店です。たくさんは作れませんが、できることを丁寧に、を心がけて作っています。

久世に「満月の日」に開くというパン屋がある。しかもお店に並ぶパンは、どれも満月のようにまんまる。手づくりのおやつもまんまる。どれもまるい。まるいおやつとパン「mOo」さん。自家製酵母と国産小麦をつかって、すべて店主ひとりで作っている。酵母も生地もフィリング（パンのなかの具材）もすべて手づくり。ベーグルやまる食パン、カンパニニューなど、おいしいまるいパンとおやつを求めて、オープンするときにはもうお客さんが並んでいる人気のお店。人気のため、最近では週末のイベント出店も増え、また月に二回ぐらいの火曜日、八百屋「スミダ商店」でも販売してくれるように。営業日は夜空を見上げつつ、Instagramもチェックするのがオススメ。

むかしからパンづくりが好きで、いつかお店を開きたいと思っていた店主。約10年のときを経て、まるいおやつとパン「mOo」をオープン。弱点は、朝が弱い。パン屋さんだけど、朝起きるのがちょっと苦手という。しかし話を聞けば、「満月の日」をはじめ、営業日には午前0時に起きて仕込みを開始する。早い、早すぎる。朝どころかまだ夜と言って良い。パンへの熱い想いがいつのまにか弱点を克服していたらしい。パンはつくるのも食べるのも大好き。

あさこの 浅野 あや 彩

CHICK

〒719-3201
真庭市久世 2671
Tel : 0867-42-0909
HP : <http://maniwa-chick.jimdo.com>



時間制で飲み歌い放題の個室カラオケです。ドリンクは全てセルフサービスになっておりますのでご自由にお使いください。おひとり様でも大人数でも対応できます。

まるで台湾の夜市のように、艶やかに人を惹きつける個室もホールもあるカラオケ「CHICK」を営む。そのモデルのような佇まいから「さぞかし歌が上手いのだろう」と期待されるが、華やかな雰囲気とは裏腹に、マイクを握れば、すぐさま音程の迷子になってしまう。音程の迷子になって帰って来られないまま、たどり着いた十八番は、あやまんJAPANが連呼する「ポイポイポピー！ ポイポイポピー！」。全力で熱唱する姿に、お客さんは悶絶。もう誰にも止められない。

誰にも止められないと言えば、北海道から真庭へ移住後、マラソンに目覚めたランナーでもある。蒜山ハーフから岡山マラソンまで、さまざま大会には出場するが、事前練習はほとんどしない。それでも無尽蔵の体力で走り切れてしまう。その体力で「CHICK」だけではなく、マルシェ出店が中心の台湾料理屋「彩彩台湾」も営んでいる。以前、台湾へ旅行したときに、ビビッときて「魯肉飯（ルーローファン）」の探究者に。甘辛く煮込んだ豚肉とごはんの相性がたまらない。真庭市内のマルシェで「彩彩台湾」が出店していなければ、「あれ、彩さんは？」と誰もがキョロキョロしてしまうほど、真庭のマルシェに欠かせない出店者。

もともとは札幌出身。アジア最北最大の飲み屋街「すすきの」を知る真庭のオードリー・ヘップバーン。

Be connected with
HICK



TEL/0867-42-0909



ぜひ歌いに来てください！

しばた さちこ 柴田 祥子

VICTORYTHEATER

〒719-3201
真庭市久世 2581
HP: <https://victorytheater.jp>



久世の手づくりミニシアター。びっくりするくらい小さいですが、人の距離も近くて和みやすいです。小さいけれど映画に没入できる設備・環境は最高です。ビクトリイという愛称で呼んでもらえたら館も喜びます。

市役所のデスクに座っている「金色（こんじき）の混じった髪色」の姉さん。どう見ても浮いていて、市役所職員に見えない。それもそのはず。週末は、久世の手づくりミニシアター「ビクトリイシアター」の支配人となる。市民有志で古民家を改修して、映画に没入できる設備と環境を整えた。なごやかで、人との距離の近さが魅力の映画館。月イチぐらいのペースでさまざまな切り口の上映会をしている。

東京出身で、都会での日々疑問を感じていたなか、「蒜山ミュージアム」の職を見つけて即応募、即採用。疾風のごとく、着の身着のまま真庭へ移住。住まいの内見もせず、真庭のアパートへ飛び込んだ。もちろんクルマもなく、しばらくは自転車生活を送ったクルールビューティ（ただ、すぐに自転車生活の限界を感じたという）。「ここはいい町です。町を舞台に、みんなで映画を観たり音楽を聴いたりお酒を飲んだりしながら楽しく暮らしています」そう話してくれるが、お酒の比率がやや高め。まわり出したら止まらない映画のように、真庭に来てからお酒が止まらない。そんな姉さんの生きざまについてくる人、続出中。毎年3月には真庭を会場に開催される「ニューガーデン映画祭」の実行委員長も務めている。



ここはいい町です。町を舞台に、みんなが映画を観たり音楽を聴いたりお酒を飲んだりしながら楽しく暮らしています。来たまえばなんでも。気軽にどうぞおいでください。

まつば
松葉
としゆき
俊幸

株式会社
NEXTCREATION

〒719-3202
真庭市中島 1-1
Tel : 0867-42-0755
Fax : 0867-42-0758
HP : <https://next-creation.bs.jp>



主にフラダンス衣装を作る縫製会社です。



ALOHA VIBES ONLY

この海のない真庭に「ハワイの風」を吹かせる。ウクレレの音と「アロハ・オエ」が聴こえるところに、このオトコあり。全国でも珍しいフラダンス衣装を手がける縫製会社の「株式会社NEXT CREATION」。二十名を超える従業員はすべて女性。男性は父とたった二人と、まるで映画「大奥」のような男女比率である。

ただもちろん、縫製のこだわりには女性も男性も関係ない。全員「ALOHAの心」を持って、フラダンスチームのための衣装を「一針一心」込めつつっている。身長が違っても、縫製の技術で全員の裾の位置をピタリと合わせ、ステージ上で文字通り「一糸乱れぬ」美しいラインを生む。採寸からフィッティングまで妥協のない仕事ぶりに、カメハメハ大王も満足に違いない。しかし意外にも、本人はフラダンスをしていない。最近「ちょっとやってみようかな」という気持ちで芽生えている。だれもが「フラガール」ならぬ「フラボーイ」を待ち望んでいる。

現在はフラ衣装メーカー「ALOHASTAN DARDS」として大阪を拠点にいろんな土地へ行く。そのなかでもやはり、海の風景には心を奪われ、そして思う。「海のない真庭にも、もっとハワイの風を、ALOHAの心を」ちなみにフラとはハワイ語で「踊り」という意味なので、フラダンスだと「踊り、踊り」になるようだ。

にしだ 夏子



おだんご頭率の高いデザイナーです。

monochrome
design office

Instagram :
@monochromedesignoffice



よりわかりやすく、より美しく、
ご依頼の期待を超えた表現ができる……そんなデザイナーでありたいと思っています。

動物占いは「強靱な翼を持つペガサス」。その占
い結果にだれもがうなずくほど、真庭のいたるところに、自由気ままに現れる。あまりにいたるところで見かけるので、いつ仕事をしているのか、と不思議に思う「おだんご頭」が目印のデザイナー。おだんごの中に「わかりやすく、美しい」デザイナーのアイデアが詰まっているに違いない。真庭をはじめ、東京や岡山のイベントデザイン、「まにこいん」のロゴなど手がけたデザインは数々。通称、なっちゃん。

いち時期は東京に住み、有名なカフェレストランで働いていた経験も。いまでもふっと思い立つたら、Instagramに書き置きを残してひとりふらりと東京へ。ペガサスの翼が強靱過ぎる。そしてじつは筆文字職人の一面も。およそ十年、師匠のもとで磨いた筆文字は、超有名な（名前が出せない泣）アーティストのツアーロゴやグッズロゴデザインでも使用されている。筆文字を含め、二十五年の実績あるデザイナーだが、褒められると「いやいやいや」と言いながら後ろに下がりがち。ただ、どこへ行っても笑い声ですぐにわかる。真庭中ではや消せない「夏子」という存在感を放っている。

まつおか 松岡 玲

バイクレーサー

HP: <https://www.rei-matsuoka.com>



Instagram: @rei4.9

時速250kmで疾走する真庭出身のバイクレーサー。国内最高峰のオートバイロードレース「全日本ロードレース選手権ST600クラス」にも参戦している。久世に住んでいた四歳からハンドルを握り、周回を重ねるように練習を重ね、十七歳で「全日本ロードレース選手権」に初参戦。以来実績を積んできた。地元真庭のスポンサーも多く「真庭の人たちと一緒に戦っている気持ちになれるんです」と語る(ちなみに、これだけ地元スポンサーが多い選手は珍しいと関係者が語っている)。YAMAHA YZF-R6で熱い戦いをくり広げるが、それに引けを取らないぐらいレーシングスーツも暑く、脱いだら大量の汗が落ちるといふ。

どれだけサーキット場を駆け抜けても、公道では安全運転。磨いた運転技術を「安全」のために使う。真庭の「交通安全大使」を務め、真庭警察署の玄関には等身大パネルが。運転免許の更新時には必ず真庭市民を迎えてくれる。また「慣れ親しんだ景色と澄んだ空気が好きなんです」と、ときどき真庭でランニングをしている。ひとりで走るイメージのあるバイクレースだが、じつはチームで戦うスポーツ。「チームもですけど、家族や真庭の人たちへの感謝の気持ちを結果で返せたら」と日々挑戦を続けるアスリート。



もりとし まさこ 森年 雅子

ユースセンターまあぶる

〒719-3201
岡山県真庭市久世 2477
HP: <https://manabo-de.jp>



10代の意欲と創造性を育む居場所づくりを進めています。自分たちの居場所は自分たちで創る。をコンセプトに、あらゆる若者が自分らしく、ゆるやかなネットワークの中で居心地のよさを体感する仕掛けづくりをしています。

10代の心をしつかりとレシーブ。子ども一人ひとりが本来の自分でいられる居場所 ユースセンター「まあぶる」の管理人。元高校体育の教員で、バレーボールひと筋30年のアスリートでもある（もちろん教員時代はバレー部顧問）。教員時代、体育の授業でソフトボールをする際、地元の人たちを集めて高校生と試合をしてもらった伝説を持つ。

その後、「本当の教育」を求め、教員を退職して「NPO法人manabo-de」を設立。さらに子どもたちの「やってみたい」を叶える場所として、岡山県北初のユースセンター「まあぶる」を立ち上げた。空き家の改修から、子どもたちと一緒に。「自分たちの居場所は自分たちでつくろ」がモットー。駄菓子屋あり、卓球台あり、ボードゲームあり。子ども食堂や学習会に挑戦したい子どもの背中を押す。子どもたちの要望を拾う、その守備範囲の広さはまるでリベロ。アタック、アタックNO.1。放課後になると「まこちゃん、まこちゃん」と子どもたちが集まってくる。

結婚して「藤田姓」に。その結婚パーティーは、余野小学校の体育館で「（かなり本気の）運動会」を兼ねて開催。結婚パーティーの出席者（なんと200名！）はみな、ジャージであった。ちなみに「まあぶる」のスタッフには、教員時代の教え子もいる。子どもたちに慕われる、まあぶるのまこちゃん。



若者の笑顔を増やそうと日々進めています。ぜひ一緒に真庭の若者たちを支えませんか？

多彩な真庭のいろんな地域を楽しんでください



藤田 亮太

シェアハウスいとくる

〒719-3222
真庭市余野下 385
HP: <https://itocrew.com>



Instagram: @itocrew_
yonoshimo385

地域の文化や暮らしを大切にする
シェアハウスを運営しています。
生活と地域自治が共存できるような
暮らしのあり方を探求しています。

どんなことでも何とかがしてくれる、奥真庭「余野」の守護神。週一でバスケットをしているからなのか、その守備範囲の広さは「スラムダンク」の宮城リョータ（ただ最近、小指を骨折したらしい）。キャンプ場「なつづばき」、古民家「青木本家」の運営をしながら、DIYでシェアハウス「いとくる」も立ち上げた。

そうかと思えば、動画編集やチラシ制作、イベント企画運営もできてしまう。サカナをさばき、そのあたりに生えている葉っぱを編み、「帯をつくるワークショップ」で出展もしてしまう（やったことがなくても、YouTubeで独学するスタイル）。余野の地域づくり、余野小学校の学校運営も担い、ときどき専門学校で「疫学」も教えている。ギターを弾き、夏場にはキャンプ場にてエンドレス草刈り。Aを駆使して仕事をしているかと思えば、チェーンソーで木を伐り、鉄くずを集めては買取業者に持っていく。ひとりの仕事量ではない。守備範囲の広さをひも解けば、じつは前職、宿泊施設で支配人として働いていた際、あまりに忙しくて「外線と内線の受話器を同時にとる」という、守備範囲が広いにもほどがある伝説を持っている。

現在進行形で、余野を面白くしている。本業はいまでもわからない。自身がライオンキングに扮して開催した「息子（シンバに扮していた）の生誕祭」には地域内外から多くのひとが集まった。

桜井 新吾

さくらい しんご



品質の良い家具をリーズナブルな価格で提供致します。販売だけでなく、地元のお店ならではの販促（アフターケアなど）にも力をいれています。

LivingHouse 桜井

〒719-3203
真庭市富尾 52-1
Tel : 0867-42-0035
Fax : 0867-42-2359
Instagram : @living.house.sakurai



家具インテリア全般を取り扱っております。

世代を跨いで、長くお付き合いができる家具屋「Living House 桜井（桜井たんす店）」の若き店主。その甘いマスクも、世代を跨いで長くお付き合いしたいほど。アフターケアにも力を入れている。熱心な仕事ぶりは有名で、年に数回、家具を直接買い付けに行っているため、家具インテリア全般すべて丁寧な説明ができる。家具やインテリアの知識をたくさん知っていて、良質なタンスの引き出しのようにどんどん提案が溢れてくる。

久世を愛し、どっしりとした家具のごとく「久世」から動かず、金木犀が香り始める秋頃になると「久世祭り（だんじり喧嘩）」の訪れを感じてそわそわし始める。しぜんとお酒の量も増えていく。ただ、口にするのはお酒だけではなく、久世を拠点にしたバンド「配膳ボーイズ」でブルースハープを口にするのも。たちまち美しいメロディが奏でられる。担当はブルースハープに留まらない。「配膳ボーイズ」が居心地の良いバンドになっているのは、居心地の良い空間づくりを知り尽くした「Living House 桜井」店主がいるからに違いない。

人手不足に悩んでいるが、そんなときは趣味の釣りへ。釣りに行けば、人材は捕まえられないが、代わりに魚がたくさん捕まええられる。

いそだ
磯田 つくし

いそだ
磯田 天将

自家製コーラと
ハンバーガー テンズ

〒700-0026
岡山県岡山市北区奉還町4丁目6-23
Instagram: @tens.colab

岡山市奉還町に#小さなまちのダイナーとして店舗をオープン。週末は岡山、真庭を中心に全国を縦横無尽に走るバーガーショップ。創業昭和九十五年の「元祖」自家製コーラとハンバーガーの専門店。手切りで作るステーキのようなパティを使ったハンバーガーとスパイス・柑橘など独自の火入れと調合でつくる自家製コーラで今日生きた1日をハッピーに!!

奥さんのつくしさんは自称「旦那さんの外付けハードディスク」。ハンバーガーで言うポテトの存在。店主のリマインドを務めている（でもじつは攻めの姿勢の張本人だったり）。「小さな世界を巻き込むパーティーをしよう」と語る。岡山市奉還町にお店も構えている。

マルシェで見かけるとテンションが上がることに間違いなし。肉厚の絶品ハンバーガーと自家製コーラのキッチンカー「テンズ」を営む夫婦。行列でも作業が早い。しかし本当に速いのは、足のほう。織田裕二も驚く足の速さ。足だけではなく、事業展開のスピードもとにかく早い。高校時代「かぴばらこーひー」に衝撃を受け、「インターンはしてないんよ」と言われても、頼み込んでインターンをねじ込み、さらに大学時代、勢いで御前酒前で初出店を果たすと、そのままキッチンカーを手に入れただか北海道でキッチンカーデビュー。大学時代後半で起業している。飛んだり跳ねたりするのが好き、という謎の生憎かつ、月に一度はフットサル、週二回はソフトバレーとバンスでは挟めないぐらいのアグレッシブさ。ちなみにLINEのレスポンスも爆速。あまりに勢いのある「ヤバイ人」と思ったら、じつは勝山高校首席入学、成績はオール5。その能力をポイントなど「お得なこと」に全振りしている。



美味しいは楽しい! 小さな世界を巻き込むパーティーをしよう!

ながた はるき 永田 春樹

有限会社ナガタ木材

〒719-3223
真庭市樫東 1306-1
Tel : 0867-42-3070
Fax : 0867-42-6714
HP : <https://nagata.bs.jp>



おそらく森の声が聞こえている「有限会社ナガタ木材」三代目。数々の受賞を飾り、北海道の超名門スキー部（部員12人中5人が全日本選手！）で鍛えた身体で、祖父の代から続く林業の世界へ。雪山で（しかもホームゲレンデは蒜山のベアバレースキー場）365日のうち250日もスキーで滑りまくり、だれもがその道に進むと思っていた中、ふと父の背中を思い出し「やっぱり林業がしたい」と生まれ育った真庭へ戻ってきた。

「もののけ姫」に出てくる「こだま」のように、「山に優しい林業」が特徴。伐採時につくりがちな大きな林道はつくらず、なるべく山を壊さない。「先代たちが植えた木々を大切に、自分たちの代では山をきれいにしていきたい」と願っている。

そんな自然派かと思いきや、魚がまったく触れない。釣りが好きにも関わらず「針を外すときにピチピチ動くのが無理」という乙女な一面も。イカだけはギリギリ触ることができて自分でもさばくが、そもそもイカが釣れない。ボウズ率は驚異の80%超え。休日、海にいないと思ったら、久米カントリークラブにて目撃情報多数。知り合いでなくても一緒にゴルフがまわれるほど社交的。それ以外はほとんど山にいる。ちなみに木々の運搬は父と母が担っている。



この世の中で山を綺麗にする人々もいます。山を見て心奪われてほしい。先代たちが植えた木々のもっと山に関心を持ってほしい。山の仕事をしたい方は是非一緒にやりましょう

おおやまいずみ
大山 泉
おおやま たかし
大山 貴志

Instagram : @tacotakashioyama



だれもが真庭在住だと信じて疑わない。それも
そのはず、あらゆる真庭のマルシェやイベントに
神出鬼没で現れ、信じられないクオリティの写真
を残していく。一瞬の表情、ハツとする画角、強
烈な印象を残す美しさ。いつのまにか写して、そ
して愛車のミニクーパーで去っていく。加えて、
だれもがカメラマンだけをしていると信じて疑わ
ない。それもそのはず、某大手カメラメーカーの
フォトコンで最優秀賞を受賞しており、観光業関
係者が喉から手が出るほど欲しい真庭の写真がた
くさん。一世を風靡したご当地キャラ「ふなっしー」
専属のカメラマンとしてイベントに帯同すること
も。

しかしじつは、スマホのフィルム加工などを行
う「オーティス株式会社」の課長。eスポーツの
ギアブランド「XTEN(エクステン)」「プロジェ
クトマネージャー」も担っている。それだけの役職
にも関わらず、カメラマンとどちらが本業なのか
わからないほど「カメラマン」で通っている。両
輪でまわっているが、軸となるはずの「腰」が弱点。
椎間板ヘルニアを患っている。

ちなみに奥さんの泉さんも真庭のあらゆるマル
シェやイベントに現れる。現れるどころか、スタッ
フとして内側にいることが多い(スタッフ
を超えて、もう身内のレベル)。最近では内側に行き
過ぎて、「地域魅力化コーディネーター」として落
合を担当している。旧姓「小山」から「大山」に
苗字が変わった点も特筆すべき。

Mission

卓越したプレス加工技術と期待を超える品質を核として、圧倒的なスピードでお客様の技術課題の解決と製品価値を高めるフィルム製品・テープ製品を提案
我々は世界中の皆さまにオーティスでしかできないものをご提供し、適正価格で提供し、あらゆる産業の進歩に貢献し続ける。

二度はよき者でも、おかしりと受け入れられる。第二の故郷です。



むらまつ
村松
ふゆき
冬喜

オーティス株式会社

〒719-3225
真庭市中原 202-13
Tel : 0867-42-3690
Fax : 0867-42-3694
HP : <https://otis-group.com>

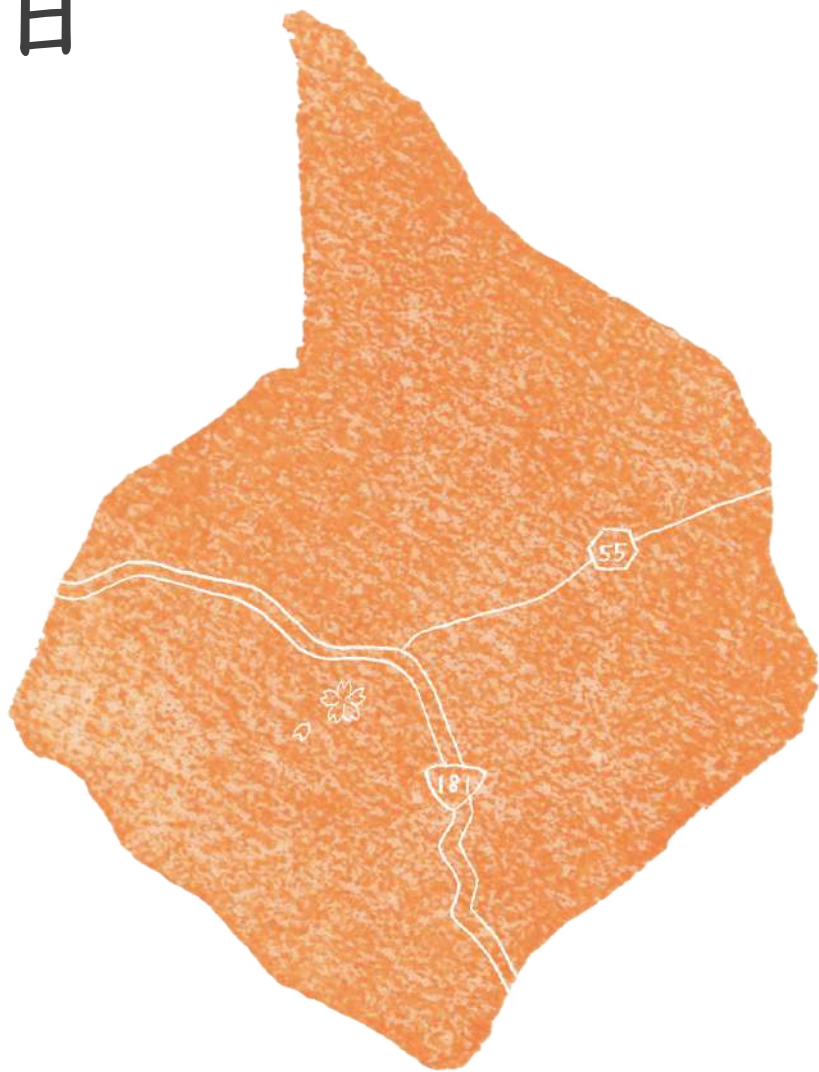


ミクロな技術で、マクロな感動をお届けする会社です。

ミクロな技術でマクロな感動をお届けする株式会社オーティスの取締役。オーティスといえばグローバルに展開されているスマートフォンやフィルム部分を精密加工している、言わばフィルム（グローバル）企業。見えないフィルムで身体を覆っているのか、少し寒いぐらなら半袖で冬の真庭を闊歩している。「長袖の感覚が好きじゃない」とちよつと常人には理解できない迷言を残している。単身赴任中のため、毎週末家族のいる東京へ片道5時間、車と飛行機と電車を軽やかに乗りこなし帰っている。

平日夜な夜な久世の町に現れ、岡本旅館・鯨割烹以志井・南大門では「いつもの」と言えば、いつも注文している料理が出てくるほど、真庭人以上の真庭人。特に岡本旅館では牛すじ井とヨメナカセが鉄板（通称、村松スベシヤル）。ヨメナカセを食べながら東京の奥さんに思いを馳せている。テレビ番組で「家族の絆」を観せられたら、もう涙が止められない。ようやく泣き止んだと思ったら、赤ちゃんのように眠る。仕事が忙しすぎるあまり、特技はどのでもどんな状態でも眠れること。じつは小型船舶の免許を持っているが、最近はなかなか行けていない。それよりも創業四十年を迎えるオーティスを未来にどう繋いでいくか一所懸命。香港・中国・タイなどの海外拠点をくるくる飛びまわるのは、まるでオーティスが手がけるeスポーツ専用マウスパッド上で滑らかにマウスを移動させるよう。採用活動と従業員の福利厚生にも力を入れている。

美甘



むかい 向井 きみのり 王則



有限会社 向井林業

〒717-0105

真庭市美甘 3157-1

Tel : 0867-45-7056

Fax : 0867-45-7108

HP : <https://mukai-forest.com>



人工林の間伐などの山林管理を主体に事業展開をしています。平成27年の真庭バイオマス発電所の可動に合わせ、今まで山に放置され利用されなかった未利用材も搬出し、燃料用チップとしてバイオマス発電所に供給しています。国内では珍しい、チップ工場なしの現場破砕でダイレクトに供給するシステムで、低コストを実現し自然の無駄のない活用と、災害防止・山林所有者への利益還元を実現しています。最近では薪炭林として使われなくなった広葉樹の有効活用と、住宅等の支障木撤去にも取り組んでいます。

真庭の山林とともに生きる、林業家「有限会社向井林業」代表取締役。ただ取り締まられているのか、取り締まられているのか、本人もわからなくなっているおらかな性格。しかし林業に対する情熱はとにかく熱い。行政職員から林業に魅せられて、独立したほど。林業の魅力をもっと多くの人たちに伝えたい、というんなシンポジウムにパネリストとしても参加している。普段は人工林の間伐がメインだが、未利用材を山のなかで粉砕してチップ化。山から直接バイオマス発電所に運んだりもしている。山の仕事のイメージを変えたいと機械化を進め、若い人でも女性でも働けるように間口を広げてきた。

ウエルカムなのは、向井林業だけではなく向井家も。海外からのホームステイを受け入れるなど、とってもオープンな向井家。出迎えてくれるのは大きなワンちゃん「ヨーゼフ」。名前はヨーゼフなのにメスという愛らしさ満載のワンちゃん。

ちなみに趣味は機械いじりで、古いバイクや古い車を修理しては乗っている。そのため、道ですれ違えば「美甘の向井さんだ」とすぐにわかる。「真庭ロータリークラブ」の会長もしていた。

山の仕事は機械化が進んでいます。若い方や女性の方も就業を期待します。アリのチンプは仕事です。面白いですよ。



ささお 笹尾 桂子



しげや旅館

〒717-0105
真庭市美甘 3982
Tel : 0867-56-2019

1年を通して美甘の野山と川で採れたものでお料理しております。

美甘のまちを、絹が歩く。そう表現したくなるほど、着物が似合う「しげや旅館」の女将。いつも着物をまとい、見るのも着るのも着せるのも好きという、現代の小野小町。「絹の肌ざわり、歩く際のしゃんとする音が好き」と着物愛が止まらないのは、さすが着付けの師範代。お客さんは「しげや旅館」の料理に酔っているのか、その着物姿に見惚れて酔っているのか、いつもわからなくなるといふ。

しげや旅館の料理といえば、四季を通して美甘の野山と川で採れた山の幸、川の幸。あまご、ニジマス、さらには鹿や猪のジビエまで。「山の宝」と呼ぶにふさわしい食材を贅沢に使った料理で、お客さんの心と胃袋を鷲掴みにしている。山菜は女将みずから美甘の山へ採りに行っているが、さすがに着物ではないことを願うばかり。

風の匂いや美しい風景、五感が震える美甘に癒され、美甘愛に溢れる女将だが、「暑さ」だけはどうしたって苦手。最近はとくに暑くなってしまい、いつか「着物」が「暑さ」という牙をむくのではないかしら、と怯える日々。絹の優雅さと、汗ばむ現実の狭間で揺れている。しかしそんなときでも、美甘にはふいに涼やかな風が吹く。



ひろた ちづこ 廣田 千鶴子

もう何歳なのかわからない。いや、年齢なんてないのかもしれない。年々、精力的になっていく、パワフル超人。大阪から10人の大家族で、美甘に移住。手つかずの土地を自分たちで開墾して、50種類ぐらいの野菜を育てている。そのすべてが無農薬有機農法。みずから「山奥ニート」と呼び、上水道・ガスなしの自給自足生活。近くの湧き水でごはんを炊き、薪でお風呂を沸かす。飼っているニワトリさんから新鮮な卵をいただき、自作の小屋のまわりをヤギがうろついている。

そんな暮らしのできる女性専用シェアハウスを立ち上げ。自分たちで古民家を改修して野菜や稲を育てながら味噌、漬物などをつくり、昔ながらの食生活を伝えている。「美甘への恩返しになれば」という願いどおり、来訪者が途切れることなく、地元貢献になっている。

どこにそんなバイタリテイが、と思うが、もともと三歳から二十三歳までを南米ボリビアで過ごしている。両親に連れられ、開拓団として海を渡ってボリビアへ。ふいに出てきた毒ヘビを「えいや」と一刀両断。動物たちを食し、家の屋根はヤシの葉っぱ。それを思えば、パワフル超人なのも頷ける。娘さんは子どもながらに母のことをこう思ったという。「なんか、ほかのお母さんと違うな」。



岡山に来た良剤は。良いおぼかりがじいおぼに安定。
岡山に感謝。受け入れた地域の有にも感謝。

美甘振興局



やまおか
山岡
さとこ
知子

まるでアンパンマンのように、困っているひとを見かけると放っておけない。しかも頼まれたら断れない。その結果、七十歳を超えたフリーランスとして16もの団体に籍を置くという美甘の守護神。

美甘に生まれ、美甘で育ち、美甘の方と結婚して美甘に在住。酸いも甘いも、美しいも甘いいも、まるごと美甘で味わってきた生粋の美甘人。そのため「美甘をどうにかしたい」と奮闘する日々。ときには癒しを求めて、夜ごと小椋佳のCDに耳を傾ける。クルマの運転中も小椋佳。コンサートにも十五年以上通っている。小椋佳からチカラをもらって、そしてまた美甘のために奮闘する。その姿は、「疲れを知らない子どものように」。

生け花歴も五十年。「シクラメンのかほり」も知っている。感受性が豊かで、涙もろい。ひとが泣かないような場面でも、心の琴線に触れてほろりと涙がこぼれることが。愛情が太陽のように降りそそぐ「愛燦燦」なひと。ボランティア精神に溢れ、NHKの連続テレビ小説「あんぱん」を観て以来、「私もアンパンマンのようになりたい」と願うようになった。そして今日も美甘のどこかで、困っているひとのアンパンマンになっている。

かどの 門野 ゆき 由貴

チャイトカ堂

〒717-0105
真庭市美甘 1050-2
Tel : 090-4653-4954
Instagram : @ chaitokado



2024年6月にクリエイト菅谷の中でオープンしましたチャイトカ堂です。インド好みの店主が営むチャイトカオヤツとか古物のお店です。インド豆のコーヒーもおいしいのでチャイよりコーヒーをいれる日も多いです。チャイのアイスクリームやチャイのチーズケーキも人気です。

スパイスの香りのように、真庭へ広がるチャイの伝道師。きっかけはコーヒーを飲むたび片頭痛を起こしていたところ、旦那さんがチャイを淹れてくれたことから（現在はコーヒーを飲んでも大丈夫）。「チャイトカ」いろいろ出す「喫茶チャイトカ」にする予定だったが、拠点とするクリエイト菅谷の店舗が思ったよりも広く、趣味の古物を置いているうちに「チャイトカ堂」に。神様のいたずらか、必然か。「チャイトカどう？」が誕生した。本場インドまで修行へ行き、現地で茶葉とスパイスを仕入れている。

里山にある店内に入れば、ひとたび異空間へ。廃校になった学校の備品を再利用した椅子や棚、巨大なそろばんが鎮座している。まるで多趣味な夫婦をそのまま表しているよう。店主はバイクにも乗り（子育てのため、我慢中）、あちこち旅にも出かけ、合唱、カフェ巡り。そしてオードリーと金属バットのラジオをこよなく愛している。旦那さんも魚釣り、DIY、キャンプなど、数え始めたらキリがない。そんな夫婦には元氣な子どもたちが三人（取材時には四人目が、お腹のなかに）。

「ゆきちゃん、ゆきちゃん」と親しまれているお店にお客さんが集まり、本格チャイも楽しめる。まろやかなチャイのほかにもチャイのアイスクリーム、チャイのチーズケーキもオススメ。

里山も自然豊かには美甘のキャンプ場でゆくりチャイトカどう堂



真庭の福祉業界で知らない人はいない、「愛育」の人。お母さんと子どもの心・身体の健康からご年配の健康まで、幅広い世代を守る愛育委員として、二十年以上も愛のある活動を続けてきた。現在は、押しも押されぬ真庭市愛育委員長。検診の際には、すぐに「愛育の人だ」とわかるように、いつも赤いベストを着ている。

愛育委員になってから、いろんなお母さん、子どもたち、ご年配の方への思いが溢れて、二十年以上365日気持ちは休まらない。それでも愛育の人であり続けるのは、持ち前の「負けてはいけない精神」が自分の中に流れているから。愛育のためなら、いつだって全力投球。笑いながら、どんな困難も乗り越える。その分、夜はバタンキューで眠りにつく。

真庭の少子高齢化に危機感を抱きながらも、愛育委員のモットー「不可能を可能にする」を胸に、自分にもっとできることはないか、と今日も真庭市内を奔走している。真庭人のゆりかごから墓場まで、真庭にとつて欠かせない人物。その愛に溢れる活動と実績が認められ、恩賜財団母子愛育会より表彰を受けている。これからも負けてはいけない精神で、活動を続けていく。

すぎもと
杉本 喜美恵
き み え

真庭市愛育委員会

〒719-3292
真庭市久世 2927-2
Tel : 0867-42-1050
Fax : 0867-42-1388



岡山県は、西の軽井沢と言われている観光地で、また蒜山高原を拠点に湯原温泉など自然に恵まれた真庭を非常に愛している人です。

さとう ゆきこ
佐藤 由紀子
さとう いさお
佐藤 功

手打そば美楽庵

〒717-0105
真庭市美甘 3950-2
Tel : 0867-45-7323
Instagram : @ mirakuan.okayama



美甘が生んだ名医横山兼造が薬の
調合場として使用していた、古民家
香香館で店舗営業しています。

美甘の手まり街道には、江戸時代の名医「横山兼造」が薬の調合場として使用していた古民家「香香館」がある。いまその地を引き継ぎ、薬の調合ではなく、そば粉と水を絶妙なバランスで調合。絶品そばを提供しているのが「美楽庵」店主。

もともとそば職人だったのかと思いきや、まったく関係のない前職を退職後、いきなり「美楽庵」を立ち上げるといふ離れ業。しかも、そばの花から育て、製粉、そばを打つ、提供するまでの全工程をやっている。妥協点で手を打てば良いのに、打つは打つでも、こだわり抜いてそばを打つ。さらに独学にも関わらず、ついには十割そばまで打てるようになったその姿は職人の鏡。ただし、会った人は知っている。職人のイメージからはほど遠い柔和な笑顔でいつも迎えてくれる。

そのとなりに同じく優しい笑顔の奥さん、由紀子さん。イベント時には二人で「美楽庵」と書かれた移動販売車で出店。じつはその移動販売車、店主がみずからそばの販売用に魔改造。

美甘のだれもがよく知るおしどり夫婦は、二人仲良く仕事の合間を縫っては山陰に海釣りへ。



市民活動センターまにわ

常駐してませんが連絡を頂ければ対応致します。高遠カラー印刷機もあります。会員になつたこと会員価格での印刷等が出来ます。年会費は2000円です。是非会員になつて下さい。



いなだ
稲田
ふみお
文夫

特定非営利活動法人
市民活動センターまにわ
〒717-0105
真庭市美甘 4135-1
Tel: 090-1687-1489

真庭市久世から2年前に美甘に移転して美甘地地域を中心に中間支援、空き家対策、移住者支援、高齢者等の日常生活支援を行っています。

「美甘に移住したい」という方への気遣いがジェントルマン過ぎる美甘の紳士。紳士たるもの優しくあらねばならない、と美甘の空き家対策や高齢者への支援など、共生社会の実現に向けた活動をしている団体「グランパ美甘」「くらしサポート黒田」の中心人物となっている。気遣いが加速して、市民活動を支援する「NPO市民活動センターまにわ」の理事長も。また多くの人や地域、団体とネットワークを結んでいる。

しかしジェントルマンも人間であり、ときどきは疲れてしまう。夏の草刈り作業では熱中症になり、四日間の入院。夏祭りの翌日も気を失って車で転倒するなど、今までに何度か大ケガをしている。それでも再生できるのは、地域の人たちに支えられているから。ミヤンマーからの研修生を美甘の空き家に受け入れたときも、地域の人たちが協力してくれたという。「地域の人たちが協力してくれるから、持続していく力が生まれます」と語り、優しさの連鎖になっている。

数少ない余暇は奥さんと車中泊。車中泊ができるようみずから自車を改造。空き家のDIYもみずから手掛ける。地域のさまざまな史跡や人と出会ったたび「美甘地域に生かせることはないか」と考えてしまうほど、美甘愛に満ちている。



なかがわ
中川
まさき
正樹

株式会社
丹後王国ブルワリー

〒627-0133
京都府京丹後市弥栄町鳥取123

髪型からも伝わってくるデキるオトコぶり。京都「丹後王国ブルワリー」の代表取締役社長は、美甘出身。実家は地元の社交場「中川自動車」だったが、「親のレールを歩きたくない」と尾崎豊のような反骨心で久世高校生物生産科へ。盗んだバイクで走り出す校風（当時）のなか、真面目に農業を学び、ふと気づく。「おれ、野菜つくるの苦手かも」。それから中山間の振興に興味が移り、大学卒業後に入社したパソナでも農業振興に積極的。

その結果、廃墟寸前だった「丹後あじわいの郷（現丹後王国）」の再生を任されることに。はじめは及び腰だったが、やると決めたらやるオトコ。髪型も小泉孝太郎を思わせるソフトモヒカンからいまのバッチリ社長スタイルに。クラフトビール製造量400倍、ソーセージ製造量200倍とこんでもない数字を叩き出して見事にV字回復。まわりからの信頼も得て、もはや丹後王国の国王と言って良い存在に。その功績から現在、真庭市政策アドバイザーを担い、さらには農業の持続可能性に貢献する「真庭版農業支援サービス事業体」にも携わっている。

大人になってはじめて気づいた「真庭の資源」の豊富さ。「真庭の良さはもっと多くの人に知られるべき」と、丹後王国を闊歩して真庭との国交を樹立。いま架け橋となっている。

やまだつよし 山田 強

大判焼き 山ちゃん

〒717-0105
岡山県真庭市美甘 3973
Tel : 0867-56-2207
Instagram : @yamachan7567



店舗はなく、美甘の自宅にて営業しています。妻、息子と3人で営業しています。マルシェなどの出店もしています。あずき、白あんクリーム、チョコをメインに期間限定で栗あんがある時も！味はもちろんのこと、大判焼きにそれぞれ焼印が押されており、中身が何味が判かるようになっています。来年から不定期であります。営業を増やそうと思っています。将来的にあの名番組「人生の楽園」に出るのが夢です。(笑)

「好調」になる。

奥様の久美子さんと息子（通称カズンコ）の3人体制で営業。家族全員、まわりから慕われていて「山ちゃん、来たで」と常連さんも多い。「ありがとう。美味しかったよ」と言われるのが嬉しくてたまらない。夢は「人生の楽園」に出演すること。

バッチリと整えられた角刈りとは対照的に、まあある大判焼きを焼く「大判焼き山ちゃん」の店主。数年前のある日、自宅の車庫を見つめてこう思った。「ここで何かできないものか？」最初は、たい焼きがしたかったが、型がない。しかし大判焼きの型ならある。バッチリ整えられた髪型もある。「ならば、大判焼きだ」と運命に導かれた。

前職（農協の畜産課）を定年退職。「大判焼き作り方」で検索したYouTubeの動画を観ながら、ひとり黙々と練習を重ね、大判焼き屋をオープン。1日で最高1000個を焼くほどの人気店に。あずき、白あん、クリーム、チョコ、そして期間限定の栗あんまで、どれも絶品でイベント出店時は行列ができるほど。それぞれに専用の焼印を押すこだわりぶり、と思いきや、焼印を押すのは詰める本人が「どれが何味かわからなくなる」から。真夏の車庫はまさに地獄絵図。暑過ぎて、ますます何味かわからなくなる。夏場の店主には、そっと冷たい飲み物を差し入れてほしい。反対に、冬は「絶対好調」になる。



「いつもあ川がとうございませ/皆さんから「おいしかったま!」と声をかけていたたくのが一番のよろこびです。」

おおくら みつまや
大倉 満雅
おおくら かずこ
大倉 和子

有限会社 大倉電器店

〒717-0105
岡山県真庭市美甘 4020-8
Tel: 0867-56-2338
Fax: 0867-56-2570

◎家電販売・修理・電気工事
◎給排水衛生設備・工事

伝統を紡いでいく歌舞伎俳優のように、初代の祖父や二代目の父の背中を見て育ち、電気に興味を持ったことで跡を継いだ「有限会社 大倉電器店」三代目。創業七十年を超える看板を背負っている。ただその道のりは険しく、修行のために入塾した松下電器の養成所では、毎朝太鼓の音で叩き起こされ、3km走らされる日々。あまりの厳しさに、みずからが発電しそうだった。いや、もはや少し発電していたかもしれない。

下積みを経た結果、電器に留まらず、水道工事まできちやうように。美甘のインフラを支え、まわりから「趣味は仕事でしょう」と言われるほど。事実これといった趣味がなく、夫婦ともにこれから少しずつ探していからと思っている。同じ空気感をまとった夫婦の楽しみは、3人の子どもの成長を応援、見守ることが生きがい。こればかりはゆずれない。

大倉電器店に入ると、お客さんからももらった手づくり作品がいろいろ飾られている。レイアウトは奥さんの担当。地元の方の憩いの場にもなっており、電器店なのについてい長居してしまう。ここは美甘の交流回路。先代からの色を守り、自分たちしか出せない色で美甘を照らしていく。「ここに電器屋さんがあつて良かったと言ってもらえるお店でありたい」



お気軽にお声掛け下さい。

やまおか
山岡
ひろみち
宏充

美甘獵友会

〒700-0818
岡山市北区番山町 4-5
一般社団法人岡山県獵友会
Tel : 086-223-3190
Fax : 086-223-3190



一緒に映っているのは、ともに狩りをする相棒イングリッシュポインターのメイちゃん。メイちゃんを連れて、山鳥やキジを仕留めるマタギ。ただ失敗したときは、メイちゃんからなんとも言えない表情で見つめられてしまう。それでも鳥を撃つ、妻みのある狩りが好みの「美甘獵友会」会長。最近は農作物を荒らすシカやイノシシ、サルにも狙いを定めている。ハンティングのときはうまく気配を消すも、いつもはユーモアたっぷりです。どうしたって消せないほどの存在感を放っている。さらに洒落を交えた軽妙なマタギトークで、聞く者のハートも撃ち抜いている。

温かい人柄は、とても美甘らしさに溢れている。助けて助けられての文化で生きてきたため、来たる者にはつついもてなしてしまう。もちろんそのトークでももてなしている。またとても豪快で、自分で仕留めた獲物を料理するのも楽しみのひとつ。血抜きからはじめて、ジビエをふんだんに使った鍋にしたり、水炊きにしたり、焼き鳥にしたり。とくに好きなのは山鳥の水炊き、そしてその後のおじや。自分で仕留めた獲れたての美味に、舌鼓もうっている。撃つスペシャリスト。

さわもと 澤本 しょうた 正太

澤本ライスセンター

〒717-0101
真庭市鉄山 804
Tel : 0867-56-2365
Fax : 0867-56-2387

家業としてオヤジと一緒に米作りをやっています。最近ではスマート農業を取り入れドローンによる農薬散布などで省力化しながら頑張っています。家業とは別で地域住人にとっでの便利屋というかなんでも屋？みたいな事もやっています。

バイクが好きすぎて、バイク漫画『バリバリ伝説』の主人公、巨摩グンが実写化したのか、と見間違えそうになる美甘の若手米農家。父とともに7ha（東京ドーム1.5倍の広さ）もの田んぼで、うるち米と美甘を代表するもち米をつくっている。最近ではスマート農業も取り入れ、ドローンのプロポ（コントローラー）をまるでバイクの取りまわしのように華麗に操っている。

米農家でありながら、土建屋で働いていた経験から床張りや簡単なリフォームまでできてしまう。おかげで地域のひとから「なんでも屋」として頼られている。ちょっととした用事も引き受ける、美甘の気さくなお兄さん。その技術力は、バイクの整備にも生かされ、グーグル先生と対話しながら、エンジンをバラしてオーバーホールすることも。バイク屋でもないのに1964年式のカワサキ「メグロ」を二ヶ月かけて修理した、まさにバリバリな「伝説」を持つ。最近では奥さんも中型バイク免許を取得。奥さんが乗りやすくなるよう調整することも欠かさない。そして夫婦ふたりでツーリング。

そんな痺れるような男だが、決して辛さには痺れない。無類の辛党で、蒜山にある担々麺の名店「ブラザー軒」で3辛をべろり。また、ご当地ラーメンを求めたツーリングも大好き。

これから農業はもと重要視されると思いますよ。人間的に限り米は絶対必要だし、なんでも屋だって必要になりますよ。皆さんもやってみませんか？



もちとく こうだい 持徳 浩太

岡山県真庭市美甘出身。臨床工学士の資格を持つシンガーソングライター。2024年3月にデビューシングルをリリースし、デビューを果たす。同年に開催された初のワンマンライブ「持徳浩太 SOLO LIVE」は、発表と同時にチケットが完売するなど注目を集めた。2025年1月に所属事務所を退所し、フリーとして活動を開始。同年5月にはさらなる飛躍を目指して東京へ拠点を移し、精力的に音楽活動を展開している。

YouTube : https://www.youtube.com/@mochitoku_kodai/



「臨床工学士」の国家資格を持つ異色のシンガーソングライター。大学の2023年にワンマンライブ「持徳浩太 SOLO LIVE」を開催。そして翌年2024年に当時所属していた事務所にて楽曲「ever」でデビュー。感情を揺さぶる声域の広さと、心の揺れを丁寧に描く歌詞が、聴く者の心を奪っていく（現在は残念ながら配信停止となっている泣）。情景が重なり合う構成で、もう戻れない想いを告げるサビから溢れ出す感情の高まりは圧巻。青春時代の記憶がよみがえってくる。大学卒業と同時に、所属事務所から独立してフリーとして単身東京へ。自身の目標「CDアルバム制作」に向けて、毎日楽曲制作に挑んでいる。

美甘で過ごした小学生時代、参加したアフタヌーンパーティーで「お筆」の音色に魅せられ（小学生でアフタヌーンパーティー！と驚きが隠せない）、小6から高校までお筆と三味線を習っていた。その経験が作曲にも生かされている。メロディーが頭に浮かんだら、鼻歌を歌ってボイスメモに録音。急にスマホを取り出して、鼻歌を歌っている姿はひいき目に見ても怪しい。どう見ても怪しいが、耳をかすめるとたちまち魅了されてしまう。地元的美甘では「浩太くんが歌手に！」と歓喜の声が続々あり、美甘振興局にはポスターが掲示されている。



湯原



打たせ湯のように打たれ強く、10もの湯船が1泊で楽しめる「松の家花泉」のようにどんな要望に対応できる懐の深さを持つ「湯めぐりの宿松の家花泉」若旦那。頼まれたら、全部引き受けてしまう性格ゆえ、真庭観光局の観光地域づくりマネージャーはじめ、さまざまな役を担っている。

そんな忙しさのなか、それでもうまく采配できているコツは、麻雀（マージャン）にあるとか。三度の飯より、麻雀が好き。仕事でもボン・チー・ロンを重ね、役満級のサービズを行っている。かつては1時間でも時間があつたら仲間に声をかけて卓を囲んでいた（いまは忙しくてできていない）。その名残か、旅館内にも全自動雀卓を完備。「麻雀でコミュニケーション」という名言を残している。彼こそ、湯原の国士無双。「松の家花泉」の源泉かけ流しのように、こんこんと湧き出る要望をツモリ続けて、つねにリリーチ状態。待ちが広い若旦那。

「じゃらんnetランキング」の「売れた宿大賞」で1位を受賞したことも。信楽焼きの藍色陶器風呂や漆塗りの樽風呂、岩盤浴など、どれに入っても外れがない、まさに「多面待ちのテンパイ」状態。いや、いくら若旦那が好きとは言え、麻雀の話が長すぎた。半荘（ハンチャン）ではないのだから。



まつお 松尾 圭一郎

湯めぐりの宿
松の家花泉

〒717-0402
真庭市湯原温泉 320-1
Tel: 0867-62-2121
Fax: 0867-62-3365
HP: <http://yubara-matsunoya.com>
Instagram: @matsunoya.kasen



掛け流し温泉の湯巡り、こだわりのお料理。花泉では、お客様の旅を彩る魅力がたくさんございます。美味しい、癒される、寛ぐ、楽しむ、色々な思い出をお持ち帰りいただけましたら幸いです。





おがわら
小河源
りゆうき
龍基

湯の蔵つるや

〒717-0402
真庭市湯原温泉144
Tel : 0867-62-2016
Fax : 0867-62-2298
HP : <http://yunokura.co.jp>
Instagram : @yunokura_tsuryuya



創業110年元酒蔵の温泉宿



美味しいお酒と最高の温泉を
楽しみに来てください

創業一〇年「湯の蔵つるや」の若旦那。大正四年に酒蔵「濱乃鶴」として創業したDNAを受け継ぎ、趣味はお酒を飲むこと。その飲みっぷりと場を明るくするポジティブシンキングは、湯原青年部の飲み会に欠かせない存在となっている。片鱗は学生時代から見せており、一階から七階まである巨大居酒屋で忙しくバイトしているなかで「飲みの席」の魅力に魅せられたという。

大学卒業後、大手人材広告会社に就職するも疲弊して「湯原に帰りたい」と当時の彼女に伝えたところ、あっさりOK。その彼女こそいまの奥さんであり、娘さんも生まれたことで「この子が帰って来られる場所を残したい」と家業を継ぐ決断をした。

最近では三階までの上り下りがツラくなってきているが、それでも泉質の良い（旅館の）湯原温泉にみずからも入ってしっかりと体力回復。湯原温泉郷全体のことを考え、若手で湯原温泉を盛り上げたいと思っている。

旅館「湯原温泉八景（はっけい）」を支えるパワフル女将。
肩こりなんて、なんのその。キュートな笑顔で、旅館の内外を駆けまわる。

駆けまわれば駆けまわるほど、なぜだかますます元気になっていく。「仕事が一番のダイエット」はもはや名言。旅館ロビーでいろんなイベントも開催している。底知れぬパワーの秘訣は、ワンちゃんのはなちゃんとおむぎちゃん。ワンちゃん大好きで、世界中のワンちゃんに優しい。

むかしはとても静かだったらしいが、なぜかだれも信じてくれない。本人いわく「出る杭、打たれまくり人生」。自分らしく。女将のまっすぐな生き方は、そのまま「湯原温泉八景」のお客さんにもまっすぐなおもてなしになっている。

旅行が大好き。6時間のドライブも余裕のパワフルぶり。ノートラベル・ノーライフ。忙しい仕事の合間を縫って、あちこち飛びまわっている。いまはスペイン「サンティアゴ巡礼」に行きたくて、うずうずしているらしい。でもそれは遠征のときのお楽しみ。今日も固定概念にとらわれない生き方で突き進む。じつはタイのバンコクにも、日本料理屋「おだし八景」を出店している。

うわしお ひろこ 上塩 浩子

八景

〒717-0406
真庭市豊栄 1572
Tel : 0867-62-2211
Fax : 0867-62-2215
HP : <https://hakkei-yubara.jp>



美味しい料理とスタッフのフレンドリーなおもてなしで、お客様とともに歳を重ねる”を理念として元気になる旅館です。



結構な変わり者ですが、私でいいの？

はしもと けんたろう
橋本 健太郎
はしもと みほ
橋本 未帆

ほわっふる。

〒717-0402
真庭市湯原温泉 94-1
Instagram: @HOW_A_FULL

湯原温泉街、はんぞきアート広場近くのテイクアウトのお店です。湯原の平飼い卵と蒜山ジャージーミルクを使用したカスタードクリーム&生クリームを、柔らかいほわっとしたワッフルに包んで提供しています。特製プリンやジェラート、ドリンク類もごさいます。お店の前の河川敷では、足湯につかりながら旭川と山の木々を眺めることができます。温泉街の散策の途中にぜひお立ち寄りください。

日本でもっとも柔らかい店名と言われている「ほわっふる」。名前のとおり、ふわっふわの絶品ワッフル。ひと口食べると、湯原の平飼い卵と蒜山ジャージーミルクを使ったカスタードクリームと生クリームが広がってたまらない。可愛らしい外観も相まって、湯原を訪れた大人の女性が思わずときめいてしまうスポット。

夫は「砂湯」をプールのようにして育ったという、生粋の湯原っ子。パラグライダーの装備一式を持ち（夫婦の出会いもパラグライダーつながりで、風も奥さんも掴んだとか）、いまは湯原ダム湖でSUPができるよう奔走中。お祭り男でもあり、イベントがあるとそわそわしてたまらず店を抜け出してしまふ。朝も関係なくテンションが変わらない。朝が弱い奥さんには理解不能なパワフルさ。一方の奥さんは「ほわっふる」のふわふわワッフルのようなおっとりさん。年中「朝ってなんでこんなに眠いんじゃろね」と呟いている。違うタイプの方たちをつなぐ共通点は「低血圧」。高気圧ボーターの夫も、じつは低血圧。

そんなふたりの抜群の相性に似た、カスタードクリームと生クリームが美味しいワッフルを片手に、お店からすぐ近くの河川敷へ。湯原の自然を堪能しながら食べると、優しい甘さが心と身体に沁みわたっていく。



露天風呂「砂湯」をプールのようにして育った健太郎と、夫の郷里の豊かな自然に感動した未帆が、温泉街の賑わいの土にはなれればと意を決してオープン！地元産の素材を活かした優しい甘さのスイーツを届けていきます！

森林面積が8割以上を占めている真庭市で30年前に両親が物住し家具屋を始めました。やっと真庭の人になれました(笑)。



もとい 元井 哲也
もとい 元井 真由美

木工房もものたね

〒717-0424
真庭市権 185
Tel : 080-1640-2552
HP : <https://momo-tane.com>



オーダーメイドであなたにピッタリの家具、木の小物を制作します。真庭産ヒノキをはじめ家具に使う広葉樹も全て真庭産です。夫婦で家具職人をしていますので細かいご相談にも乗れます。

日本一の家具職人に、俺はなる。私もなる。
そうモンキー・ロ・ルフイ風に意気込む美男美女は、夫婦で家具職人をしている「木工房もものたね」。お客さんの要望に合わせてなんでも制作する「ノンスタイル木工」を掲げ、オーダーメイドの家具や小物などをつくっている。工房は、美甘のキャンプ場「クリエイト菅谷」の木工施設を活用。打ち合わせがあるときは、トレーラーを曳いた大型クローカーで現れる。

木工のワークショップやイベントがあるたび、旅行を兼ねて家族で移動。自然のなかで遊ぶのが好きで、海釣り川釣り、どちらにもハマっている。仲の良い夫婦のなれそめは、鳥取の花火大会で哲也さんが声をかけたのがきっかけ。きっと大きな打ち上げ花火が上がったに違いない。ときどきケンカもするけれど、お互いを知り尽くし、適材適所、役割を分担しながら制作している。

専門書を読みあさるなど研究にも余念がなく、その結果いまではCLT（直交集成板）で木工ができる日本で唯一の「CLT家具屋」さんに。家具製作で余った樹々を使って小物をつくったりもしている。ちなみに湯原の二川にある実家は同じく家具職人の両親が建てたステキなログハウス。

横辺 浩樹

よこべ ひろき

有限会社横辺工務店

〒717-0403
真庭市下湯原 274
Tel : 0867-62-2241
Fax : 0867-62-3560



エネルギーシユ!

体力と若さに自信のある「有限会社横辺工務店」の次期社長。地元消防団や商工会青年部の活動を通じて、長らく縁の下の力持ちとして湯原温泉郷を支えてきた。湯原のために、という思いが強い。見ためのとおり優しさに溢れて、だれも争うことなく平和的にまとまるようにいつも調整役をしており、その細やかな気遣いのおかげで人脈が広がり、湯原の有名人のひとりになっている。

釣りが30年来の趣味で、たびたび湯原界限で溪流釣りをしている姿が目撃されている。湯原界限の溪流で見あたらなときは、山陰の海へ行っているらしい。いつか船舶の免許がほしいと思っている。ほしいと思っているが、奥さんはまだそのことを知らない。まだ言えていない。ちなみに船舶は10人乗りぐらいのものがほしいと考えている。じつは狩猟もしている。狙いを定めては、シカやイノシシを撃っている。撃つたものは自分でさばいて料理もして、家族に振る舞う。

そして最近、新しい家族をお迎えた。フレンドチブルドッグのルルちゃん。元気いっぱい自身にとっても懐いていて、とにかく可愛い。帰宅したらいつもお出迎えをしてくれる。ルルちゃんと散歩をしながら健康管理にも気をつけている。

一六八八年創業の「元祿旅館 油屋」を継ぐ高橋家の長男夫婦。温泉宿で極上のイタリアンフレンチが食べられると話題になっている、その料理すべてを担当しているシェフ。湯原で生まれ育ち、料理人を志してフレンチの巨匠、三國清三氏の「オテル・ド・ミクニ」へ修行に出た。小さな水滴ひとつまで細かく指摘される世界水準で修行を積み、さらにイタリアンの店でも腕を磨き、湯原に戻ってきた。

さまざまな料理に触れてきたが、蕎麦だけが食べられない一面を持つ。子どもの頃、地元「ひまわり館」のわんこ蕎麦大会で大人が度肝を抜かれるほど食べに食べ、以来蕎麦が食べられなくなったお茶目さん。トラウマになるほど食べたに違いない。奥さんの鈴奈さんは蕎麦が食べたくてちょっとうずうず。二人の想いは絡まる蕎麦のように交錯する。

鈴奈さんの出身は北海道札幌市、出会いは東京。美味しいお店を見つけるのが共通の趣味で、香川に行けばうどん店を8軒はまわる。はじめて湯原温泉を訪れた際、星空のあまりの美しさになまら驚いたと言い、湯原温泉に住みながら自身も湯原温泉のファンに。ちなみに裕亮さんの弟、啓輔さんは接客を担当。伊豆、箱根で修行を積み、兄弟揃って歴史ある「油屋」を引き継いでいる。

たかはし すずな
高橋 鈴奈
たかはし ゆうすけ
高橋 裕亮

油屋

〒717-0402
真庭市湯原温泉 27
Tel : 0867-62-2006
Fax : 0867-62-3185
HP : <https://aburaya.org/>
Instagram : @aburaya.org



当館地下より湧き出る湯原温泉の源泉を楽しむ切り風呂とシェフこだわりのフレンチ



なかむら けんしろう 中村 賢士郎

ゆばらの宿 米屋

〒717-0402
真庭市湯原温泉 345-18
Tel : 0867-62-3775
Fax : 0867-62-2255
HP : <http://www.komeya.co.jp>
Instagram : @yubaranoyadokomeya



白壁と格子窓、なまこ壁が連なる宿場町風日本旅館。ロマンチック街道沿い、グルメ自慢の和風モダンなお宿。

湯原温泉郷の高台、白壁と格子窓が150メートル続く宿場町風旅館「ゆばらの宿 米屋」の若き後継者。稲作を由来とする「米屋」の若旦那は、米屋の佇まい、内装と同じく、湯原きってのオシャレさん。それもそのはず、もとは岡山市内の古着屋で働いていた。「手伝いに帰ってきてほしい」と言われ、「じゃあまあ手伝おうか」という軽やかさで手伝っているうちにいつのまにか、米屋を継ぐことに。

無類のフグ好き。半年に1回は友だちとフグを食べに行く。なんとかそのお金は捻出できるが、愛車アルファロメオの維持費はちよつと笑えない。笑えない分、買わずとも楽しめるウィンドウショッピングが趣味。ただ、アルファロメオのような美しさのある米屋のデザイナーズ特別客室「KA EDEE」「KONOKKA」「MOMIJI」は宿泊のお客さんから絶賛されている。

「思い返せば、多彩なお客様が泊まりに来られた」としみじみ。わんちゃん、ねこちゃん、インコなどなど。なかでも驚いたのはブタさん。クルマから颯爽と降りてきたブタさん。そのときはどうおもてなしをすれば良いのか、頭がフル回転。お客さんに忘れられない宿泊を提供するだけでなく、若旦那にとっても忘れられない宿泊になったと言っ。



皆様のお越しをこころよりお待ちしております。

樋口基広

ひぐちもとひろ

社地域振興協議会

〒717-0404
真庭市社 2119

社の式内八社などの史跡や歴史などを地域住民によって保存・歴史の継承をしていきながら、参拝客や観光客等の皆さんへお越しいただけるようにPRをしていきます。



大御堂は岡山県最古の材。中世の(社)湯原を伝へ発信したい

まるで往年の映画スターのような佇まい。淡めの口調で語られるのは、湯原地域「社(やしろ)」の歴史。社といえは、平安時代の書「延喜式」に記載された、格式高い「式内社」が8つも集まっている地域。その地域振興協議会会長を務めつつ、中世式内八社案内ガイドの代表もしている。

いつもは内気でおとなしいけれど、ひとたび「社」の説明となると、芝居でならした饒舌な語り口がよみがえってくる。言葉がこぼれ、そしてお金もこぼれていく。なぜだかまったくお金がたまらないのが最近の悩み。案内ガイドのボランティアさんにとんどん振る舞いながら、「おかしいなあ、おかしいなあ」と呟いている。

心配なことがもうひとつある。一八五年に創建され、岡山県最古の材を使っている「大御堂」。いつか倒れてしまうんじゃないか、と心配で心配でたまらない。趣味のブドウ栽培(ピオーネとマスカット)しているときも、ゴルフでスコア90台のときも、「大御堂」が気になって仕方がない。旅行者者だったむかしの経験を生かして、社のことを広く発信。もうちょっと注目を集めて、なんとかできれば、と思っている。

池田 公博

いけだ きみひろ

下湯原温泉ひまわり館

〒717-0403
真庭市下湯原 24-1
Tel : 0867-62-7-8-
HP : <https://www.yubarahimawarikan.com>



ひまわり館では、やさしい泉質が楽しめる広い露天風呂に加え、ペット専用貸切風呂も完備。また、お食事処では手打ちそばやジビエ料理などのご当地グルメを、売店でははちみつや地ビールなど真庭の特産品も面白い求めています。

まるみを帯びたお腹がとっても愛らしい、「下湯原温泉ひまわり館」のひまわりのような存在。いつも明るく前向きで、しかも豪快。

「ひまわり館」でも真庭産の野菜を使った絶品「天ぷらそば」や、週末限定の「ジビエバーガー」など、つぎつぎと新しいメニューを考案している。露天風呂・ペット専用貸切風呂をはじめ、ひまわり館の進化が止まらない。みずからの愛車、カワサキ「ZRX1200」の最高時速と同じぐらい、新しいアイデアが頭のなかを駆けめぐっていく。ただ、こだわりが強すぎるゆえに、フランスの家電メーカー「テイファール」になることも。ついつい、ぶんすかぶんの湯がパツと沸いちゃうとのこと（笑）。

面白いことが大好きで、じつは知る人ぞ知るコンサルタントとしての一面も持っている。従業員との掛け合いで進んでいく、Facebook上のコンテンツは珠玉の数々。観れば観るほどクセになっていく。そしてここだけの話、いつかアメリカへの移住をもくろんでいる。

皆様方のお越しを心よりお待ちしております。



蒜山



地元の人に「これこれ、この味！」と喜んでいただけてうれしいです。



まきもと 榎本 かなこ 加奈子

有限会社榎本風味堂
〒717-0602
真庭市蒜山上福田712-3
Tel : 0867-66-3061
Fax : 0867-66-3036
HP : <http://makimotofuumidou.com>



濃厚なジャージー牛乳や山葡萄などの蒜山高原の恵みをたっぷりと使用したお菓子を作っています。蒜山高原のおみやげに喜んでいただけるよう、ひとつひとつ心を込めて焼き上げています。

愛する息子さんのためなら何のその。興奮のあまり、運動会でも前に出すぎて注意されちゃうほどのパワフルお姉さんの正体は、昭和九年創業、蒜山の老舗お菓子屋「榎本風味堂」三代目。蒜山を知っている者なら、知らない者はいない「蒜山ジャージーサブレ」を手づくりでなんと五十年以上もつくり続けている。地元から愛されすぎて、こども園でも配られるほど。もちろん「榎本風味堂」を語るうえで、ふわっふわの絶品「蒜山乳清シフォンケーキ」も外せない。

やりたいことがありすぎて、本人も困っている。「東京スカパラダイスオーケストラ」のライブは毎年欠かさないぐらいロック魂が流れていると思ったら、一方で「現存する十二天守閣を制覇したい」という城ガールでもある。さらに少数から始めた多肉植物は増えに増えて、結果85個も育てるまでに。チャレンジ精神旺盛で感受性豊か。記憶に新しい「令和七年七月五日たつき諒さんの大災害の予言」を信じて、息子さんを守るため、繁忙期にも関わらず息子さんのもとを訪れたエピソードは可愛いとしか言いようがない。

蒜山の「トウモロコシケーキ」という幻の逸品を生み出した過去も持つお菓子職人。「ジャージーサブレ」をはじめ、「高原ブッセ」、湯原の「はんざきサブレ」など、今日も観光客を虜にしている。

ありさ ステンバリ

岡山ひるぜん貸別荘
ピーターパン

〒717-0602
真庭市蒜山上福田 1205-144
Tel : 0867-45-7600
Fax : 0867-45-7600
HP : <https://hiruzen-peterpan.com>



岡山ひるぜん貸別荘ピーターパンは、蒜山高原にある一棟貸のコテージで、タイプの異なる全10棟。楽しみ方はお客さま次第。一番人気な過ごし方はやっぱり蒜山の美味しい食材を調達して、好きな仲間とBBQ。自然に囲まれたデッキでゆったりと読書をしたり、暮らすようにのんびりと過ごす楽しみ方もおすすめです。真庭の方もお待ちしております。

高校のときに思いきって、イタリアに留学。そのときに旦那さん、イタリア人のルーチョさんと出会って結婚。いまは蒜山を満喫できる10棟の個性豊かな貸コテージ「岡山ひるぜん貸別荘ピーターパン」のオーナーをしている。

いつもマイペースで、まわりよりちょっと多めの睡眠が必要。どこでも眠れちゃうから、自分の貸コテージのふかふかベッドがいつも誘惑になっている。自分の限界がよくわからず、気がついたときにはボタンと眠りに落ちてしまう。おいしいもの大好き。グルメな旦那さんと一緒に、おいしいものを食べに行つては「ボーノ！オッテイモ！」が止まらない。自分たちでもイタリア料理をつくる。ちなみに夫ルーチョさんはすぐそばでオリブオイル専門店「オリバシクラ」を営んでいる。

明るく陽気なルーチョさんとやっぱり明るく陽気なありささん夫婦。蒜山で楽しく、自分たちの時間を大切にしながら暮らしている。そんな暮らしぶりや蒜山の魅力・コテージ情報をインスタで毎日配信。時々 лайブ配信にもファン多数。名前にもインパクトがあるから、一度会ったら忘れられない。



美味しいものいっぱい、自然がいっぱいの蒜山を子供と一緒に楽しんでいます。

かぎはやしろう 風早将

ひるぜん塩釜
キャンピングヴィレッジ

〒717-0504
真庭市蒜山下福田 27-50
Tel : 0867-66-3959
Fax : 0867-45-0772
HP : <https://shiogama-campingvillage.jp>



ひるぜん塩釜キャンピングヴィレッジは岡山県真庭市にある大山隠岐国立公園の中に位置し、日本の名水百選の塩釜冷泉が敷地内に湧き出るなど、大変豊かな自然に恵まれています。そんな自然に触れながら誰でも手軽にちょっとリッチなアウトドア体験を満喫していただける施設です。

グランピングからテントサイトまで、蒜山でアウトドアを楽しむ拠点「ひるぜん塩釜キャンピングヴィレッジ」の支配人。西日本の中でも五本の指に入るアウトドア施設にしたいと願い、オープンに合わせて赤磐市から単身赴任で蒜山へ。

場の空気を一瞬にして読む、仕事のできる爽やか青年。両備ホールディングス期待の星として、新規事業の立ち上げをはじめ、イベントの企画立案、運営など、幅広くおこなってきた。新しい環境にすぐ馴染み、なんでもこなす逸材だが、とっさに言葉が出ないときには「えーっと……」「そうですね……」で時間を稼いで、そのあいだに言葉をなんとか絞りだす処世術も持っている。

オフシーズンには岡山県南にも出没するが、いまではすっかり蒜山の人。休日にはいろんな趣味を楽しんでいる。単身赴任で磨かれたスパイス料理は、スパイス専用ボックスを買っちゃうほど。本当は海外を飛びまわりたいが、いまはガマンして国内をぐるぐる。関東でもどこでも、7時間以上かかってもマイカーで行くアクティブさ。子どもといつも観ている「カオズ」の影響を受けているのかもしれない。



お声掛けいただき、光栄です。

いしが 石賀 まさよ 真代

ユキミドリ

〒717-0602

真庭市蒜山上福田 1205-188

Tel : 090-2290-9545

Instagram @ yukimidori1015



蒜山高原で香りのしごとをしています。蒜山のゆたかな自然の素材をつかって香りの製品や化粧品をつくっています。香りを通してご自身を見つめていただくセッションもおこなっています。体験プログラムひるぜんのうつくしい時間主宰。



ユキミドリを通じて、豊かな美しい蒜山の魅力に触れて、ただまよと辛いです。

蒜山へといざなう優しい香りは、石賀さんの手がけるアロマ「ユキミドリ」から。

ポプリや金木犀を拾い集めていたひとりの少女が「香り」に魅せられ、いまではクロモジなど、天然の地域素材を使って、香りの製品と化粧品をつくっている。香りは心も整うもの。ココロもカラダも癒される蒜山の体験ツアー「ひるぜんのうつくしい時間」の主宰もしている。

とにかく香りに一途で、学生時代の卒論テーマは淡めの「万葉集の匂い」について。大伴家持もビツクリ。日本アロマ環境協会認定「アロマセラピスト」の資格も持ち、アロマの講座を聞いている。

優しい香りに誘われて、ふと石賀さんのプライベートを覗くと、じつは激情的な一面が。ジャズダンスはキャリアア十年以上。フラダンスもする。休みにはマイボードを携えて、山陰ハサーフィンに。波に乗っている。音楽をかけながらのドライブも大好き。

まさに石賀さんの中で、静と動がブレンドされている。それはまるで、クロモジ精油に、天然果実の精油をブレンドしたアロマスプレー「ひるぜんの香り」のよう。うつくしい蒜山を伝えられたら、と活動をしている。

うえき 植木 啓司

ひるぜんワイナリー

〒717-0602
真庭市蒜山上福田 1205-32
Tel: 0867-66-4424
Fax: 0867-66-7017
HP: <http://hiruzenwine.com>



日本固有の野生のぶどう、「ヤマブドウ」を栽培・醸造・販売。カフェスペースでは、ジャージーチーズとワインを蒜山高原の景色とともにゆっくりお楽しみいただけます。

女性と接するように、ワインに接する。「ひるぜんワイナリー」の代表は、蒜山を代表するダンディズム。日本固有の蒜山産野生ブドウ「ヤマブドウ」のワインを中心に展開している。ヤマブドウとワインにかける想いは熱く、四十三歳から大学に通いなおしたほど。スタッフとさらなる高みを目指している。

根っからのまじめな性格で、「ひるぜんワイナリー」の試飲コーナーにみずから立ち、直接お客様に説明をしている。その立ち姿は、「映画のワンシーンのよう」とみなが口を揃える。さらにその声に魅了されるファンが続出。ワインのフルボディのように力強く、渋みのある声がよく通る。通り過ぎてひそひそ話できないのが、悩みの種。お客様は試飲のワインに酔っているのか、その渋い声に酔っているのか、いつもわからなくなるという。

お酒が大好きだが、ワインを飲むとむしろ仕事モードに。だからプライベートではサウナで汗をかいてしっかり整えてから、ビールをいただく。ちなみに最近ハマっているのは、松の木の剪定。夜な夜なお酒を傾けながら松の木のDVDを観ているらしい。どこまでもダンディを貫き通す。

ヤマブドウ（ワイニ等）ももっと多くの人に知ってもらいたい



ゆきえ 雪江 よししたか 祥貴

津黒いきものふれあいの里
ネイチャーセンター
ささゆり館

〒717-0513
真庭市蒜山下和 1077
Tel: 0867-67-7011
Fax: 0867-67-7012
HP: <http://plus.harenet.ne.jp/~tsuguro/>



約16haの自然公園です。動植物の生息・生育環境を保全し、体験の場を提供することを目的として平成11年にオープンしました。雑木林や湿地・溪流など豊富な自然環境と、そこに暮らすオオサンショウウオやモリアオガエルなど色々な動植物にあえる里山自然公園です。

蒜山中和（ちゅうか）の目印。183cmという長身のため、遠くからでも見つけやすい「津黒いきものふれあいの里ネイチャーセンターささゆり館」の館長。動植物、生きとし生けるものを愛し、千葉県から岡山の大学を経て、真庭市へ。雑木林や湿地、溪流など豊富な自然環境に囲まれた、広大な自然公園のなかで、ますます生きものへの愛を深めている。

自然観察専門員としても活動していて、ときに動物たちに近づくため、その長身を「樹木」に見立てることもあるとかないとか。その結果、オオサンショウウオやモリアオガエルなど珍しい生きものたちの観察に成功している。

子どもたちが自然のなかでたっぷりと遊べる「津黒いきものふれあいの里」を運営しながら、雪江さん自身も自然を楽しんでいる。アマゴ、ニジマスといった溪流釣り。春には山菜の収穫。秋になると、きのこを採って食べている。これまで危ないきのこを口にして、あちらの世界を覗いたことはない。さすが自然観察専門員。のんびりと生きものたちのペースに合わせて暮らしている。動植物のことはまず津黒へ行き、雪江さんに尋ねるべし。



ふれあいの里は、お子さんと自然の中で遊ぶにはとても良し所です。一度遊びに来てください。

こたにごうしよう 小谷 剛璋

東光山福王寺

〒717-0501
真庭市蒜山中福田 252
Tel: 0867-66-3306
Fax: 0867-66-4500
HP: <https://fukuouji.org/>



903年(平安時代)、宇多法皇の身代わりであり菅原道真公の念持仏であった薬師如来像を、蒜山高原の地に安置したことから始まったとされる福王寺。開山は道真公の随僧であった弥宗僧正。宇多法皇から道真公への思いが回向して、薬師如来の光明が満ちています。広大な10000坪の境内には「ドッグラン」も! 蒜山ならではの開放感を楽しめます!

お寺の可能性を広げていく蒜山「福王寺」住職。それを体現するように、聴く者の心に刺さる法話で「H1法話グランプリ2023」優勝。フジテレビなど多数のメディアに取り上げられ、以来法話の依頼が殺到。毎週のように全国各地に出向いて法話を届けている。もちろん真庭でも凱旋講演を行い、その話術からイベントの司会を頼まれ、さらには両国国技館のプロレス興行にてオーブン着祈禱も担当している。

そして住職のいる福王寺は、これぞ蒜山高原のお寺。10,000坪という広大な境内には、ワンちゃんが駆けまわれる開放感たっぷりのドッグランがあり、飼っている黒の柴犬「ダリルくん」も喜び、跳ねまわっている。Instagramも要チェック。人気者ダリルくんをはじめ、お寺の可能性が広がるイベント情報をアップしている。これまで世界的なギタリストをアメリカから招いた「お寺でギター教室」をはじめ、おもちゃつき、歴史ある京都世界遺産「仁和寺」とコラボしたインスタライブ、「ひるぜんジャーナランドで写経教室」などを実施。とにかくフットワークが軽く、思いつきで行動してしまう。そして褒められたら浮足立っちゃう。京都や大阪のお寺で長らく修行を積み、実家のある蒜山へ。趣味はダリルくんと散歩。そしてときどき寿司を握っている。



とても光栄なことだと感じています

どひ 土肥 まゆみ 真由美



中和地域のようにはいさなコミュニティだからことをできることはたくさんある。中和で暮らす子ども達の声は、地域・大人達の原動力になっている。

えがお商店

〒717-0513
真庭市藤山下和 1949-2
Tel: 0867-45-0635

みんなが笑顔で集える居場所。

人のためにできることがあれば、できるかぎり取り組みたい。そう願って、睡眠時間を削って地域のために惜しみなく活動する、真庭のスーパーボランティア。「湯原温泉病院」の病院事務。病気が治療できないが、楽しい会話を通じて、気持ちぐらぐらお手伝いをしていく。病院事務のほかに「中和いきいきサポーターズ倶楽部」代表を務め、中和のみんなの集いの場「えがお商店」を運営している。みんなで古民家を改修して立ち上げた。学童保育を兼ね、子どもたちが集まってわいわいしている。

悩みは一日に二十四時間しかないこと。いろんなことに関わって、たまにへこむこともあるけど、基本的にはポジティブ。誰にでも気軽に声をかけて、ときに「新車のナンバか」と間違われることもあるとか。よく笑い、気がついたら一人でケラケラ笑っていることもしばしば。その笑顔に、人が集まってくる。

時間があれば、心を整えるために四国遍路をめぐる。また、揚げパンやクロワッサンなど、本格的にパンも焼く。そしてつくった絶品のパンをイベントで販売。販売したら即売。「えがお商店」の収益をつくっている。なんにでも全力のスーパーボランティア。

むらおか 村岡 誠介 せいすけ

悠悠

〒717-0504
真庭市蒜山下福田 438
Tel : 0867-66-2642
Fax : 0867-66-2642
HP : https://home.tsuku2.jp/merumaga_register_nologin.php?scd=0000113644&miscd=0000113644&agt=



「ひるぜんの焼きそば」「とりのから揚げ」と「偏屈」が売りです。メルマガは上記のQRコードからご登録ください。



恥ずかしいので素顔はさらけ出せません。

輝くコテに「悠」の文字。真庭を代表する覆面レスラー「ザ・グレート・セスケ」。自腹で制作したマスク（ちなみに二つめ）の、その正体は「ひるぜん悠悠」の二代目。

覆面では隠し切れないほどの行列ができる「悠悠」。ウリはもちろん「ひるぜんの焼きそば」、金賞受賞の「とりの唐揚げ」、そして店主の偏屈っぷり。ただ偏屈（本人談）と言っても、それはこだわりの裏返し。燃える闘魂を内に秘め、創業からの味を大切に守っている。

言うまでもなく、プロレスが大好き。観戦だけでは済まない。学生時代、DWA（同志社プロレス同盟）に在籍していた経歴を持つ。第七代京都棚橋弘至選手。プロレスから人生の妙とエンターテインメントを学び、悠悠のメルマガやSNSの投稿にはその要素がふんだんに生かされている。面白くて、鋭い切り口のメルマガにファン続出中。ファンに応えるため、夜間頻尿に悩まされながらも、メルマガを更新している。じつは漫画も描く。仕事の合間をぬって空手にも励んでいる。いつか蒜山でプロレスの興行を打てたらと思っている。

蒜山のお土産品を担う新田菓子舗は、九十年以上続く蒜山の老舗菓子店。そんな新田菓子舗のお人好みな三代目。結婚を機に蒜山へ嫁いできて以来、すでに人生の半分以上を蒜山で過ごしている。「蒜山高原センター」の入り口あたりで店頭販売をすることもあり、出会える確率高し。まさに存在そのものが、蒜山の玄関口と言っても過言ではない。

宙司（ひろし）という名前の由来は「アポロが月に行くとき」に誕生したから。愛車のローバーミニをアームストロング船長のように軽快に運転する。しかも自分で整備するというこだわりぶり。こだわることには徹底的にこだわり、ガンブラをはじめ、好きな漫画家の作品は全巻揃えていこうとするオタク気質。本人曰く、まだ「ヲタク」という言葉が一般的ではなかった頃からのヲタク。いわば「ヲタク創世記の人物」。

そのこだわりぶりはお菓子づくりにも存分に生かされ、「蒜山高原まんじゅう」「チーズケーキ」「牛乳キャラメルクッキー」「牛乳サブレ」など、どれも蒜山の恵みを生かした絶品スイーツ。「あ、見たことある！」というお土産品の数々。座右の銘は「お楽しみはこれから」。これからも新しいお菓子をどんどん開発していく新田菓子舗から目が離せない。お楽しみはこれから。

にった ひろし 新田 宙司

新田菓子舗

〒717-0505
真庭市蒜山上長田 459-4
Tel : 0867-66-2116
HP : <https://nitta-kashino.com>



地元蒜山のお菓子屋です。



結婚を機に、物住してきた物住者でいい、
人生の半分以上を蒜山で過ごしています

ふたわか やよい 二若 弥生

美容室やよい

〒717-0504
真庭市蒜山下福田 335
Tel: 0867-66-2762
Fax: 0867-66-2762

田舎のしがない「パーマ屋」です。完全地域密着で、お1人お1人のお客様によりそい、美髪・美肌・体の健康をお伝えするお役目ができていたらサイコーと信じて頑張っています。

「まさか」と思いかもしれないが、本当である。本当にどじょうすくいをして、「美容室やよい」店主。会うたびに髪の色が変わり（ピンク色も通常運転）、銭太鼓（竹筒を振って中の銭を鳴らす太鼓）や津軽民謡、安来節などそれぞれのメンバーと一緒に活動。依頼があれば向かい、会場を沸かせるおもしろい芸人「やーちゃん」。活動が多岐にわたるため、お店が開けられないのが悩み。地域密着を心に給食ボランティア、地元のお母さんとお弁当づくり、ほかにも食育推進ボランティア蒜山チーム6人の元気なメンバーとサロン、学童、シニアクラブに至るまで。さらには結婚推進「まにわ婚」のお手伝いも。商工会女性部の若い衆と傘踊りによさこい。身体に足に湿布を貼りながら楽しんでいる。「頭がパニック！」と大笑いしながら語る。

どれだけ忙しくても「何かええことできんかなあ」と目をキラキラ輝かせる。「ネタ探し」で蒜山への恩返しだがやーちゃんの生きる道。

三十年蒜山で続けてきたお店もやーちゃん流。早朝だろろうが夜遅かろろうがお答えする。お客さんに寄り添うことを考え、楽しいおしゃべりも人生相談もしたりされたり。そしてまた芸能活動へ。会えば元気になれる、蒜山のパワースポットなのかも。



蒜山地方で郷土・蒜山銭太鼓・三味線他継承活動
やります。津軽三味線も含め伝統芸能の世界へどうぞ！

かめやまひさし 亀山尚

蒜山観光協会

〒717-0602
真庭市蒜山上福田 1205-220
Tel : 0867-66-3220
Fax : 0867-66-4141
HP : <https://www.maniwa.or.jp/hiruzen/>



蒜山の新たな観光文化発信拠点となる GREENable HIRUZEN の一角にある茅葺きのサイクリングセンターで観光案内を行っています。



地元蒜山出身、蒜山の観光を知り尽くした若き貴公子。みんなから「かめちゃん、かめちゃん」と親しまれ、みずからも蒜山の暮らしを満喫している「蒜山観光協会」のスタッフ。新しくできた蒜山の拠点「GREENable HIRUZEN」内にある茅葺きのサイクリングセンターに行けば、かめちゃんスマイルに出会うことができる。

一眼レフで四季折々の蒜山を撮るのが趣味だが、最近はおっぱら愛娘の写真。蒜山三座を撮るように、いろんなアングルから子どもの写真を撮影している。子ども大好き。ちょっと心配性などころがあって、「娘が反抗期を迎えたらどうしよう」などいろいろドキドキしている。でも基本的には、「きつとなんとかなる」と楽観的。いつか宝くじが当たればいいな、ラクに暮らしたいな、と思っている。

大学の進学で大阪、京都に出ていたが、蒜山の居心地の良さに惚れて帰ってきた。帰ってから、山登りや自転車など、蒜山のアクティビティを堪能している。蒜山の魅力をもっと掘り起こして、もっと広く伝えたい。そう思いながら、蒜山観光協会で働いている中で、同じく観光業界で働いていた奥さんと出会った。

原田 喜市

はらだ きいち

蒜山ホースパーク

〒717-0501
真庭市蒜山中福田 958-38
Tel : 0867-66-5116
Fax : 0867-66-5117
HP : <https://hiruzenhp.com>



多様なスタイルで乗馬が楽しめます。

颯爽と馬に乗る「リオデジャネイロオリンピック」出場のオリンピックア。地元民になっていて忘れがちだが、会いに行けるところにオリンピック選手がいるという事実で驚く。馬場馬術のアスリートであり、乗馬体験やエサやり体験などができる「蒜山ホースパーク」代表。

三歳で馬の背にまたがって以来、人生という名の馬場を駆け抜けてきた。十七歳で故郷の山形を出て、修行のため大阪へ。そして蒜山に至るなかで、国体7連覇・全日本馬場馬術選手権3度の優勝・世界選手権にも2回出場。リオデジャネイロオリンピックは愛馬エジスターとともに出場した。馬場馬術は、馬と踊る芸術。現在も現役選手として、馬術競技が人気のヨーロッパを中心に遠征して世界と戦っている。また、引退した競走馬を受け入れる「一般社団法人オールド・フレンズ・ジャパン」も設立。かつて競馬ファンたちを熱狂させた競走馬たちが穏やかに暮らしている（獲得賞金額を見て、毎回愕然とする笑）。

趣味は釣りで、鳥取県まで出かけている。休みの日ぐらいいは、と思うが、休みの日は竿を握り、普段はアスリートとして手綱を握る。「馬に乗ったことがある」は子どもにとって特別な体験。そんな体験を「蒜山ホースパーク」で提供している。

馬と遊んでみませんか？



「君の名は。」と聞かれたら、きつとこう答えてくれる。「蒜山の野田洋次郎」だど。だれもが振り返るRADWIMPS野田洋次郎に似た、その正体は「大山どり」の専門店「七鳳（なとり）」の若き店主。まろやかなコクとジュシーな大山どりの唐揚げと、秘伝の蒜山おこわがたまらない。

神戸から蒜山にUターン。祖母の家業を引き継いで、専門学校で出会った流奈さんと一緒に蒜山の道の駅「風の家」をはじめ、各イベントにて活動中。移動販売も手がけ、「蒜山おこわ&大山どりのからあげ弁当」は名物になっている。もともと「三牧商店」という屋号で蒜山おこわを販売していたが、「大山どり」専門店へ。そんなはずはないが、店主も奥さんも「モンスタースターハンター」にハマリ、ひと狩り行くうちに「大山どり」専門店になっただとか。どうりでお肉が新鮮なわけだ。

悩みは「知名度が低いこと」らしいが、趣味の範囲を超えたイラスト制作やピアノ演奏など、マルチな才能が引き出しからどんどん溢れてくる。前前世からバイタリティも溢れてくる。ちなみにRADWIMPSも好きだが、それ以上に店主と奥さん揃ってMrs. GREEN APPLEの古参ファンである。

みまき はるな
三牧 流奈
みまき まこと
三牧 慎人

大山どり専門店
七鳳 - なとり -

〒717-0602
真庭市蒜山上福田 725-2
Tel : 080-2946-4421
Instagram : @
daisendori_natori618



大山どり専門店 七鳳-なとり-です！
私たちは2025年6月18日に前身となる三牧商店から名前を変え蒜山で事業をしています。大山の山麓で育った大山どりを精肉店から取り寄せ、からあげや大山どりを使ったおこわを作って販売しています。



和食は20代という若者で事業者としての経験はまだ浅いですが、20代らしいバリエーションで真実を盛り上げていきたいと思ってるので、今後をどうぞよろしくお願いいたします！

おかだ けんじろう 岡田 堅二朗

ちきゅうぎ

〒717-0602
真庭市蒜山上新田 1205-403
Tel : 080-6708-3084
Instagram @ chikyu.gi



地元の方のハンドメイド雑貨や世界のオーガニック食品、世界の雑貨を仕入れ、飽きの来ないお店を目指しています。自家焙煎珈琲も様々な国の珈琲の味が楽しめるお店です。ログハウスの暖かで落ち着く空間を目指しています。テラスではペット可です。

店内に入って一歩目で異世界へ迷い込むという、博物館のような蒜山の雑貨屋「ちきゅうぎ」店主。大阪から移住して始めた第二の人生の舞台は、オーガニック食品と世界の雑貨、そして変わり種コーヒーがところ狭しと並び、浪漫の詰まった聖域（サンクチュアリ）。

オーガニックコーヒーや自家焙煎ブレンドコーヒーなどこだわり、雑貨も「スッポンの甲羅の小物置き」「アフリカの楽器」「曼荼羅風インテリア」などなど、見たことのないものが多過ぎる。元クルマの整備士で、その技術力からレーザー加工で木製時計を自分でつくってしまうほど。その木製時計ももちろん販売している。「ものは売れなければ意味がない」と良心的な価格にするも、明らかに商売よりも「雑貨への愛情」が勝っている。

しかも、頼まれたら断れない優しさゆえに、知り合いから頼まれて農作業をしてからお店を開けている。猫ちゃんに関する雑貨もあり、ペット可のテラスもあるが、じつは店主、猫アレルギー持ちという衝撃の事実。店内はつねに変化し続けており、訪れるたびにいつも違う表情を見せてくれる。蒜山にある異世界「ちきゅうぎ」へようこそ。



せいで一度足を運んで頂き、他ではあり見ない雑貨や珈琲を堪能していただけたらと思います。ハンドメイド雑貨も多数ありますので工場にもできます。

権 こん
 奈美 なみ
 朴 ぼく
 優一 ゆういち

担々麺のお店

ブラザー軒

〒717-0504
 真庭市蒜山下福田 72-131
 Tel: 070-3102-1298
 Instagram:
 @brother_ken_siogama



塩釜冷泉の麓で美味しい水を使った自家製麺。自家製のラー油で4段階の辛さを調節。薬膳がたっぷり入った自家製の醤油を使用。



3年間夫婦で研究を重ねた「担々麺」美味い担々麺だと思えます

たまらなく食べたくなる中毒者続出の絶品、自家製担々麺の「ブラザー軒」。蒜山をこよなく愛して、倉敷から移住。三年間夫婦で担々麺を研究しつづけ、塩釜冷泉の近くに塩釜冷泉の美味しい水を使った「担々麺の専門店」を構えた。店名の由来は伝説のフォークシンガー高田渡が歌う「ブラザー軒」から。必ず「お元氣ですか」から始まるInstagramの投稿も高田渡と親交の深い井上陽水の影響かもしれない。

開店当初、三十代の女性をターゲットにしていたはずだが、気づけば壮年の男性が続々と訪れる隠れ家的名店に。男性で埋まっていく店内を見つめ、「どこで戦略を間違えたのかな」と首を傾げていた。最近は女性客も増えてきて、内心ホッとしている。趣味の域を超えた店主のDIYによって、お店を基礎からつくった逸話を持つ。住居部分の設計も店主みずから。お店づくりも住まいづくりも大好きな蒜山を堪能できるようにこだわりの抜いた。夜には蒜山の美しい星空のディスプレイを楽しむ（おもに奥さんが）、休みの日にはときどき近所さんと焼き鳥を焼いてわいわいと楽しんでいる。

辛いもの好きの奥さん、奈美さんがスパイスを担当。辛味も痺れも四段階から選べて、薬膳の効いた濃厚スープが麺に絡んでくる。もう食べたいたい。「ブラザー軒」の自家製担々麺。

ごとう りゆうじ
後藤 龍二
ごとう たかえ
後藤 孝江



「ジンギスカンにひるぜん焼そば。そして最近話題になっている塩ホル麺。是非食べに来てください。」

味処 高原亭

〒717-0602
岡山県真庭市蒜山上福田 815
Tel : 0867-66-3696
Fax : 0867-45-0120
HP : <https://hiruzen-kougentei.com>



昭和52年創業。もう少して50周年を迎えます。オレンジ色の外見が目をはひく、只今二代目が跡を継ぐ数居に依い田舎の食堂です。

蒜山高原の国道沿いにそびえる、まぶしいほどオレンジ色の建物「味処高原亭」。驚くべきは、店主がお店の外観以上に「オレンジ色に輝いている」という事実。思い返せば、オレンジ色への異常な愛情は、奥さんと出会った頃の青春時代に駆った初代マツダ・ロードスターがきっかけ。「オレンジ色は汚れが目立たない」という実用的な理由で選んだはずだが、まさか自身までオレンジ色になるとはだれが予想しただろう。愛用の軽バンもちらんオレンジ色。

そんなオレンジ色に輝く店主は、昭和五十二年創業、五十周年を迎える地元民愛用「高原亭」二代目店主。奥さんの孝江さんとともに切り盛りし、どこへ行くにも一緒に現代版おしどり夫婦（ちなみに孝江さんもほぼオレンジ色に輝いている）。

メニューはひるぜん焼そば、ジンギスカンに限らず「言われたらなんでも出す」がモットー。特に話題沸騰中の「塩ホル麺」は、レモンとの相性がたまらない、地元民全員が唸る絶品グルメ。もちろん店主もオススメしているのだが、「いつだったか味を付けるのを忘れちゃった」という衝撃的なエピソードを持つ。じつは、爬虫類が大好き。でも餌になるコオロギは触れない。蒜山で「オレンジ色に輝いている人」を見つけたら、もう間違いない。

蒜山の伝統工芸品「郷原漆器」を引き継いだのは、「日本の文化を継承したい」と願うアメリカ人。もうそれだけで充分インパクトがある。郷原漆器発祥会の会長を務め、同時に木地を挽く木地師であり、漆を塗る塗師でもある。蒜山産のヤマグリを生木のまま豪快に刃物で削っていく姿は、「職人」を超えてもはや「SAMURAI」。

暮らしぶりを知れば、さらに「SAMURAI」。自宅にエアコンを設置せず、扇風機だけで夏を乗り切る猛者。「エアコンはいりません。あと十年は扇風機だけで生活できます」家族で消費するお米や野菜も自分で栽培している。自分たちでつくったお米から麴をつくり、味噌や醤油までつくっている。またクルマ必須の蒜山で、自転車で移動している。地元の人と話すときは、蒜山なまりの岡山弁が出ることもあり、きつと山形弁を話すダニエル・カールもびっくり。一刻も早く「YOUは何しに日本へ？」の取材に来てほしい。

「郷原漆器の館」に自転車が停まっていれば、「SAMURAI」は中にある。二階の作業室で漆塗りに没頭していると、残念ながらお客さんが来ても気づけない。彼は言う。「勇気を出して、二階まで上がってきてほしい」事前に予約しておけば、漆の絵付け体験もできる。

デイロング・デービッド

郷原漆器の館

〒717-0602
真庭市蒜山上福田425
Tel: 0867-45-0481
HP: <https://www.maniwa.or.jp/web/?c=spot-2&pk=3105>



400年の歴史を誇る、蒜山の伝統的工芸品・郷原漆器の制作と販売を行っています。原材料である栗の生木（丸太）の状態から完成に至るまでのすべての工程を一か所で行う、全国的にも珍しい施設です。



伝統を守りながら漆器の新しい可能性を追求し、日々制作を行っています。
見学は随時受け付けております。ぜひお立ち寄り下さい。

ちぶ たくお 千布 拓生

蒜山自然再生協議会

〒717-0602
真庭市蒜山上福田 1205-780
HP: [https://i-maniwa.com/
area/nature_res_2022/](https://i-maniwa.com/area/nature_res_2022/)



蒜山の自然は一日してならず。山々と対話を重ね、草木と携わり、ときには道なき道にも入り、蒜山の自然を守っていく「蒜山自然再生協議会」事務局。当然、蒜山の豊かな自然を維持、再生していくには並大抵の体力では務まらない。しかし心配には及ばない。彼は並大抵の体力ではない。

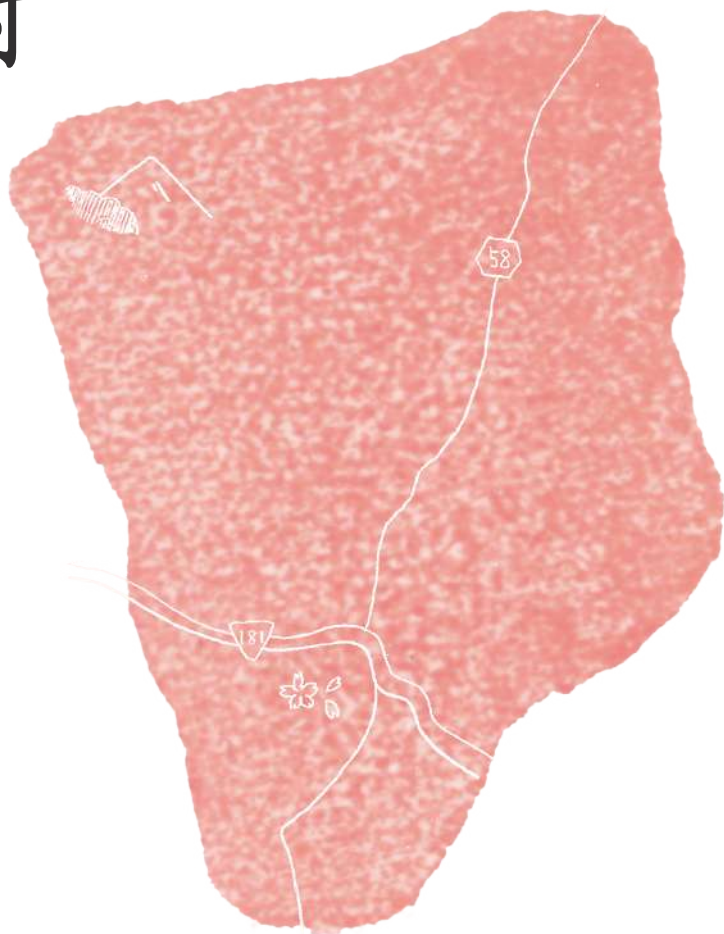
学生時代、サイクリング部に所属。サイクリング部のイベントで、二十四時間自転車で走り続けた伝説を持つ。しかも一度ではない。一年目、二年目と走行距離を伸ばしていき、三年目には、二十四時間で500kmを達成。ほとんど寝ることはなかったという。もう、ちよつと怖い。その後、日本を縦断しながら全国の景勝地をまわるなど、「自然界」に寄り過ぎて、やや人間を超越しつつある。

その体力を仕事にも当ててしまい、深夜2時に及ぶのはいつものこと。大学での研究をはじめ、東北で動植物の調査に従事していたこともあり、「自然」を知り尽くしているため、みんなから頼られてついつい仕事を引き受けてしまう。山焼きや茅刈り、湿原の再生、登山道整備、視察受け入れ、企業とのコラボレーション事業の実施など、挙げ始めたらキリがない。やさやかな楽しみは、Googleマップを見ること。地図を眺めながら「この道はこう繋がっているのか」なんて思っただけは旅行の計画を立てている。



蒜山の自然や文化を繋ぐためにたくさんの皆さんの協力が必要。そのために山焼きボランティアや地域内外問わず一般の方々が参加しやすいイベントを年中実施していますので、ぜひ参加をお願ひいたします。

新庄村



いそだ こういち
磯田 光一



本坂屋

〒717-0201

真庭郡新庄村 1099-3

HP : <https://www.maniwa.or.jp/web/?c=spot-2&pk=3749>



あまりにいろいろ取材を受けるのは得意ではありませんが、地域づくりマニワジャーということで仕方なしです。

男気に溢れるオトコ。新庄村「がいせん桜通り」沿いにある、居酒屋「本坂屋（ほんざかや）」のオーナー。アメフトで鍛え、今でもボディメイクを欠かさないその体格で、生まれ育った新庄村の地域づくりを牽引している。「観光地域づくりマニワジャー」も担っている。

人一倍の腕っぷしと人情味で、新庄村の若者たちのアニキ的存在。ものごとをズバッと言っちゃうこともあるが、それも新庄への熱い思いがあればこそ。熱いと言えば、こよなくサウナを愛するサウナーでもある。愛するあまり「サウナ・スパ健康アドバイザー」「サウナ・スパプロフェッショナル」などの資格を次々に取得。新庄を「西のアウトドアサウナの聖地」にしようと目論んでいる。所有しているテントサウナで整っているため、最近「丸くなったね」と言われるように。

しかしまだまだ新庄を盛り上げたい。地域の若手たちと一緒に、自身の趣味、キャンプや釣りなどのアウトドアを楽しみながら、これからの展望を練っている。またアメ車愛好家でもあるが、昨今のガソリン代高騰のために、これからどうしようかちょっと迷っているらしい。

誰もが口を揃えて言う。「千葉さんは十数人いる」と。

本人に尋ねて、理由がわかった。二十四時間働き続けられるらしい。何だっ
たら四十八時間もいけるらしい。休日はつくらない。いや、もはやホラー
である。しかも2021年度より新庄村役場から「一般社団法人むらづく
り新庄村」へ出向して、業務執行理事に。がいせん桜通り内のコワーキン
グスペース「咲蔵家（さくらや）」、お宿「須貝邸」、コミュニティスペース
「木挽家（こびきや）」の経営などなど。ますます忙しくなった。公私の区
別がつかないほど働き続け、まるで止まると死んじゃうマグロのよう。じっ
としていられず、果ては長編映画を5分も観られない身体に。ただ本人は
YouTubeに登場するなど、ベンチャー系公務員としてとても楽しんで
いる。

もともと岩手県出身で、ニート期間を挟みつつたまたま真庭へ。さらに
転職して新庄村役場へ。役場の中にいながらチャレンジを続け、新庄村の
コミュニティ通貨「もちん」にも携わっている。少しでも目を離したら、
つぎの瞬間にはもう新たな企画が生まれている。止まらない、止まらない
千葉智明から目を離すことなかれ。

ちば 千葉 ともあき 智明

一般社団法人
むらづくり新庄村
(新庄村役場)

〒717-0201
真庭郡新庄村 1143-4
(新庄村 2008-1)
Tel: 0867-56-7550
(0867-56-2626)
Fax: 0867-56-7551
(0867-56-2629)

がいせんさくら通り内の古民家を改
修して整備したコワーキングスペ
ース(咲蔵家)の他宿泊施設(須貝邸)
・コミュニティスペース(木挽家)・木
工加工施設(Fab Space Sirinjo)を
経営。



新庄村の住民で、色々な職業の中で「たまたま役場で仕事を
している、面白い分野の挑戦が出来る」というあり方に生活です。

うすいみゆき
白井 幸

うすい たかきーと
白井 宗来人

ボスケリコ農園

〒717-0201
真庭郡新庄村 3429-3
農園 HP: <https://bosquerico.net>
民泊 HP: airbnb.com/h/open-house



日本で最も美しい村の最奥地で宿泊型自然体験。新庄村はさるなしの聖地。幻の果実さるなしを使って、色んな加工品（スイーツ）・植物音楽を展開しています。

新庄の最奥地に生きる「ボスケリコ農園」は、もはや自然と人の境界線が曖昧な存在である。自然を参拝し、自然を浴びて生きる。言うなれば、自然とともに生きる「ナチュラー」だと二人は語る。農園でありながら、五右衛門風呂と囲炉裏のある民泊「OPEN HOUSE」も運営。訪れる人たちに新庄村の豊かな自然を感じてほしいと願う。

二人は言う。これからの「観光」はその漢字のとおり「光を観る」時代となる。「光」とは何か。自然界に満ちる周波数、振動数こそが「光」であり、それを五感で全身に感じ、自身に取り入れること。自然のリズムに身体を預け、真のレクレーション（再創造）を体験するとき、再び身も心もチューニングされて、本当の「元氣」が心の底から湧き上がってくるのではないか。それらを体現するように、新庄村産まぼろしの果実「サルナシ」を栽培。また環境省の事業計画のもと絶滅危惧種の蝶「ウスイロヒヨウモンモドキ」の飼育も認められている。幸さんは自然のなかで出会う生きものが大好き。川や山に入り、子どもたちへ環境学習も行っている。

新庄村での暮らしを綴る「ボスケリコ農園」のInstagramでは最近「傷口にマムシの皮を貼って治療する」という投稿が全国的に話題となった。オシヤレ感が出ないと悩んでいるが、どれもインパクトが強すぎて、オシヤレが追いついていないだけである。



新庄村の自然も人も大好きです

稲田 萌萌依

稲田牧場

〒717-0201
真庭郡新庄村
Tel : 0867-56-3212
Fax : 0867-56-3212

和牛繁殖が主体で一年一産を目標に水田放牧を行い、肥育農家さんに喜ばれる子牛づくりを目指しています。また、地域活性化の為に肉の販売も行っています。



とにかく牛が大好きで毎日牛と過ごすことが出来て幸せです。

新庄村の和牛農家「稲田牧場」の若き後継者。子どもの頃から牛に囲まれ、「跡を継ぐ」と決めて、牛たちの世話をずっと手伝ってきた。畜産を学ぶため、高校から一人暮らし。現在は、蒜山にある全寮制「中国四国酪農大学校」の学生さん。早朝5時から夜の19時半まで授業を受けつつみっちりと作業している。でも時間を見つけては、あれもしてあげたい、これもしてあげたい、と牛たちにもっとできることはないかと探している。たまの休日にも、実家の牧場のお手伝い。忙しさのあまり、いつのまにか趣味は「寝ること」。とにかく牛たちへの愛が溢れ、牛たちを愛して止まない、令和のカウガール。とても真面目で、負けず嫌いな性格。一度決めたら、やり通す。カ仕事だって、牛たちのためなら、と汗水を流して、いつかは「新庄和牛」をいろんな人に食べてもらいたい、知ってもらいたい、と願っている。じつはお母さんの「サニー」こと、稲田晴江さんも有名人。移動販売車での出張カフェ「32's cafe (サニーズカフェ)」のオーナーをしている。何でも相談し合える親子で、お互いエネルギーを与え合っている。



黒田 眞路

くろだ しんろ

新庄村
森林セラピー協議会

〒717-0201
真庭郡新庄村 2008-1
Tel : 0867-44-1330
Fax : 0867-44-1330
HP : <http://yurikagonokomichi.jp>



自然の足りない現代人を、森へといざなう「森林セラピー」案内人。心や身体が疲れてしまった人たちに、川の音、小鳥のさえずりを注いでいく。人が本来持つ感性を呼び覚ましていく。その「真実（真実）」を伝えるために活動する「真実一路」の「眞路」さん。

暮らしぶりは、「もののけ姫」ならぬ「もののけの王」。学生時代にインターハイ、全国大会にも出場している元陸上選手の脚力で、山のなかを駆けまわる。野性味が溢れすぎて、富士山を半袖短パンで登ったこともある（いまは真似したらダメなやつ）。富士山登山が日常生活の延長にあるレベル。山のなかを駆けまわっているうちに、新庄村に「トレイルラン」をもたらした。朝5時から夜8時まで、山のなかを約70km走りつづけるトレイルランは、まさに鉄人レース。脱落しそうなった参加者に、彼は言う。「生きろ、そなたは美しい」。

だれよりも、森の可能性を信じている。生まれ育った新庄村の役に立ちたくて、これまで「森林セラピー」や「トレイルラン」を10年以上つづけてきた。ヒメノモチもつくり、新庄の魅力を伝えている。儲からないことでも新庄村のためなら、と取り組む。そもそも（女性限定だが）頼まれたら断れない性格である。

あしかわいわお 芦川 巖

株式会社
サルナシの里新庄
〒717-0201
真庭郡新庄村 1170
Tel: 0867-56-3018
Fax: 0867-56-3018

昭和60年に新庄産野生種を中心にサルナシ栽培を始め、岡大薬学部
のサルナシによる癌抑制研究成果を受け、低温酢抽出法を確立し、75歳
の時の平成28年11月9日栽培者有志とサルナシ酢等を販売する会社「株式会社サルナシの里新庄」を設立する。

新庄村の特産品「サルナシ」の名前の由来は、もともと「猿が我を忘れて食べるほど美味しい」からだという。そして人が食べても、我を忘れるほどに美味しい。まさに「忘我の境地」に達する。戦後の植林ブームでサルナシを含む広葉樹がどんどん伐採されていたなか、ふと熟れたサルナシを見つけて食べたところ、あまりの美味しさに感動。その場で虜となり、サルナシの栽培を始めた。

あれから四十三年（取材日現在）――。ほぼ半世紀を経て、八十三歳になった今でも、現役バリバリでサルナシ（新庄村の野生種等）を育てている。手のかかる無農薬栽培で、しかも年間500kg。栽培のために毎日、山に登っている。さらに七十五歳のときには「株式会社サルナシの里新庄」を設立。身体に良いサルナシの効果効能は、巖さんの健康ぶりを見れば一目瞭然である。日持ちの難しいサルナシを酢に漬けて「サルナシ酢」にしたり、「サルナシピール」にしたり。自宅には炭にしたサルナシの木をアート作品として飾っている。

五十年以上、毎日「ラジオ体操」をつづけ、腕立て伏せも欠かさない。もちろん毎朝のヨーグルトには「サルナシ酢」を入れている。情報番組に大々的に取り上げられるのが待ち遠しい。



サルナシはキウイの原種で特に新庄村の野生種は、岡山大学薬学部の研究で全国のサルナシの中でも栄養価が高く、がん病変抑制効果が高いことが判明し、試行作誤の末低温酢抽出法にたどり着き商品化したものである

やまだりようへい 山田 遼平

本職的を絞らせないロクロノア・ソロばりの三刀流。新庄村役場にいるかと思えば、真庭のクラフトビール工房「美作ビアワークス」にいます。そうかと思えば、自宅の畑でホップを栽培している。新庄村役場ではおもに「農業」を担当。移住前の三十歳から農業学校に通い、農業に関する知識を蓄え、いまや哲学する役場職員として知られる。

もともと就農を考えるなかで新庄村出身の奥さんと出会い、移住。元来の坊主頭が幸いして、想像以上にすんなりとお寺に住むことに。ただ奥さんが仕事で新庄村に帰って来なかったため、ひとりぼつねんと念佛寺に残ったという。あの日の木魚の音は忘れられない。あるとき、京都のクラフトビールに触れ、「これだ！」とビールづくりに必要なホップ栽培を始めた。こことんまで突き詰めるタイプゆえ、役場の正職員を辞して「美作ビアワークス」へ。「いつか新庄村でも地域に根差したお酒をつくりたい」と現在ビールづくりを学んでいる。「なぜ三刀流なのか」がようやく一本の線が繋がった。めまぐるしく走りまわっているが、趣味はギター。ふと立ち止まって、思うままに歌謡曲を口ずさみながら、弦をつま弾いていく。その腕前はクラフトビールと同じぐらい酔いしれるほど（になりたい）。

Instagram : @mimabeer



ふかい
深井
ひでとし
英俊

株式会社 創林社

〒717-0201
真庭郡新庄村 1977-8
Tel : 0867-45-0380
Fax : 0867-56-2092
HP : <https://www.sourinsya.com>



山に対してもと関心も持ってほしい。新庄に来たらたこやまを買ってください。

森林サイクルのすべての作業を行う「株式会社創林社」代表取締役。苗の育成から植え付け、造林に伐採、出荷まで。林業家としての技術を背中で魅せるタイプ。ただ身体は思うように動かない。パソコンを前に屹立する程のようにフリーズしてしまふ。しかし事務仕事から解放されると、再び仕事人の一面が顔を出す。仕事が趣味と語り、創林社として稲作と蕎麦の栽培も手掛ける。個人的に牛も飼っている。

何かを育てる技術は、たこ焼きづくりにも生かされている。林業で磨いた手さばきに加えてYOUTubeから焼き方も教わり、イベントで人気を博す至極のたこ焼きとなっている。また丸いものという関連で言えば、卓球の指導員としての一面も。小中学生を教えているが、「喧嘩になるから」という理由で我が子たちへの指導は控えている。しかし背中で魅せるタイプの父から学ぶことは多かったらしく、子どもたち4人全員卓球をしており、子どもたちのほうがもはや自分よりも強くなっているという。

新庄村消防団の副団長も務めている。お酒はあまり飲めないが、宴会のような賑やかな場所は好き。多くは運転手として参加して楽しんでいる。

一般社団法人
新庄村農業公社



いわさ
岩佐
たかし
隆志

一般社団法人
新庄村農業公社

〒717-0201
真庭郡新庄村2002-1
Tel: 0867-45-7507
Fax: 0867-45-7508
HP: <https://shinjo-agri.localinfo>



早朝五時に起床の「一般社団法人新庄村農業公社」事務局長。新庄村農業公社は高齢化で減り続ける農地を守るため、農作業の代行をしたり新規就農者をサポートしたり、特産「ヒメノモチ」の生産も支え、そして独立採算で黒字化を目指す。農業界の「ミッシヨン・インボックスブル」を遂行していく姿は、しぜんとトム・クルーズを思わせる。

多岐にわたる業務を担うが、それができるのも人生経験の為せる技。これまで公務員、営業、配送事務、技術系などの職種にも携わってきた。任されるオトコが事務局に留まらず、現場に立つのも領ける。子どもの頃、農作業に汗を流す大人たちを見てきたが、笹野さんの影響を受けていま自分も「有機無農薬栽培」に挑んでいる。「耕作放棄地をなくしたい」「農地を次世代に繋ぎたい」一心で取り組み、公社で借り受けている田んぼは年々増加。その田んぼを活用して雇用の場も生み出したい、と責任感を燃やしている。

エンジンも燃やしており、趣味はバイク。仕事が終わってからバイクで駆けることもしばしば。その姿は「トップガン」を彷彿とさせ、再びトム・クルーズを思わせる。ちなみに通勤はカブに乗り、新庄村役場まわりでカブを見かけたら岩佐さんである可能性が高い。ハイシーズンには月に三回ぐらい、自然保護監視員として毛無山にも登っている。山で出会えるかも。

愛くるしいカモたちが、ガアガア鳴いて何も聞こえない。新庄で有機のアイガモ農法をしている名物農家。水稲、スイートコーン、白ネギ、もち米、コシヒカリ。さらに近くの田んぼのお世話までする。守備範囲が広い、と思っていたら、むかしサッカーの国体選抜にDFとして選ばれたという。その守備範囲の広さ、まさに農業界の吉田麻也。

父親も現役の農家、さらに自身の次男も現役の農家。三世代で現役の農家である。現役は農家だけに留まらない。なんとサッカーも現役選手。毎週土曜日はサッカーチーム「真庭マスターズ」で華麗なボールさばきを見せる(ちなみにチームの最年長は七十五歳を超える)。三浦力ズも驚くに達しない。指導経験も豊富で、新庄FCで三十年以上、小学生を指導してきた。さらに六十歳からゴルフを始め、冬はスキートの指導もしている。じつは農業も五十九歳のとき脱サラして始めた体力の持ち主。とにかく毎日を全力で楽しみ、「元気」という言葉では足りないほど元気。トランペットを吹き、単車にも乗り、次男の炭づくりも手伝う、という一面(もはや一面ではない)も持つ。

もう充分ではないか、と思うが、さらに農業委員、監査委員、社会福祉協議会の委員も担っている。そして朝晩はガアガア鳴く何十羽のカモを追いかける。三人の子ども、五人の孫に恵まれ幸せに暮らしている。

さかもと しげき
坂本 茂樹



うえだ ゆうき 上田 雄喜

これまで四百種類以上の調味料を試食して、「ローカルに隠された美味しいもの」を厳選。日本全国の絶品ご当地調味料が購入できるWEBサイト「Delice Monde」を立ち上げた。人生の酸いも甘いも知る豊富な経験から、「ひとりではできることが限られている」と四業種の個人事業主に「一緒にやりませんか？」と声をかけ、新庄に本社を置く総合商社に。

「Delice Monde」に加えて、焼鳥居酒屋の「みふねや」、洗車とカーコーティングの「KEYS Car Detailing」、もみほぐしとリラクゼーションサロン「Feelgood」「Weeie米子」。新庄から真庭、倉敷、米子に至るまで、横断かつ多角的な運営を行っている。社名である「リベルタ」に込めたのは、「自由への挑戦」という誓い。既成概念に囚われず、新庄を盛り上げる地域づくりにも積極的に参加するなど、「挑戦」を続けている。

活動はそれだけに留まらない。「サッカーの人」としても知られ、新庄村ジュニアスポーツクラブの会長とサッカーの監督を務めている。自身も現役時代はサイドバックを守っていたという。子どもたちには礼儀も重んじながら「できないことができるようになる」面白さを伝えている。また、若手を中心にした社会人サッカーチームの運営もしており、その人望からメンバーが集まっていた。

y's リベルタ合同会社

〒717-0201
真庭郡新庄村 2059
Tel : 0867-45-1808
HP : <https://ys-liberta.themedia.jp>



新庄村役場 商工観光係



いわさ
岩佐
かな
佳奈

新庄村産業建設課
商工観光係

〒717-0201
真庭郡新庄村 1161-1
Tel : 090-1010-7876
HP : <http://www.vill.shinjo.okayama.jp/>



新庄村役場に関するニュースに欠かせない。あの記事にもこの記事にも名前がある。ときには薦められて写真のモデルになることも。とにかく多くのプロジェクトに携わっている新庄村産業建設課所属。令和二年入庁だが、PRへの思い入れはまるで郷土愛。イメージキャラクター「ひめつ子」と双壁を為している。

新庄村の情報発信から村外のイベント出展、村内の特産品推進に関する企画運営にも携わり、地元中学生のフィールドワークを受け入れることも。新庄村役場とがいせん桜通りにある「商工観光係事務所」を忙しく往来しながら、村の良いところを日々紹介している。「商工観光係事務所」と言えば、役場とは思えないほど親しみやすい場所。地元の方、観光に訪れる人たちが気軽に立ち寄れる場所を目指しているという。

岩佐さん本人は、新庄村の魅力を「昔ながらの趣きのある美的感覚がいまも生きている」と語る。農作業に携わる美しさ、草を刈り景観を整える美しさ、里山の暮らしを丁寧守っている美しさ。そういう新庄の当たり前ひとつひとつを観光客の人たちにはぜひ味わってほしいと願う。イベント出展が土日祝にあるため、週末に休みづらいのが難点だが、大好きな日本酒と飲み会が原動力になっている。

ほんだ 本 陽哉 はるや



株式会社
メルヘン・プラザ
〒717-0201
真庭郡新庄村2190-1
Tel : 0867-56-2908
Fax : 0867-56-3611
HP : <https://www.meruhenn-plaza.jp>



みんなが気になっている「MOCHIEE HACC
HI（もちちはち）」名づけの親。もちはちと言えば、ゆるくて可愛い新庄生まれ新庄育ちの8人兄弟。伸びのあるお餅「ひめのもち」のようにグッズ人氣もぐんぐん伸び、パーカーやキャップ、缶バッジ、絵コースターなど幅広く展開。ひめのもちを知ってもらおうきっかけになっている。

そんなもちはちのお父さんのような存在。もちはちの名づけ親でもあり、仕掛け人。さらには道の駅「がいせん桜新庄宿」リニューアル請負人でもある。餅つきに欠かせない杵と臼の色が映える美しい外観に加え、バリアフリーも実現。訪れる人たちが使いやすいようこだわり抜いた。その細かなところまで行き届いた配慮は、ひめのもちのきめ細かさを思わずにはいられない。結果、売上は3倍に。「ここで働きたい」という人も増えて従業員も3倍に。ひめのもちと同じぐらい「コシ」のある経営体となった。

オハヨー乳業で営業から役員までのぼり詰めた実力は本物。新庄出身で、新庄愛に溢れている。そんな請負人の挑戦をさらに加速させたのが、「ジャパン・フード・セレクション」にてひめのもちがグランプリを受賞したという吉報。「お餅は受賞できない」と言われていた前評判を見事に覆してのグランプリ受賞に、いま注目が集まっている。

みかも 三鴨 裕太

新庄宿須貝邸

〒717-0201
真庭郡新庄村 1144-1
Tel : 050-5434-6430
Fax : 0867-56-7551
HP : <https://sugaitel.jp>



築百年以上の古民家を再生・改修した宿泊施設。日本の美しい暮らしの風景を紡ぎながら、古いものと新しいものが溶け合い作り出す、あたたかな空間。専属料理人により、仕上げられる季節感溢れるフルコースを提供致します。

新庄が生んだアラン・デュカス。がいせん桜通りにある一日二組限定の古民家宿泊施設「新庄宿 須貝邸」の料理を、オープン時からすべて担ってきた若き「和」の料理人。アマゴに鯉、猪や山菜など、里山の旬の食材を「極上の逸品」に仕上げて提供している。

じつは、信じられない体力を持つ。高校の調理科を卒業後、銀座の鮨屋で修業していたが、毎日十六時間近く働いていたという。しかも表情が変わらない。変わらないどころか、何を頼まれてもすぐ「わかりました！」と気持ちの良い返事をする。最終的には、親方に欠かせない付き人のような存在に。それはまるで新庄村に欠かせない「がいせん桜」のよう。ひとの良さから新庄でも愛され、旬の食材がどんどん持ち込まれている。心配性など魅力。心配だから仕入れはいつもちよつと多め。山菜を採るのも「心配だからちよつと多めに」と、一度入ったらかな山から下りてこない。

そんな山のなかでの風景から着想を得て、うつわ選びも飾り選びも、もちろん料理も景色と調和するように考え、フルコースにしていこう。生まれ育った新庄を料理で豊かにしたい、と最近、祖母がつくってくれていた新庄の郷土料理「ぶどうもち」を復活させた。



生まれ育った新庄村を料理でより豊かにしていきたい！

せきねりゆういち

関根龍一

てんま

天満のどか

√ anone

〒717-0201
真庭郡新庄村 4983-1
Tel: 070-8329-0369
Instagram: @rootanone



現役プロレスラー（プロレスリングBASAARA所属）と元東京女子プロレス所属のプロレスラー夫婦は、本当の意味でパウercアップル。現在は農業を中心にもち米やお野菜を育てながら、のどかな水と緑のなかでひと息つくカフェ「√anone」も運営している。もともと農業をする予定はなかったそうだが、何の因果か、農業を始める前から龍一さんは「レッツコンバイン」という必殺技を持つ。

津山出身ののどかさんは、実妹・愛野ユキと「爆れつシスターズ」としてタッグを組み、仲良し姉妹ならではのチームワークでタッグチャンピオンとして活躍していたこともある。姉妹でくり出すタッグルは強烈だったという。そんな龍一さんとのどかさんが出会い、新庄村で新婚としてのタッグを結成。地元の人たちの温かさにも触れ「何か恩返しをしたい」とアジャコングなど有名選手を招いた「がいせん桜プロレス興行」を開催した。好評を博し、2026年4月にも第二回となる「がいせん桜プロレス」を開催。「√anone」は土日限定のカフェ。子育て支援活動にも積極的に、村内にある「すくすくハウス」のイベント時にも出店している。自家製ショウガで作ったクラフトコーラとジンジャーシロップがオススメ。春の桜祭りなどイベント時にごとき提供している名物「龍ちゃんこ」もぜひ。



笹野 寛

ささのひろし



無農薬無化学肥料の「ひめの餅」の製造販売をしています。

農業

Tel : 090-7977-0332

もはや「ひめっ子のモデルは、彼ではないか」と言われている。ひめっ子といえば、新庄村のご当地キャラクターでお餅が大好きなお姫様。特技は、新庄村伝統「四人搗(た)き餅つき」。聞けば聞くほど、笹野さん本人である。シーズンとなる十一月中旬から年末までは毎日、餅をつく。もちろんその餅は新庄村の特産「ひめのもち」。

根っからのお餅好き。好きが高じて「有機で育ったもち米のお餅が食べたい」と思い、無農薬かつ無化学肥料のもち米づくりに挑戦。いまや「有機JAS」認定を受け、さらに「おかやま有機無農薬農産物認証」も取得している。無農薬栽培が成功するまで、平坦な道のリではなかったはずだが、お餅のように「粘り」が決め手になったとか。「四人搗き餅つき」は、ひとつの白を囲んで四人が餅をついていく新庄村の伝統。お餅をつくその技術もお持ちになっている。そんな絶品の「ひめのもち」を正月用、秋祭り用、たじよう餅として市内各地で販売。

お餅をよく食べるからか、身体が毎日「お正月」だと思いい込んでいるらしい。そのため、お酒がどんどん進む。欠かさない日はなく、まわりから「不摂生」と言われてばかりいる。餅は餅屋に任せられるが、身体は餅屋に任せられない。「私の有機農業は道半ば悪戦苦闘の最中です。でも、中山間地域の農業は有機農業と信じています。お餅の質搗き(ちんつき)もしています。ご用命ください」

たけもと 竹本 やすのり 康紀



岡山県畜産共進会において優等賞首席を受賞。いや、受賞歴を挙げ始めたらキリがない。業界で知らない者はいない和牛繁殖農家「竹本牧場」代表。四十頭の牛たちを相手に早朝からこまめな観察を欠かさない。この観察眼こそ市場トップクラスの評価を得る秘訣。一頭一頭、顔も違う性格も違う。牛にも優しい牛や蹴ってばかりの牛など個性がある。そんな個性を見極めながら、言葉を超えたコミュニケーションでお世話をしている。資格を持っているため、みずから人工授精を牛たちに施すこともある。

もとは海に携わる仕事をしていたが（海に携わる仕事をしていたのに、趣味は川でバス釣りという）、三十歳のときに帰ってきて半年間岐阜での研修を経て、両親の跡を継いだ。子どもの頃から身近にいた牛たちが好きで、もつと言えば動物が好き。四十頭もの牛を飼っているにも関わらず、家では五頭の猫ちゃんも飼っている。

自分で育てた和牛をときにはみんなで食べることも。味は言うに及ばない。さすがの受賞歴で、脂っぽさがなく肉の旨味が口に広がっていく。話を聞くだけで絶品和牛の焼肉が食べたくなっていく。美味しい和牛ここにあり。ちなみに写真に写っている牛は「一番性格が悪い」らしい（笑）。

やまだ こうへい 山田 耕平

山田商店

〒717-0201

真庭郡新庄村1097

Tel: 0867-56-3007

Fax: 0867-56-3007

Instagram: @1137yamada



ちょい飲みができるレトロ感のある店、がいせん桜通りにあり、やめるにやめれない店

新庄村で130年つづく「山田商店」の4・5代目。4代目でも5代目でもない。全国でも類を見ない（もしかしたら初かもされない）、少数点のある4・5代目。新庄の生活を支えているはずの商店だが、「地元のひと向けに、何を置いたら良いのかわからない」と言う。4・5代目がわからなければ、だれもわからない。店頭の商品が減ってきたら、不定期に閉めて思い立ったように仕入れに出かける。さらに閉店時間も「だいたい良い感じの時間まで」と、とくに決まっていない。佇まいだけではなく、商売のスタイルもしっかりと昭和を感じさせてくれる（新庄村とマッチするレトロ感からメディア出演依頼も多数）。

夕方になると、たちまち近所のひとたちが集まって宴会が始まる。観光客に提供するのはいつも「三種類のお酒とおつまみ」の「ちょい飲みセット」など。お酒は蔵に足を運んで選ぶほどのこだわり。こだわりの繋がりを生み、あるときはふらりと日本代表に帯同する料理長を務めたシェフが山田商店を訪れ、またあるときは大手企業の会長も訪れた。しかもその会長に関してはそのまま仲良くなり、いまでもやりとりがづづいている。自由奔放なそのスタイルはまさに往年の名番組「水曜どうでしょう」ならぬ「新庄どうでしょう」。



真庭な人びと



妹島 和世

せじま

かずよ

妹島和世建築設計事務所

HP: <https://mag.tecure.jp/tag/妹島和世建築設計事務所/>



撮影：福島夏子 (Tokyo Art Beat)



人々に開かれた「公園」のような建築を中心に、海外をも魅了する世界的建築家。「建築界のノーベル賞」と呼ばれるプリツカー賞を受賞した「真庭大使」でもある（同賞受賞は日本に9人しかおらず、そのうちのひとりに安藤忠雄氏がいる）。父が久世出身で、本籍はいまでも久世にある。子ども頃の頃、夏休みに時々真庭を訪れており、祖父が営んでいた商店で「好きなお菓子」を選ばせてもらうのが楽しみだった。真庭大使となり、真庭に來ると、子ども頃の記憶がよみがえってくる。

受賞歴を並べただけで、ここが埋まってしまふ。手がけた建築は、金沢21世紀美術館（ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞受賞）。ルーヴル・ランス（フランスのルーヴル美術館の別館）など。県北で開催された「森の芸術祭」では勝山の町並み保存地区に、まるで人間と一緒にいる小動物のようなベンチを手がけ、自身の建築哲学「開かれた公園のような空間」が勝山に現れた。それほどの実績ながら「なんとか食べていける」と確信できたのは五十代になってから。

「料理を楽しむ」ことに憧れながら、遠ざかったままなかなかできていない。そもそも休日も、やり残した仕事をしている。美しい公園や空間の環境を第一線でデザインしているにも関わらず、自分の生活をデザインするのはなかなか難しいということらしい。

やまぎりよう 山崎 亮

コミュニティデザイナー
スタジオエル

HP : <https://studio-lorg>



毎来寺の住職が作った版画をまとめた本を作っています

地域の活性化に携わる者なら誰でも知っている、17刷のベストセラー『コミュニティデザイン』の著者。同名を生業とする事務所「Studio-1」代表であり、大学教授。さらにはコミュニティデザイナーとして全国を飛びまわる。しかしその道を目指していたわけではない。鼻炎治療のため「耳鼻科医になって自分で治そう」と医学部を志すも、高校生のあるとき突然鼻炎が治ってしまい、夢を失うことに。そもそも「人の鼻の穴を覗く仕事は無理」という事実直面する。

親から「21世紀は英語・コンピューター・バイオテクノロジーの時代」と聞き、仕方なくの消費法でバイオの世界へ。しかしバイオが学べる研究室がない。泣く泣く「緑地計画工学」の道に進んだ。ランドスケープデザインと出会い、「モノをつくらぬデザイナー」として現在の職に就く。

真庭との出会いは講演依頼から。危機感ではなく、「だって面白いじゃないですか」から始まるまちづくりに衝撃を受け、以来「面白さ」でまちづくりを展開する「岡本旅館」を定点観測。工芸品にも造詣が深く、真庭市の毎来寺住職岩垣正道の版画を自宅に飾っている。著書「面識経済」では、労働時間を減らして町で仲間と面白がる経済があっても良いと提唱。「そういう意味ではもう真庭はできていると思います」と語る。

「ここで働きたいんです！」と、千尋が湯婆婆に訴えたよう。グリーンナブルヒルゼンの扉を叩き、「え、じゃあ来る？」と軽やかに蒜山への移住が決まった。もとをたどれば、福岡県の小倉出身で、山や木々に興味を持ち「環境に良いものは何か？」を自問するうちに、サステナブルな取り組みを進めるグリーンナブルヒルゼンに共鳴。

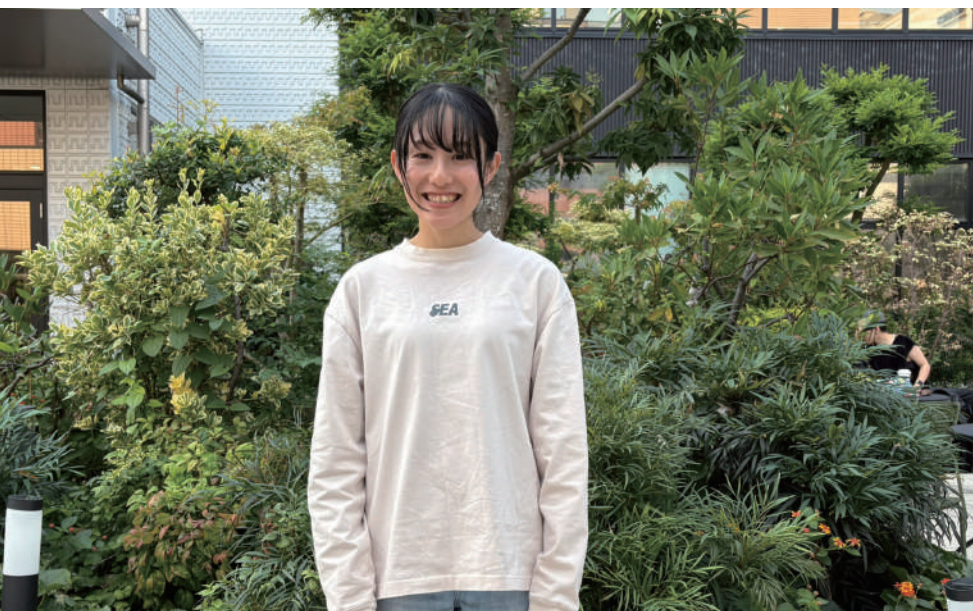
蒜山での暮らしのなかで「がま細工」をつくる方々の手仕事と出会い、「身近な方が身近な素材でつくった、顔の見えるものづくり」に心を奪われる。それがきっかけとなり、藍染めや機織りの職人さんを招いたポップアップイベントを企画するなど、グリーンナブルヒルゼンに新たな風を送り込んだ。

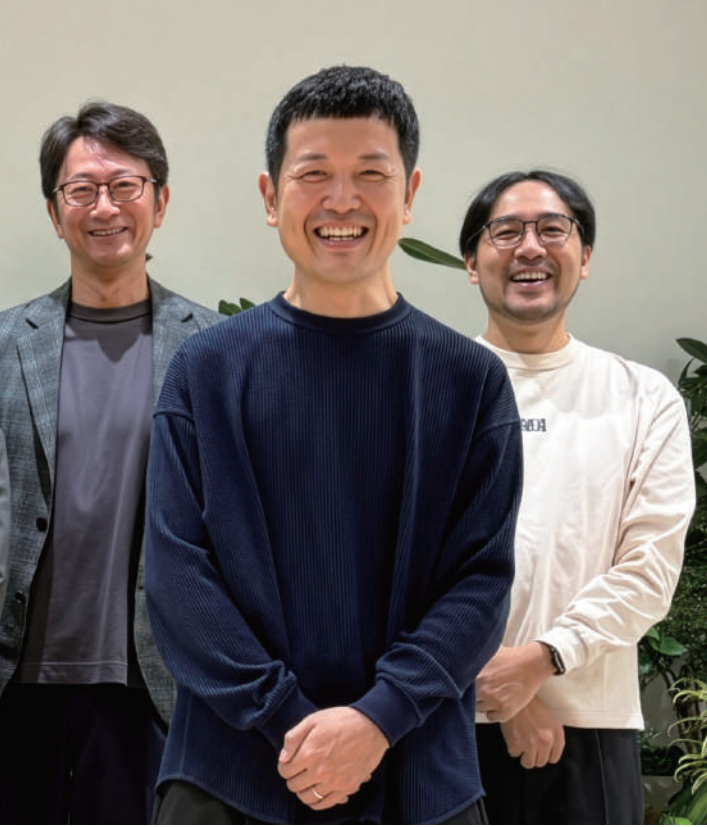
風と言えば、ギター弾き語りの一面も持ち、つじあやのの「風になる」や、田んぼと風をモチーフにしたオリジナル楽曲「駆ける魚」を、「風の葉」で披露するなど、とにかく風づくし。さらに「穂波」の名前も、稲穂が風によって波のように揺れるさまから来ているという。その「風」は蒜山のデビューな世界にもたどり着き、元エノキ工場を拠点にする蒜山のバンド「アンニユイ革命軍」に、一時「新・雪子」として参戦。現在は結婚を機に、岡山県笠岡市に移り、布と革の道具「SIRUHA」に携わっている。彼女は今でも真庭のアリアナ・グラランデ。

ながた ほなみ
永田 穂波

SIRUHA

〒714-0033
岡山県笠岡市大島中 2553
海の校舎 2 倉 1 階
HP : <https://siruha.jp>





かぶしきがいしゃはんきゆうはんしんひやつかてん 株式会社阪急阪神百貨店

(グリーンエイジ)

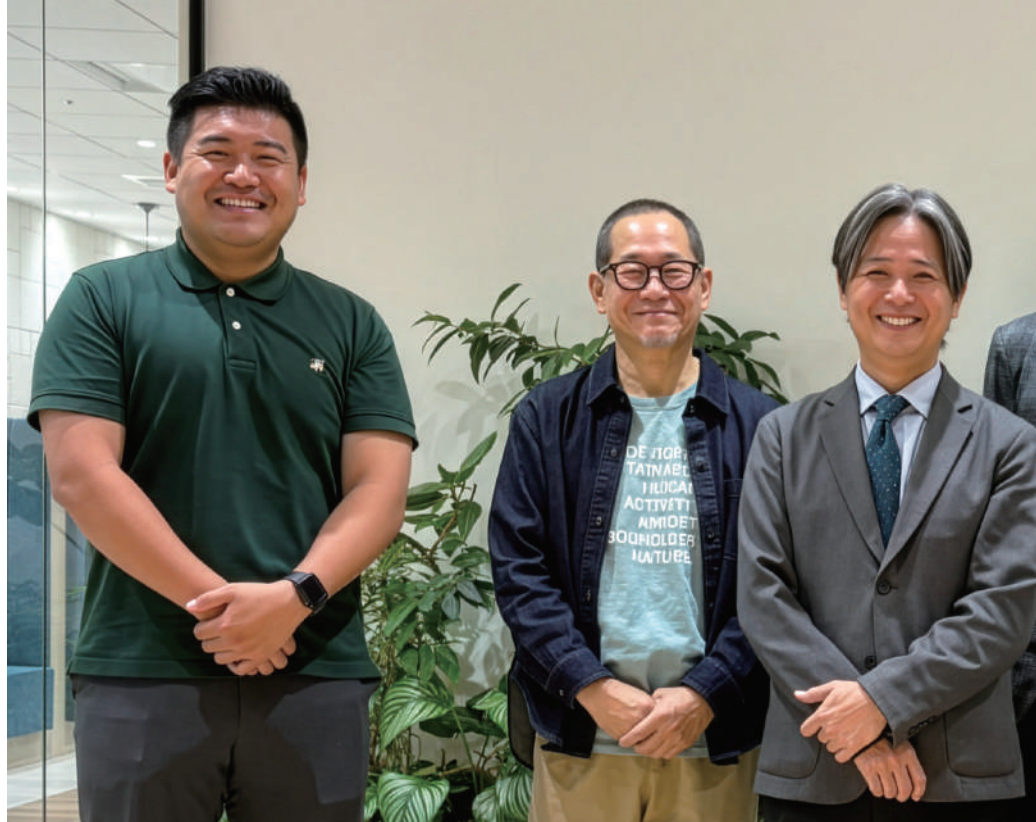
佐藤 宏樹・小栗 雄太・前田 陽一郎
石田 良太・前田 修・大谷 健太

株式会社 阪急阪神百貨店
阪急うめだ本店
8F「GREEN AGE」
〒530-8350
大阪府大阪市北区角田町8番7号
Instagram: https://www.instagram.com/hankyu_greenage/
HP: <https://website.hankyu-dept.co.jp/honten/h/greenage/>

まず語り始めたのは佐藤宏樹さん。阪急阪神百貨店から真庭市役所に派遣され、蒜山へ。「何者だ」と地元民が警戒する中、会合で日本酒を飲み、90センチの雪をひとりで掻き切った日、「あんたは蒜山人じゃ」と認められた。いまでは家族(むしろ佐藤さんのみ大阪に置いてきぼり)で蒜山に住んでいる。

物語の始まりは、ロンドン駐在経験のある前田陽一郎さんが蒜山を訪れたこと。地元民との立ち話から真庭市役所や、蒜山で自然環境保全活動をしている団体と出会い、「阪急阪神がこれから取り組んでいく(自然と共生する暮らし)」について何かできるのではないかと企画が動き出した。ロンドンでは「自然環境保全活動」をまるでジムに行くような感覚で参加している。それが蒜山でも叶うのではないかと、具体的なプロジェクトをスタートさせて「自然との共生」や「地方と都市の連携」を実現するサステナブルブランド「GREENABLE(グリーンابل)」を立ち上げた。翌年には社内公募を経て佐藤さんを真庭市へ送り込み、小栗雄太さんのチーム加入によって取り組みが加速し、市内企業同士のコラボによる新商品で「循環型社





会」を表現したり、トレイルランを通じて里山の整備に貢献したり、購入や参加をするだけで自然環境保全活動に繋がる仕組みを構築してきた。

ゼネラルマネージャーである石田良太さんは言う。「私たち阪急阪神百貨店が目指す取り組みは蒜山にもともとあった資源を生かして、広がれば広がるほど肩ひじ張らずに自然が守られていく。そういう取り組みなんです」

当時、真庭に行きたかった阪急阪神百貨店の社員は20名以上もいたという。しかしなせ佐藤さんが蒜山に派遣されたのか。選考理由は「ストレス耐性」と「熱量」。その理由どおり、熱量がまさって任期の延長を熱望。阪急阪神百貨店側は「このまま会社を辞めて蒜山に移住するのでは」とヒヤヒヤしたらしい。最近ではさらに大谷健太さんも参戦。「背中に蒜山三座が見える」と言わしめるその背中は、甲南大学アメフト部キャプテンを務めた物理的にも大きな背中。真庭の子どもたちから絶大な人気を誇っている。また現在は阪急阪神百貨店から真庭市役所に派遣された二代目、前田修さんが「GREENable」の活動を子どもカテゴリーにも取り扱いを広げるとともに、真庭市内のクリエイターの方々の取り組みにも広げつつある。すでに真庭市内の酒屋にふらりと立ち寄り、一杯引っかけて帰るほど真庭に馴染んでいる。阪急阪神百貨店と真庭は異色のタッグに見えるかもしれないが、それゆえにいま全国から注目を集めている。

たかだ こうへい 高田 興平

モーターヘッド

HP : [https://
motorheadmagazine.jp](https://motorheadmagazine.jp)



YouTube : [https://
www.youtube.com/
@japanmotorhead](https://www.youtube.com/@japanmotorhead)



2011年に創刊した伝説的なモーターカルチャー誌。現在は不定期での刊行となるが、真庭速祭の軸となる「MHヒルクライム」など、日本各地でさまざまなモーターイベントを仕掛けている。



一緒にサイコロばお祭りを倉りましょう！

広域農道・木山街道にレーシングカーが集結。動体視力が追いつかない「一瞬の走り」で峠（一般公道）を攻める伝説のヒルクライムイベント「MHヒルクライム／真庭速祭」の総合プロデューサー。「クルマで興奮しますか？」のキャッチコピーとともに、3000枚以上のチケットが即完売。会場を熱狂の渦に巻き込んだ。しかし誰よりもこのイベントの仕掛け人自身がクルマに興奮した人生を送ってきたのは間違いない。

スーパーカーブーム世代で、子どもの頃にはすでにディーラーのカタログを食い入るように見詰め、気づけばモーターカルチャーマガジン「モーターヘッド」の創刊編集長に。真庭との出会いは2017年、「マッドレイン」大橋和生の取材から。真庭のことはほとんど知らず、「数ある地方のひとつ」ぐらいに思っていたが、真庭のポテンシャルを知っていくうちに「なんだ、ここは！」と衝撃を受けていく。歴史・文化・人・食すべてが揃い、何より「一般公道」を開放してくれる器の大きさ。そして「じゃあ、やろう」とノリノリで手伝ってくれる地元民の多さ。真庭の魅力にフルスロットルで魅了され、ついに「東京から真庭へ通う年間パスをつくってほしい」と願うほど。「真庭速祭」の勢いはさらにシフトアップしながら真庭の「文化」のひとつになっている。

日本唯一の中央銀行「日本銀行（通称、日銀）」の審議役という堅い肩書きを持ちながら、一方で地球上のあらゆる川や森を這いずりまわって珍しいカエルを追いかけている。日本銀行とカエルの両輪は、まさに「両方ともに生きる」と書いて「両生類」。ただ「カエル好き」のインパクトが強すぎて、日本銀行の肩書きがどうしても薄れている。

コスタリカ・ペルー・エクアドル・マダガスカル・パプアニューギニア・オーストラリア、東南アジアなど。中南米から南半球まで珍しいカエルを求め、カメラ片手に沼地も熱帯ジャングルも何のその。奥さんと一緒に、昼夜問わず天候も問わず道なき道を行くのは、現地のガイドもやや引くレベル。極めつけは撮影したカエルの写真が両生類・爬虫類専門雑誌「Caudata」の紙面を飾り、「コスタリカのカエル」についての記事も寄稿。両生類の研究者とゆうに渡り合う。

真庭との出会いは、日本銀行の岡山支店長赴任だったが、念頭にあったのは「真庭に生息するオオサンショウウオ」のこと。早くオオサンショウウオに会いたくて仕方がなく、夜の観察会にも参加してきた。ちなみに真庭で高校生向けに「お金」について講演した際、教室のセットを組み、ドアに挟んだ黒板消しが落ちてくる演出があったのはいままも語り継がれている。

あべまつ ゆうじ
精松 裕司

日本銀行

HP : <https://www.boj.or.jp>



真庭の人がどの魅力に触れてみて欲しい

鄭相坤 じよんさんごん

CHANNEL FACTORY(韓国)

41-4 Chunggu-ro, Jung-gu,
Seoul,KOREA
Tel : + 82-10-4380-2127
HP : [https://m.blog.naver.com/
gomaniwa?tab=1](https://m.blog.naver.com/gomaniwa?tab=1)



偶然のきっかけで韓国で魅力的な真庭を宣伝しています。韓国旅行社・パワーブロッガーに真庭にある魅力的な観光資源をブログと直接旅行会社のパッケージ商品にマニワ商品を作るために営業しています。まだまだ韓国人は真庭についてよく知られていないのでPR頑張ります。

心はいつでも真庭在住。韓国ソウルを拠点に、真庭の魅力を韓国全土に発信する「真庭観光局の韓国デスク」。真庭の情報をキヤッチするスピードはときに真庭の人よりも早く、真庭観光局を驚かせる。しかもその情報は随時、韓国語で発信。まことしやかに「じつは真庭に住んでいるのでは」と噂が流れるほど。真庭と韓国の架け橋となっている旅行会社「チャンネルファクトリー」の社長。

年に数回は必ず真庭を訪れ、訪れたら「真庭愛」がもう爆発。「韓国ドラマ」の大恋愛を彷彿とさせる愛情と熱量で真庭の人たちへ会いに行く。日本語はお話できるが、教科書にない真庭の方言は勉強中。お話大好きなので、ゆっくりと理解しながら会話をします。飲むのもどちらかと言えばゆっくり。いや、真庭の人が飲むのが早過ぎるのか。本場の自分よりも真庭の人たちのほうがぐいぐいマッコリを飲む姿を見て驚愕したという。真庭のことを韓国でももっと知ってもらいたいと「MANIWA HIRUZEN」と書かれた「シャツのネット販売も始めた。事実、韓国の人たちが真庭に来るきっかけになっている。「もっともっと真庭のことを知ってもらいたい」といつでも真庭の最新情報を求めている。ちなみに趣味はサッカー観戦。「日本代表」が勝てば、すぐさま真庭の人に「おめでとう」とLINEを送信する。



李 旻珊

みんさん

遊日本有限公司 (台湾)
遊日本合同会社 (日本国内拠点)

〒103-0004
東京都中央区東日本橋
2-28-4 日本橋 CET ビル 2 階
Tel : 050-6872-5513
Fax : 886-2-2523-90
HP : <https://jtc17gojp.com>



台湾と日本をつなぐコーディネーター。
台湾人の目線で時代に合った効果的な戦略を日本の自治体や民間観光事業者に提案し、最強の気配りでご要望を超えた最善の業務をご提供。



小籠包のような真庭のアツアツ情報を台湾に届ける「真庭観光局の台湾ツアーデスク」。台湾といえば夜市、その夜市を思わせるまばゆいほどの明るい性格ゆえ、台湾の旅行会社からの信頼も厚く、どの旅行会社に行っても話がスムーズに通る。まるでスポポンとストローを通っていくタヒオカ(台湾発祥)のよう。はたしてその正体は「遊日本有限公司(有限公司は日本でいう合同会社)」社長であり、日本国内拠点の「遊日本合同会社」代表でもある。名前のとおり、日本を遊び尽くせるよう台湾の人たちに情報を提供している。

真庭をはじめ訪れた際、新庄村にて日本人も驚くほど、誰よりもお餅を伸ばして食べたという逸話が残っている。さすが『千と千尋の神隠し』のモデルとされる九份(きゅうふん)のある台湾。千尋のお父さんとお母さんのようにお餅を食べたというわんぱくぶり。ただ少々せっかちな一面もあり、お餅を食べる様子に慌てる地元民も。ちなみに日本を訪れたら必ず「一蘭」でラーメンを食べると決めている。

台湾は親日家が多いため、「今度は日本のどこに行こうかな」と思っている人が多い。そんな方々に向けて「真庭の魅力」を発信している。ホームページを見れば「日本愛」が一目瞭然。

石井 裕隆

いしい ひろたか



農林水産省

HP : <https://www.maff.go.jp>



運転免許のないまま、真庭に向向した無謀な伝説を持つ男は、農林水産省の官僚。着任早々、運転免許の必要性を痛感して、仕事が終わったら自転車を駆って「真庭自動車学校」へ。そのため、霞が関官僚の最終学歴は「真庭自動車学校」。

ドタバタで始まった真庭暮らし。ふいに暖簾も出ていなかった「岡本旅館」に入ったところ、わけもわからないまま重鎮たちの飲み会に放り込まれ、つぎからつぎへと現れる面白い人たちに圧倒され、人生が劇的に変わった。「あの日が人生のターニングポイントだった」と振り返る。林業・木材担当として、真庭の林業・製材業者から、現場で、飲み会で、山と木材の面白さ、そして難しさを学んだ。学び過ぎて、酔っ払った際、とある製材業の社長宅にアポなしで押しかけ、パジャマ姿の社長と飲み明かしたという逸話もある。真庭の人が言った「課題スタートはつまらない。面白いと思う感覚を大切に」という一言に感銘を受け、出向を終えた後も、農林水産省の後輩職員にもその言葉を伝えていく。それだけでは足りず、官僚の上も部下も関係なく、とにかく真庭に連れてくる。

30年近くバイオリンを弾きつづけており、実はエスパス管弦楽団に所属。奥さんもチェロ奏者で同じくエスパス管弦楽団に所属。仕事がなくても演奏会があれば、真庭在住中に生まれた愛娘と一緒に、帰ってくる。

農林水産省「石井裕隆」の後任を背負い、真庭に降り立った若き官僚。引き継ぎは唯一「真庭に行ったら岡本旅館に行けば良い」のみ。実際に岡本旅館を訪ねて以来、週4日を通い、夏頃には割烹着を着てカウターの内側へ。冬になると週7日通いとなり、戦力として座敷を手伝うまでに。中国林業の篠さんより「ちゃんばいご（岡山弁でやんちゃ坊主）」と呼ばれるなど愛されている。

もとは山形県小国町出身。それゆえ真庭になかった「芋煮」文化を持ち込んだ。北海道大学の文学部に進むも、文学と関係のない農林水産省へ。現在は真庭市役所の上役として多岐にわたる業務に関わる。中でも現場と霞が関の橋渡しがしたいと「真庭版農業支援サービス事業体」設立や蒜山酪農農業協同組合（ひるらく）との農業関連の事業に携わる。ひるらくの組合長と飲み明かし、何度も家に泊めてもらっているらしい。ただ、多くの地元民が「夜の久世」の割烹着姿しか知らない。深い悲しみに囚われた時期の彼を支えたのも「夜の久世」だったという。さらに真庭のバンド「配膳ボーイズ」にもハーモニカで加入。最近はベースも始め、ますますデビューな真庭人へ。

人を受け入れる「懐の深さ」を真庭に感じたと言い、また「頼りになる人の豊かさ」も真庭の魅力だと語る。事実、そんな人びとを伝えたいと願うこの「真庭の人びとV.O.R・2」企画を前に進めた立役者でもある。

伊藤 大誠

農林水産省

HP : <https://www.maff.go.jp>



もたに こうすけ 藻谷 浩介

(株) 日本総合研究所
主席研究員

HP : <https://www.jri.co.jp>



言わずと知れた名著『里山資本主義』（NHK広島取材班との共著）で、真庭を全国区に押し上げた立役者。真庭との最も古い記憶は、三歳のときに通った「四十曲峠」。以降も備中鐘乳穴を訪れるなど、ことあるごとに真庭を訪れ、日本開発銀行時代には久世の「マルイアルティ店」「落合サンプラザ」も視察した。

日本全国、世界各地を知り尽くし、平成合併前の全市町村、海外150ヶ国を踏破。しかもそのすべてを鮮明に覚えているという常軌を逸した頭脳の持ち主。その精度はもはや人工衛星を超え、現代の伊能忠敬ならぬ「異脳（異常にとんでもない脳）忠敬」である。そんな先生が「真庭はこれからの日本を照らすモデルになる」と言う。「林業や製材業、工業をはじめとする複数の個性的な産業、また個性的な地域が集まって、全体としてすごい力を発揮している」と考察。

じつは『里山資本主義』の出版を躊躇していた時期も。聞けば「里山資本主義で書いたことは真庭だからできたこと。他の自治体が表面だけ、ハードだけを模倣してもうまくはいかない」と警鐘を鳴らしたかったと言う。東京大学法学部卒、コロンビア大学MBA取得の鳴らす鐘は、和田アキ子や鳴らす鐘よりも高らかに鳴り響く。「東京の高いレストランよりも、真庭のごはん屋さんの方がレベルが高い」と藻谷節もさく裂。



観光地域づくりマナージャー一覧



岡山ひるせん貸別荘ビーターバン
スケンバリありさ



湯の戯つるや
小河原龍基



有限会社榎本風味堂
榎本加奈子



湯めぐりの宿松の家花泉
松尾圭一郎



油屋
高橋啓輔



しげや旅館
笹尾桂子



本坂屋
磯田光一



割烹旅館おかもと
岡本康治



フライダルブロードニュースカレン
フライダルブロード
ウエスト
櫻井彩子



御前酒蔵元辻本店
辻総一郎



有限会社向井林業
向井王則



(二社)コミュニティデザイン
甲田智之



農産物卸売センター
三村伸行



有限会社株式会社クワンシー
小林督治



きよとろカフェ
和田ひろみ



きよとろカフェ
谷本吉照



索引

の		
野崎 天我		P47
は		
橋本 健太郎・橋本 未帆		P98
林 佳吾		P11
原田 喜市		P118
ひ		
樋口 基広		P103
平泉 繁		P8
平田 晋太郎		P59
廣田 千鶴子		P82
ふ		
深井 英俊		P132
藤田 亮太		P73
藤本 耕司		P48
二若 弥生		P116
ほ		
朴 優一・権 奈美		P121
本田 陽哉		P138
ま		
楳本 加奈子		P106
松尾 圭一郎		P95
松尾 敏正		P43
松岡 玲		P71
松葉 俊幸		P69
三浦 弘嗣		P41
み		
三鴨 裕太		P139
美馬 準・福岡 義樹		P35
三牧 慎人・三牧 流奈		P119
三村 伸行		P18
む		
向井 王則		P80
村岡 誠介		P114
村松 冬喜		P78
も		
藻谷 浩介		P156
持徳 浩太		P93
元井 哲也・元井 真由美		P99
森年 雅子		P72
や		
山岡 知子		P91
山岡 宏充		P83
山口 浩		P32
山崎 樹一郎		P64
山崎 亮		P146
山田 耕平		P141
山田 強		P89
山田 遼平		P133
山本 秀伸		P26
山本 美智夫		P14
ゆ		
雷江 祥貴		P111
行藤 宜央		P45
よ		
横辺 浩樹		P100
り		
李 曼珊		P153
わ		
和田 義海		P20
和田 ひろみ		P21

河野 晃登		P57
河野 尚基		P56
河野 文雄		P11
小谷 剛璋		P112
後藤 龍二・後藤 孝江		P123
小林 建太		P15
小林 督治		P19
小谷野 智恵		P42
さ		
坂本 茂樹		P137
坂本 信広		P10
櫻井 彩子		P54
櫻井 新吾		P74
笹尾 桂子		P81
笹野 寛		P143
佐田 時信		P27
佐藤 功・佐藤 由紀子		P86
澤本 正太		P92
し		
柴田 祥子		P68
清水 雅和		P12
鄭 相坤		P152
す		
杉本 喜美恵		P85
スケンバリ ありさ		P107
鈴木 宏志		P24
住田 明大		P62
せ		
関根 龍一・天満 のどか		P140
瀬崎 景巳・川添 元樹		P46
妹島 和世		P145
た		
高田 典平		P150
高橋 裕亮・高橋 鈴奈		P101
高峰 秀光		P25
竹井 僚		P65
竹本 康紀		P142
谷本 吉照		P6
ち		
千葉 智明		P127
千布 拓生		P124
つ		
辻 総一郎		P39
辻 麻衣子		P44
津村 宏臣・大原 真菜美		P16
て		
ディロング・デービッド		P122
と		
道満 洋和		P22
土肥 真由美		P113
富岡 美千男		P23
富永 翼・富永 千津		P55
な		
中川 正樹		P88
永田 春樹		P76
永田 穂波		P147
中村 賢士郎		P102
に		
西田 夏子		P70
にしばらへず		P36
新田 宙司		P115

あ		
Art group mo		P28
浅野 彩		P67
芦川 巖		P131
楢松 裕司		P151
い		
筏 孝生・筏 将大		P63
池田 公博		P104
池田 光真		P49
池本 顕子		P30
石井 裕隆		P154
石賀 真代		P109
出雲井 暁子		P66
磯田 光一		P126
磯田 天将・磯田 つくし		P75
磯田 学		P51
伊藤 忠司		P33
伊藤 大誠		P155
稲田 一憲		P50
稲田 文夫		P87
稲田 萌依		P129
岩佐 佳奈		P135
岩佐 隆志		P134
う		
植木 啓司		P110
上田 雄喜		P136
白井 崇来人・白井 幸		P128
上塩 浩子		P97
え		
NPO 法人真庭あぐりガーデン プロジェクト		P31
NPO 法人吉縁起協議会		P37
お		
大倉 満雅・大倉 和子		P90
大西 舞		P58
大橋 和生		P29
大山 貴志・大山 泉		P77
岡田 堅二郎		P120
岡本 康治・岡本 優衣		P53
小河原 龍基		P96
落 昇		P7
か		
風早 将		P108
加戸 義和		P9
門野 由貴		P84
金田 久克		P13
株式会社阪急阪神百貨店 GREEN AGE		P148
亀山 尚		P117
川元 一将		P26
く		
黒田 和美		P60
黒田 眞路		P130
こ		
甲田 智之		P40

編集スタッフ

原稿執筆

甲田 智之

作家・(社)コミュニティ
デザイン

編集・デザイン・取材

三原 鉄平

岡山県立大学
デザイン学部 教授

朝日 貫太

岡山県立大学
デザイン学部 四年生

石川 純名

岡山県立大学
デザイン学部 四年生

牛尾 勇太

岡山県立大学
デザイン学部 四年生

塩尻 真那

岡山県立大学
デザイン学部 四年生

高山 夏摘

岡山県立大学
デザイン学部 四年生

事務局・取材

一般社団法人

真庭観光局

スタッフ一同

本冊子の制作にあたり、2025年6月1日よりクラウドファンディングを実施し、総額1,280,000円(126名)のご支援をいただきました。ご支援くださった皆さま、また周知にご協力くださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

編集後記

前号「真庭の人びと2022」から「真庭にはまだまだ魅力的な人がたくさんいる」と思っていたので、今回140名以上の方を紹介できて嬉しいです(まだたくさんいるのですが笑)。執筆を進める中で、真庭の人って一人ひとり「文化」を担っていて、それが真庭の面白さなのかもと思うことが多々ありました。特産品も行事も食も、真庭ならではの暮らしも。この冊子は「出会いのきっかけ」です。「読む」からそんな真庭の人たちに「会ってみたい」と思い、やがて「実際に会う」となることを願っています。最後に、関わってくくださった皆様、ありがとうございました。

甲田 智之

真庭市・新庄村を訪れた方に限らず、現に住まれている方、地域の外に移り住んだ方にとっても、地域に思いを馳せ、愛着や誇りを持ち、あるいは望郷の念に駆られるようなきっかけになってほしい。新たに追加された「真庭な人びと」のページには、関わり方は異なっても、この地域を愛する人たちの想いが込められています。

真庭市・新庄村に暮らす多くの人びとと、まだ見ぬ「真庭な人びと」の奇跡的な出会いによって、この地域がさらに「光る」……この冊子が一助・きっかけになれば、これほど嬉しいことはありません。御助力いただいた皆様、ありがとうございました。

伊藤 大誠



かつて、蒜山は湖だった。激しい火山活動によって、100万年前に誕生した蒜山三座。前後して、蒜山湖が生まれたという。さらに時を経て、35万年前に大山が噴火。ダイナミックな地形の変化が起こり、山陰へ流れていた川が山陽へとその流れを変えた。蒜山湖は消滅したが、山陰と山陽の分岐点となり、多様性を受け入れた「ここだけ」の文化が生まれた。悠久の時をかけて育まれた、真庭の清らかな水は、蒜山湖に縁をもつ。湯原温泉、勝山の町並み、久世のにぎわい。流れとともに美しい景観と文化を生み出していった。そしてその水で、人々はみずみずしい野菜をつくり、果物を育み、酒をこしらえた。ひとつひとつの味覚すべてに、神秘的ともいえる「100万年の深み」が感じられる。まさに、100万年のギフトである。否、まだたった100万年に過ぎない。蒜山に広がる夜明け前の雲海が、かつての蒜山湖を呼び起こさせる。これから先もずっと、あなたへの「おくりもの」であるように。

真庭の人びと vol.2

初版発行 令和8年3月吉日

著者：甲田 智之

発行者：石賀 幹浩

発行所：一般社団法人 真庭観光局

Tel. 0867-45-7111

Fax. 0867-44-3002

HP. <https://www.maniwa.or.jp>

印刷所：日宝総合製本株式会社

※本書を無断で複写複製、転載、データ配信、オークション出品等を行うことを、固く禁じます。

※本書は、真庭市及び新庄村の魅力を伝えるための住民紹介冊子です。掲載者のプライバシーには、十分にご配慮ください。

※本書の掲載情報は、2026年3月時点の内容です。

